2011・2013年度
埋蔵文化財発掘調査報告書

川合遺跡大西地区第2次

薬井北山地区試掘

大輪田・城内遺跡第2次

高山3号墳（高山塚3号古墳）第2次

例　言

1．本書は平成23（2011）年度及び平成25（2013）年度に河合町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けて実施した川合遺跡大西地区、薬井北山地区試掘、大輪田・城内遺跡、高山3号墳（高山塚3号古墳）の発掘調査報告書である。

2．川合遺跡大西地区の現地調査は平成24年2月13日に開始し、平成24年2月16日に終了した。
薬井北山地区試掘調査の現地調査は平成24年2月13日に開始し、平成24年3月14日に終了した。
大輪田・城内遺跡の現地調査は平成25年8月5日に開始し、平成25年10月9日に終了した。
高山3号墳(高山塚3号古墳)の現地調査は平成25年10月28日に開始し、平成25年11月14日に終了した。

3．調査組織は次のとおりである。

調 査 主 体　河合町教育委員会
調査担当者　河合町教育委員会事務局　教育部生涯学習課　吉村公男
調査補助員　石松智子
調査事務局　河合町教育委員会事務局，教育部生涯学習課　生涯学習係（文化財担当）
平成23年度
教育長・藤岡和成　教育次長・井筒匠　課長・木村光弘（～6/30）　上村欣也（7/1～）
課長補佐・西浦清繁　調整員・吉村公男　主査・吉川勝広
平成25年度
教育長・竹林信也　教育部長・井筒匠　課長・上村欣也　課長補佐・吉村公男
係長・山口登美子　主査・吉川勝広　臨時職員・浅川早紀、石松智子

4．川合遺跡大西地区及び薬井北山地区の発掘作業は株式会社アートに委託した。また、薬井北山地区の測量は株式会社シードコンサルタントに委託した。
大輪田・城内遺跡及び高山3号墳（高山塚3号古墳）の発掘作業は安西工業株式会社に委託した。

5．写真は吉村が撮影した。

6．本書を作成するにあたり下記の諸機関並びに諸氏のご指導･ご協力いただいた。ここに記して謝意を表する。
奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、奈良県内市町村埋蔵文化財担当者連絡協議会、学校法人西大和学園、吉田栄治郎、辰巳和弘、弓戸猛、辻井賢治、岡田伊平、米山英、森川勲、元田親房、田野瀬太樹、安楽寺、臼田淳三、稲葉清、植田正廣、江崎正治、植田和男、山本八重子、佐藤良二、加藤一郎、和田一之輔　（敬称略、順不同）

7．図2は国土地理院発行の1：25,000地形図「信貴山」（平成13年7月1日発行）及び「大和高田」（平成14年4月1日発行）をもとに作成した。図3・6・10・16は河合町発行の1：2,500河合町全図1・3（平成16年3月　修正版）をもとに作成した。

8．土層の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖22版』に拠った。

9．発掘調査により出土した遺物、及び図面・写真等の記録類の全ては河合町教育委員会で保管している。

10．遺物の整理及び本書の作成は吉村、石松が行った。

11．本書の執筆・編集は吉村が行った。

本文目次

1．2011・2013年度の埋蔵文化財発掘調査について ……1
2．川合遺跡地区の調査
（1）はじめに ……2
（2）遺構 ……2
（3）遺物 ……2
（4）まとめ ……2

3．薬井地区試掘調査
（1）はじめに ……4
（2）遺構 ……4
（3）遺物 ……8
（4）まとめ ……8
4．大輪田・城内遺跡第２次調査
（1）はじめに ……9
（2）遺構 ……9
（3）遺物 ……13
（4）まとめ ……13

5．高山３号墳（高山塚３号古墳）第２次調査
（1）はじめに ……15
（2）遺構 ……15
（3）遺物 ……17
（4）まとめ ……17

挿図目次

図１　河合町の位置 …… 1
図２　2011・2013年度調査地位置図 …… 1
図３　川合遺跡大西地区調査地位置図 …… 2
図４　川合遺跡大西地区調査トレンチ平面図及び土層断面図 …… 3
図５　川合遺跡大西地区出土遺物 …… 3
図６　薬井北山地区調査地位置図 …… 4
図７　薬井北山地区調査トレンチ配置図 …… 4
図８　薬井北山地区調査トレンチ平面図及び土層断面図（１）…… 5～6
図９　薬井北山地区調査トレンチ平面図及び土層断面図（２）…… 7
図10　薬井北山地区出土遺物 …… 8
図11　大輪田・城内遺跡調査地位置図 …… 9
図12　大輪田・城内遺跡調査トレンチ配置図 …… 10
図13　大輪田・城内遺跡調査トレンチ平面図及び土層断面図 …… 11
図14　大輪田・城内遺跡出土遺物（１）…… 12
図15　大輪田・城内遺跡出土遺物（２）…… 13
図16　高山３号墳調査地位置図 …… 15
図17　高山３号墳墳丘測量図及び調査トレンチ配置図 …… 15
図18　高山３号墳調査トレンチ平面図及び土層断面図 …… 16
図19　高山３号墳出土・採集遺物（１）…… 18
図20　高山３号墳出土・採集遺物（２）…… 19
図21　高山３号墳出土・採集遺物（３）…… 20
図22　大塚山古墳群出土・採集遺物（１）…… 21
図23　大塚山古墳群出土・採集遺物（２）…… 22
図24　大塚山古墳群出土・採集遺物（３）…… 23
図25　大塚山古墳群出土・採集遺物（４）…… 24
図26　大塚山古墳群出土・採集遺物（５）…… 25
図27　大塚山古墳群出土・採集遺物（６）…… 26

表目次

表１　川合遺跡大西地区　掲載遺物一覧 …… 3
表２　薬井北山地区　掲載遺物一覧 …… 8
表３　大輪田・城内遺跡　掲載遺物一覧 …… 14
表４　高山３号墳　掲載遺物一覧 …… 27～30

写真図版目次

カラー写真図版１　①高山３号墳（手前）と高山２号墳（左奥）・中良塚古墳（右奥）
②高山３号墳と大塚山古墳（左奥）
カラー写真図版２　赤色顔料の残る大塚山古墳群出土・採集埴輪
写真図版１　川合遺跡大西地区　①調査前（東から）
②掘削状況（東から）
写真図版２　川合遺跡大西地区　①掘削状況（西から）
②出土遺物
写真図版３　薬井北山地区　①調査前（東から）
②第６トレンチ付近調査前（東から）
③第１トレンチ調査前（東から）
写真図版４　薬井北山地区　①第１トレンチ（西から）
②第２トレンチ（西から）
③第３トレンチ（南から）
写真図版５　薬井北山地区　①第４トレンチ（北から）
②第５トレンチ（北から）
③第６トレンチ（東から）
写真図版６　薬井北山地区　①第７トレンチ（西から）
②第７トレンチ須恵器出土状況（西から）
③第７トレンチ拡張後（南から）
写真図版７　薬井北山地区　①第８トレンチ（南から）
②第９トレンチ（西から）
③出土遺物
写真図版８　大輪田・城内遺跡　①調査前（北から）
②第１トレンチ調査前（北東から）
③第１トレンチ表土除去後（北東から）
写真図版９　大輪田・城内遺跡　①第１トレンチ掘り下げ状況（北から）
②第２トレンチ掘り下げ状況（東から）
③建物撤去後（北から）
写真図版10　大輪田・城内遺跡　①建物撤去後の基壇（北東から）
②第３トレンチ・第４トレンチ（東から）
③第３トレンチ・第４トレンチ（北から）
写真図版11　大輪田・城内遺跡　①第３トレンチ１区　土壙（西から）
②第３トレンチ・第４トレンチ（北から）
写真図版12　大輪田・城内遺跡　①第３トレンチ１区　礎石１据え付け痕（西から）
②第４トレンチ１区　盛土状況
③第４トレンチ２区（北東から）
写真図版13　大輪田・城内遺跡　①第４トレンチ２区　礎石列（東から）
②第４トレンチ２区　礎石２（南から）
③第４トレンチ２区　礎石２（北から）
写真図版14　大輪田・城内遺跡　①第４トレンチ２区　礎石３（北から）
②第４トレンチ２区　礎石４（北から）
③第４トレンチ２区　礎石４　据え付け痕跡検出状況

写真図版 15　大輪田・城内遺跡　①第４トレンチ２区　礎石４（北から）
②第４トレンチ２区　礎石４　礫除去後（北から）
③第４トレンチ２区　礎石４　礫除去後（南から）
写真図版 16　大輪田・城内遺跡　出土遺物（１）
写真図版 17　大輪田・城内遺跡　出土遺物（２）
写真図版 18　高山３号墳　①高山３号墳と周辺の古墳（西から）
②高山２号墳（左）と高山３号墳（中央）（北から）
③調査前（北から）
写真図版 19　高山３号墳　①完掘状況（北から）
②第１トレンチ（北西から）
③第１トレンチ拡張区（西から）
写真図版 20　高山３号墳　①第１トレンチ（北から）
②第２トレンチ（北から）
③第２トレンチ（南・墳丘から）
写真図版 21　高山３号墳　出土・採集遺物（1）
写真図版 22　高山３号墳　出土・採集遺物（2）
写真図版 23　高山３号墳　出土・採集遺物（3）
写真図版 24　高山３号墳　大塚山古墳群出土・採集遺物（1）
写真図版 25　高山３号墳　大塚山古墳群出土・採集遺物（2）
写真図版 26　高山３号墳　大塚山古墳群出土・採集遺物（3）
写真図版 27　高山３号墳　大塚山古墳群出土・採集遺物（4）
写真図版 28　高山３号墳　大塚山古墳群出土・採集遺物（5）
写真図版 29　高山３号墳　大塚山古墳群出土・採集遺物（6）
写真図版 30　高山３号墳　大塚山古墳群出土・採集遺物（7）

1．2011・2013年度の埋蔵文化財発掘調査について

2011（平成23）年度には川合遺跡小字大西地区および薬井小字北山地区における調査を実施した。現地調査が年度末に及んだことから、報告書作成に至らなかった。

2013（平成25）年度は2件の発掘調査を実施した。大輪田・城内遺跡第2次調査、及び高山3号墳第2次調査である。大輪田・城内遺跡の調査は、2007（平成19）年度の調査を第1次調査とし、今回の調査を第2次調査とした。また、高山3号墳の調査は1991（平成3）年度の調査を第1次調査とし、今回の調査を第2次調査とした。

本報告書に掲載した4件の調査は全て開発に伴う緊急発掘である。4件中の2件は個人住宅建設に伴う調査であり、調査面積も狭小なものであったが、それぞれの調査で各遺跡における新知見を得ることができた。

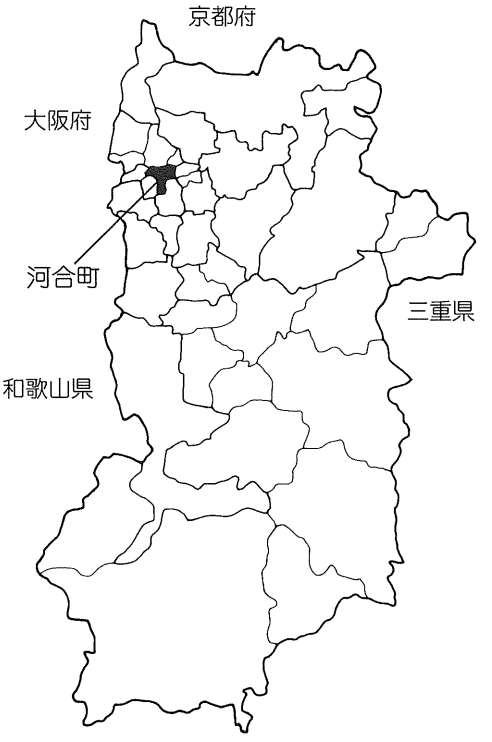
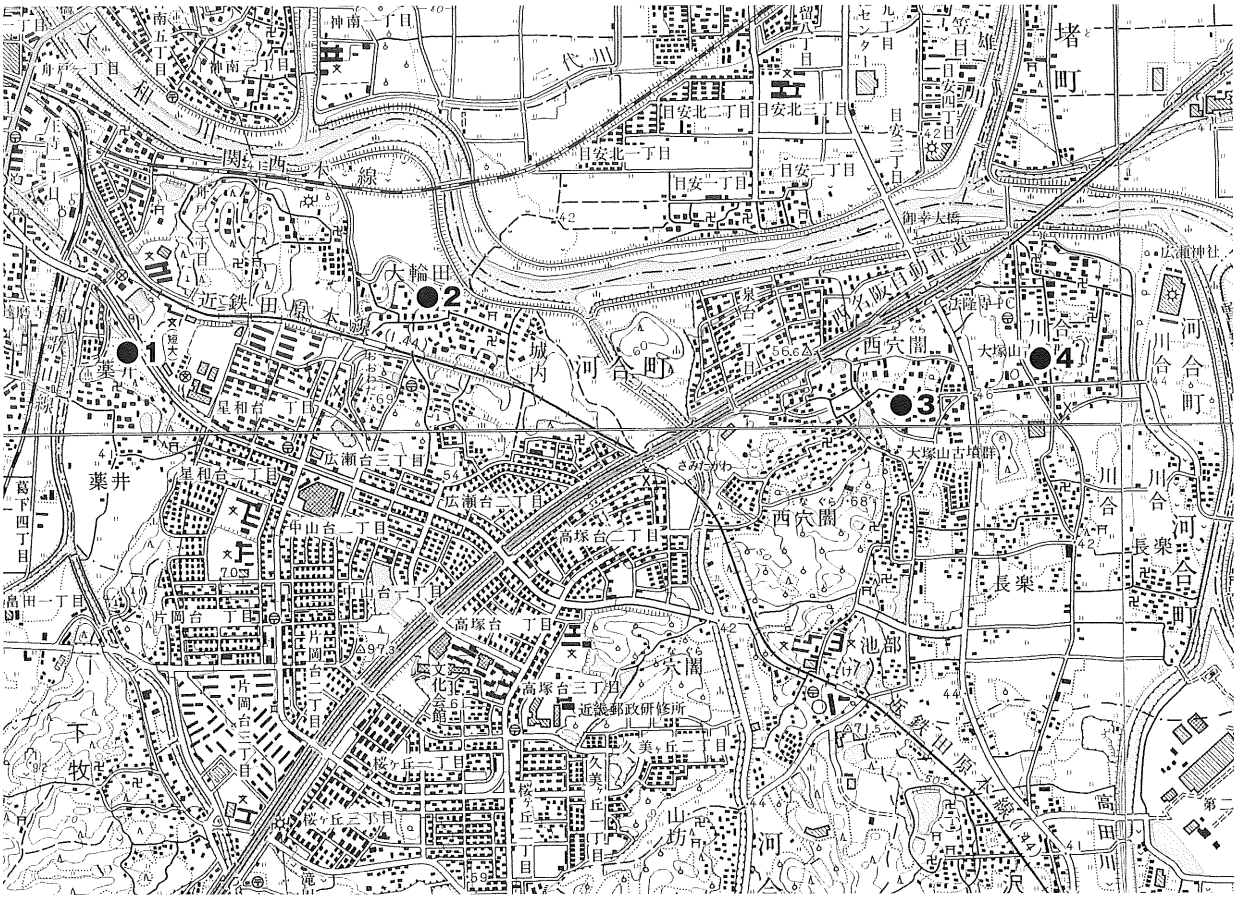


図1　河合町の位置



1薬井北山地区　2大輪田・城内遺跡　3高山3号墳　4川合遺跡大西地区

図2　2011・2013年度調査地位置図

2．川合遺跡大西地区の調査

（1）はじめに

今回の調査地は、『奈良県遺跡地図』に「10B－20」と記載されている遺物散布地の範囲内に位置する。当該地において専用住宅の建て替えが計画され、建築面積の５％を超える柱状改良（深さ３m）を伴うため、工事に先立つ調査として発掘調査を実施した。狭小な面積であり、微細な遺物の採集も考慮し、全て人力により作業を行った。断ち割りにより深さ 120cm までの状況を確認したが、地盤が軟弱であることや、天候の影響を考慮し、地山までの掘削を行わなかった。調査終了後、工事着工までの安全を考慮し埋め戻した。

ところで、平成 18 年度に今回の調査地の南 60m の地点で専用住宅建設に伴う発掘調査を実施し、川合大西遺跡として報告している[註1]。この城山古墳を中心に広がる遺物散布地の範囲、内容はまだ明らかになっていない。市場地区及び城古地区にまたがるところから遺跡名としては「川合遺跡」あるいは「川合遺跡群」とすべきであろう。今後の周辺地域での発掘調査の進展に伴い、各調査地での遺跡の内容が明らかにされ、それぞれの調査地間のつながりが明確になるまでの仮称として、「川合遺跡○○地区」という呼称を用いることとする。

註１）『2005・2006・2007 年度埋蔵文化財発掘調査報告書－河合町文化財調査報告書　第 20 集―』2008 年　河合町教育委員会

（2）遺構

今回の調査では明確な遺構は検出していない。既存建物に伴う整地層（2 層・3 層）は地表面からの攪乱が著しく、東側では旧耕作土（6 層）の下の層位にまで及んでいる。6 層の下層はさらに古い耕作土層（7 層）であり、須恵器、埴輪、瓦器、羽釜等の遺物を含む包含層となっている。

（3）遺物

遺物包含層中から石包丁と思われる石器が出土した。河合町内では舟戸・西岡遺跡で古くから石包丁が採集されているといわれているが、町教育委員会による発掘調査に伴って出土したのは今回が初めてである。後世に転用され、小孔が２か所に開けられている。一方は穿孔時もしくは穿孔後に割れてしまったようである。用途は不明である。

（4）まとめ

調査区の中央より西側で水田耕作土層を確認した。調査地の東側道路が古くからの道であり、西側を通り御幸橋を経て斑鳩町域に至る県道は近代に整備された道路であるが、昭和39年当時も調査地と県道の間は水田として利用されていた。調査地の半ばから東は一段高くなり、古くからの道に接する部分が宅地や畑として利用されていたものと考えられる。

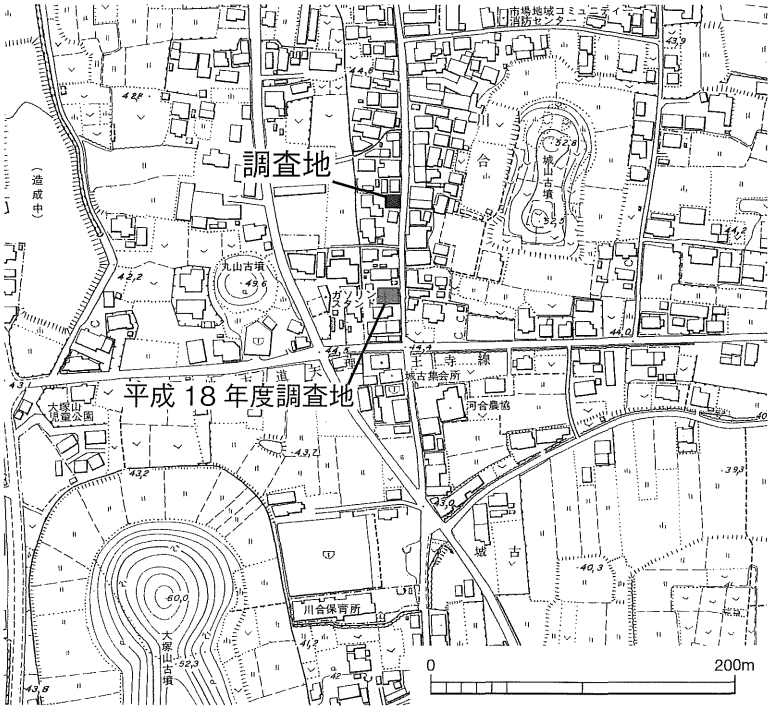
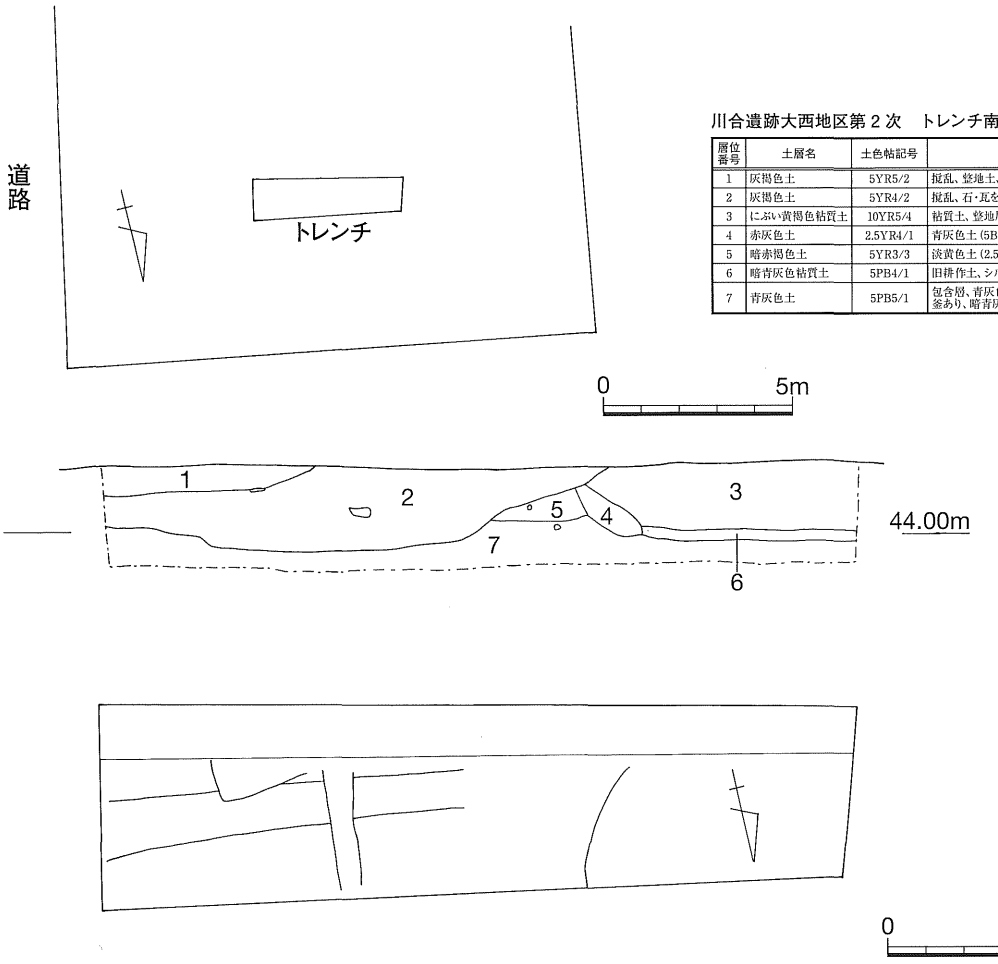


図３　川合遺跡大西地区調査地位置図



川合遺跡大西地区第２次　トレンチ南壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	灰褐色土	5YR5/2	撹乱、整地土、粒子細かい
2	灰褐色土	5YR4/2	撹乱、石・瓦を含む
3	にぶい黄褐色粘質土	10YR5/4	粘質土、整地層（古）、明黄褐色土（10YR7/6）塊
4	赤灰色土	2.5YR4/1	青灰色土（5B5/1）塊、やや砂質
5	暗赤褐色土	5YR3/3	淡黄色土（2.5Y8/4）粘土塊
6	暗青灰色粘質土	5PB4/1	旧耕作土、シルト、粘質
7	青灰色土	5PB5/1	包含層、青灰色粘質土を筋状に含む、須恵器・埴輪・瓦器・羽釜あり、暗青灰色土（5PB4/1）塊

図４　川合遺跡大西地区調査トレンチ平面図及び土層断面図

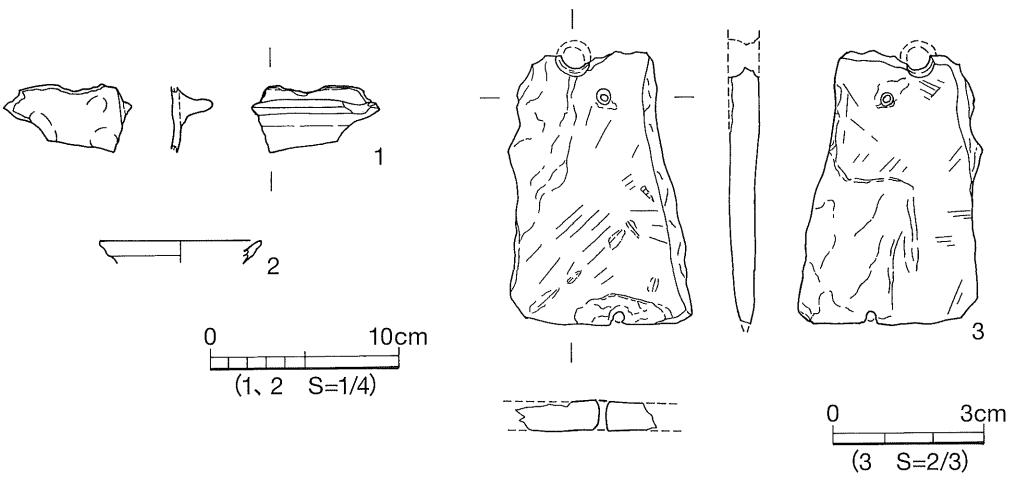


図５　川合遺跡大西地区出土遺物

挿図番号	図版番号	遺物名	特　　徴	遺物台帳ラベル番号
5-1	2-1	土師器 羽釜	【法量】残存高：3.5cm　【色調】外面：灰白（10YR8/2）・黒褐（10YR3/2）、内面：黄橙（10YR7/2）【胎土】密、径1mm以下の石英・長石・黒色砂粒を少量含む　【焼成】良好　【その他】貼り付け凸帯　外面に煤付着　ナデ調整	KON ②-4
5-2	2-2	土師器　皿	【法量】残存高：1.15cm　復元口径：8.4cm　【色調】にぶい黄橙（10YR7/3）　【胎土】密、径1mm以下の石英・雲母を少量含む　【焼成】良好　【調整】ナデ	KON ②-2
5-3	2-3	石製品　石包丁転用品	【法量】3.65cm×5.35cm、厚さ0.6cm、重量17ｇ　【石材種類】結晶片岩　割れた石包丁を転用し、2か所に小孔を穿っているが、一方の小孔部で穿孔時又は穿孔後に欠損している。	KON ②-3

表１　川合遺跡大西地区　掲載遺物一覧

3．薬井北山地区の試掘調査

（1）はじめに

当該調査は平成23年10月6日付けにて学校法人西大和学園より提出された遺跡有無確認踏査願に対し、平成23年10月24日付けにて奈良県教育委員会教育長より河合町教育委員会教育長宛に踏査の依頼があった。平成23年11月11日付けにて踏査の報告を行った。その結果、平成23年12月1日付けにて奈良県教育委員会教育長より申請者に対して試掘調査が必要である旨の通知をされたことにより、申請者と河合町教育委員会とで協議し、遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施した。

調査は山林部を中心に9か所の調査区（トレンチ）を設定し、人力により掘削を行った。調査終了後、造成工事着工までの間の事故防止のためすべてのトレンチを埋め戻した。

（2）遺構

今回の調査では明確な遺構は検出していない。

昭和34年の地形図を見ると、第1トレンチ西側の傾斜面より西は大きく削平されていることがわかる。第1トレンチを設定した平坦面についても昭和40年代の造成の切土による地形であることが推測されたが、本来の高さが不明であるため、調査に及んだ。第1・2・3・7トレンチでの調査の結果、踏査時に確認された土塁状の地形については、地山を削り出したものであり、

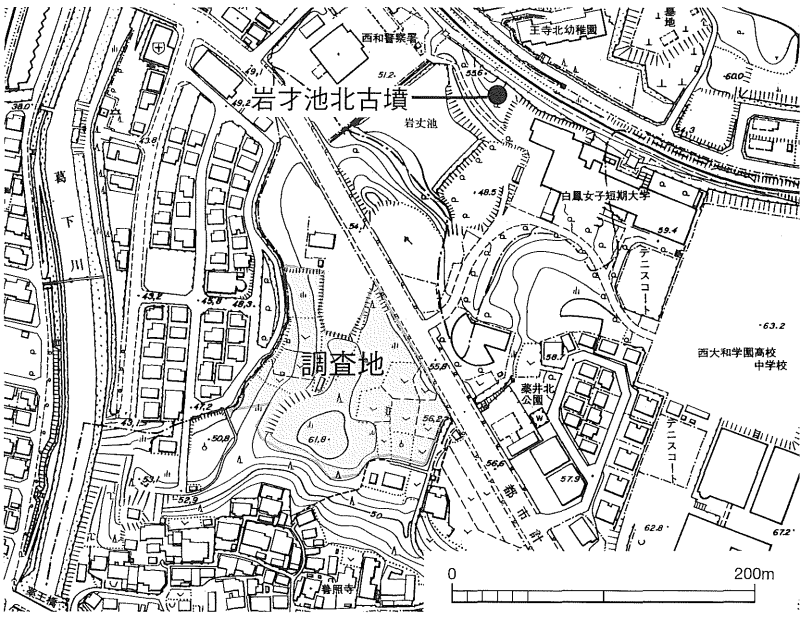


図6　薬井北山地区調査地位置図

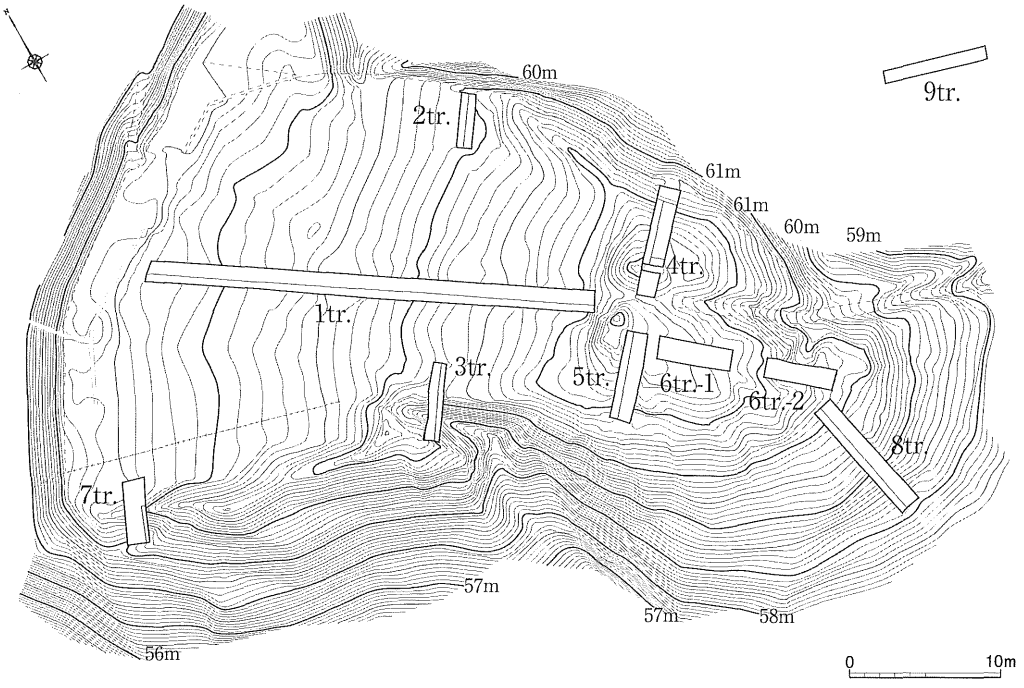
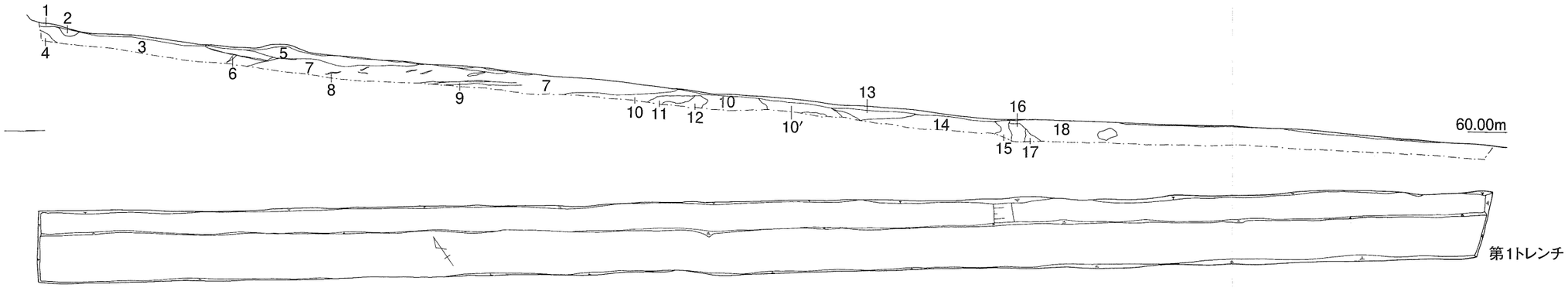


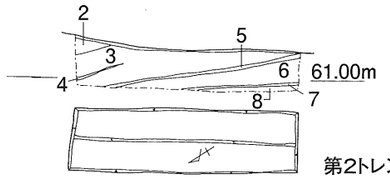
図7　薬井北山地区調査トレンチ配置図



薬井北山地区　第1トレンチ南壁

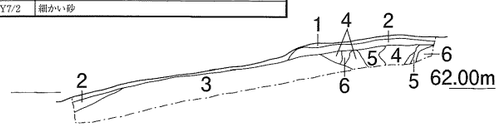
層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	5YR3/1	表土
2	赤褐色土	5YR4/8	粗い砂
3	黄橙色土	10YR8/6	やや粗い砂
4	にぶい黄橙色土	10YR6/4	細かい砂礫、灰色土（7.5Y5/1）砂が筋状に入る
5	にぶい褐色土	7.5YR5/4	細かい砂を含む土
6	明赤褐色土	5YR5/6	やや粗い砂が塊で入る
7	浅黄色土	2.5Y7/4	細かい砂
8	橙色土	7.5YR6/8	明るい鉱物層がところどころに細く入る
9	浅黄色土	2.5Y7/4	粗い小石層が入る
10	灰白色土	7.5Y7/1	粗い砂

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
11	橙色土	7.5YR6/6	粘土
12	灰色土	7.5Y6/1	シルト
13	灰白色土	7.5Y7/1	粗い砂
14	淡黄色土	2.5Y8/3	細かい砂
15			褐色
16	灰色土	7.5Y6/1	粘土
17	橙色土	7.5YR6/6	粘土
18	明黄褐色土	10YR6/6	砂質土を主体とし、ところどころに粘土、砂の塊が入る



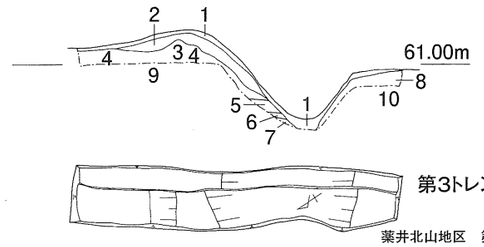
薬井北山地区　第2トレンチ東壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	7.5YR3/2	表土
2	明黄褐色土	10YR6/8	細かい砂
3	明黄褐色土	10YR7/6	やや粗い砂、浅黄橙色土（10YR8/4）の粗砂混じる
4	灰白色土	2.5Y7/1	細かい砂質粘土、灰白色粘土
5			砂礫層
6	淡黄色土	2.5Y8/4	細かい砂
7			黄橙色土（7.5YR7/8）が混じる粗砂、砂礫層
8	灰黄色土	2.5Y7/2	細かい砂



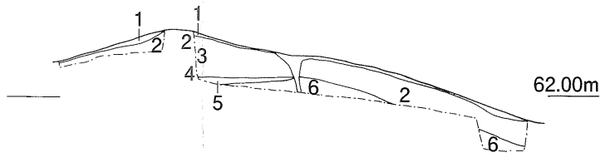
薬井北山地区　第5トレンチ東壁

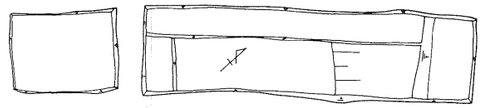
層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	5YR3/1	表土
2	明黄褐色土	2.5Y7/6	竹根による撹乱
3			粗い砂と細かい砂が混じる、6層と7層が混じる
4	黄色土	2.5Y8/8	やや粗い砂
5	明黄褐色土	2.5Y6/6	細かい砂、木根による撹乱
6	浅黄色土	2.5Y7/4	細かい砂
7	明黄褐色土	2.5Y7/6	粗い砂



薬井北山地区　第3トレンチ東壁

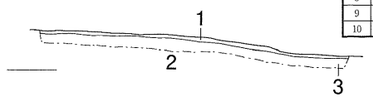
層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	7.5YR3/2	表土、腐葉土
2	淡黄色土	2.5Y8/4	竹根による撹乱土
3	浅黄橙色土	7.5YR8/6	白石・砂礫を含む粗い砂
4	明黄褐色土	10YR7/6	やや粗い砂層
5	灰白色土	10Y7/1	細かい粘土、密、淡い青灰色粘土
6	明赤褐色土	5YR5/8	暗赤褐色砂、硬い、粗い砂
7	明黄褐色土	2.5Y7/6	細かい砂、しまる
8	淡黄色土	2.5Y8/4	竹根による撹乱土、2層と同様
9	灰白色土	2.5Y7/1	第2トレンチ4層と同様
10	明黄褐色土	10YR7/6	4層と同じ

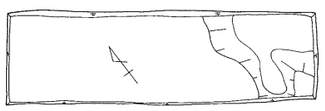


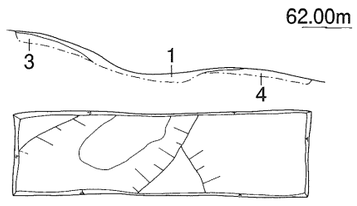


薬井北山地区　第4トレンチ東壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	5YR3/1	表土
2	暗赤褐色土	5YR3/6	細かい砂を含む、堆積土
3	にぶい赤褐色土	5YR4/4	砂を含む、4層に近似
4	明赤褐色土 明黄褐色土	5YR5/8 10YR6/8	黒褐色土（10YR2/3）の小石を含む　締まった砂質土
5	明黄褐色土	10YR6/8	粘質土
6	明黄褐色土	2.5Y6/6	灰色土（7.5Y6/1）粘土を含む、粘質土



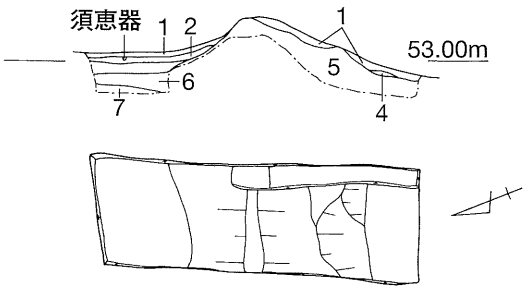




薬井北山地区　第6トレンチ東壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	5YR3/1	表土
2	明赤褐色土	5YR5/6	細かい砂質土、ところどころに暗赤褐色土（2.5YR3/6）
3	明黄褐色土	2.5Y7/6	
4	明黄褐色土	2.5Y7/6	粗い砂

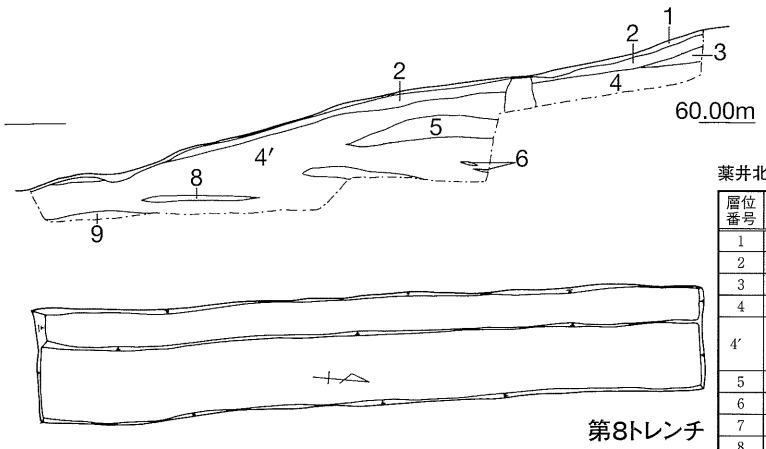
図8　薬井北山地区調査トレンチ平面図及び土層断面図（1）



第7トレンチ

薬井北山地区　第7トレンチ東壁

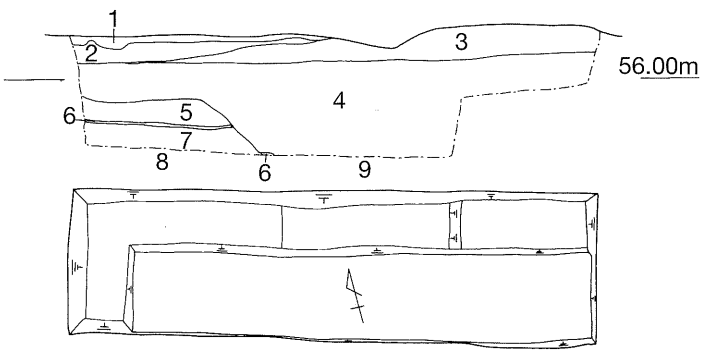
層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	10YR3/1	表土
2	明黄褐色土	10YR7/6	やや細かい砂土、須恵器出土
3	明黄褐色土	10YR6/6	やや粗い砂土
4			粘土
5	黄褐色土	10YR5/6	細かい砂を含む土
6	橙色土	7.5YR7/6	やや粗い砂
7	黒褐色土	7.5YR3/2	細かい砂の層が細く入る



第8トレンチ

薬井北山地区　第8トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	5YR3/1	表土
2	浅黄橙色土	10YR8/4	細かい砂を含む粘質土、根による変質
3	にぶい黄橙色粘質土	10YR7/4	粘質土
4	黄橙色粘質土	10YR8/6	粘質土、灰白色粘土（5Y7/1）を含む
4′	灰黄色土 にぶい黄橙色土 橙色土	2.5Y6/2 10YR5/4 7.5YR6/6	きなこのように細かい粘質土、色調の境がはっきりしない
5	赤褐色土	10R4/4	暗赤褐色、褐鉄鉱の塊が入る
6	橙色土	7.5YR7/6	細かい砂
7	橙色土	7.5YR7/6	細かい砂
8			褐鉄鉱
9	にぶい橙色土	5YR6/4	細かい砂
10	にぶい黄色土	2.5Y6/3	粘質土



第9トレンチ

薬井北山地区　第9トレンチ南壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	赤黒色土	2.5YR2/1	耕作土
2	にぶい黄橙色土	10YR7/4	粘土、整地土
3	灰黄褐色土	10YR5/2	細かい土、耕作土
4	黄橙色土	7.5YR7/8	橙色粘土（2.5YR6/8）とオリーブ黄色粘土（5Y6/3）が塊で入る。5層上面に対応する高さで、上層はよく締まる層で白色の砂・石を含み、下層はやや粘質
5	緑灰色土	10G5/1	粘土
6	黒色土	N2/0	有機質層
7	暗オリーブ灰色土	2.5GY4/1	やや砂質
8	灰オリーブ色土	5Y5/2	細かい粘土
9	黄橙色土	7.5YR7/8	粘土

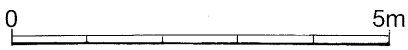


図９　薬井北山地区トレンチ平面図及び土層断面図（２）

平坦面側及び斜面側に土塁状地形に付随するような溝状の遺構は確認されなかった。

第４・５・６・８トレンチの状況から、現尾根頂部の東側は過去の造成が及んでおらず原状をとどめているが、表土下はすぐ地山であり、遺構は検出されなかった。

東側平坦地の状況は第９トレンチにより確認した。この部分は丘陵上の造成によって出た土により谷を埋めたものとの教示を得たが、第９トレンチでも１ｍ以上の盛土が確認されている。盛土（２層）の中には５～30cm程度の輝石安山岩等の石が含まれていた。３層は耕作土である。６層は植物の有機質層で、旧地形の地表面と考えられる。

（３）遺物

第7トレンチの堆積土中から須恵器高坏１点が出土している。また、第3トレンチ付近の表土及び第9トレンチの盛土内から瓦、陶磁器が出土している。1はトレンチ設定のために第1トレンチ付近の清掃に伴い表土中より出土したものである。土師器の坏の口縁と考えられる。2は第7トレンチの北側部分の造成後に堆積した土中から出土したものである。トレンチ中央部の土手上に残された部分から転落したものと考えられる。須恵器高坏の破片で、坏部と脚部の接合部である。古墳時代の須恵器の中でも比較的古い時期のものと考えてもよいであろう。

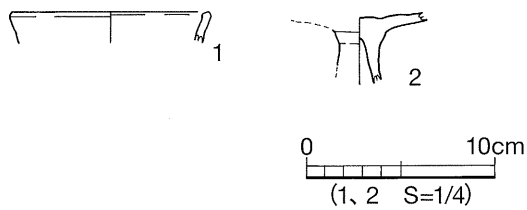


図 10　薬井北山地区出土遺物

挿図番号	図版番号	遺物名	特　徴	出土位置	遺物台帳ラベル番号
10-1	7-1	土師器　坏？	【法量】残存高：1.6cm　復元口径：10.4cm　【色調】にぶい橙（7.5YR7/4）　【胎土】密、径 1mm以下の長石、雲母を少量含む	表土	KKS-2
10-2	7-2	須恵器　高坏	【法量】残存高:3.7cm　脚部基部直径:2.9cm　【色調】外面:灰色(N5/0)、断面:赤灰色(7.5R5/1)　【胎土】密、径 0.5mm以下の長石・雲母を僅かに含む　【焼成】良好	第７トレンチ２層	KKS-4

表２　薬井北山地区　掲載遺物一覧

（４）まとめ

調査地の最高所の西側平坦面の北・東・南側を囲繞するように見られた土塁状の地形は、当該地の山林部が過去に造成された時に形成されたものである。切土を行う際に雨水による土砂の流出を防ぐ目的で周囲を高く残したものと考えられる。第１トレンチ西側では切土の後、若干の盛土を施して、平坦面の整地と西側法面の成形を行ったようである。山林部東側については原状をとどめているが、遺構は全く認められなかった。事業地の東部平坦部は周辺の造成時に切土された土砂を用いて１ｍ以上の盛土を行っている。

第７トレンチの平坦面側堆積土から須恵器高坏が出土したことと、第９トレンチの盛土内から安山岩等の石材が出土していることから、調査地を含む地域に古墳が存在した可能性は高い。しかしながら、過去の開発、造成に伴い既に消滅していると考えざるを得ない。調査地周辺にある古墳としては、北側の白鳳女子短期大学の構内にある岩才池北古墳や葛下川を挟んで西側に位置する達磨寺古墳群、北東側の舟戸山の丘陵上に円墳と考えられるものが知られている。しかし、かつては岩才池北古墳の周辺に５、６基の小円墳があり、小石室を有し、勾玉や金環等が出土したとされている[註2]。

第９トレンチでの土層の観察と地元の方々からご教示頂いた状況を勘案すると、東側低地部分については大きく盛土されていることが明らかであり、遺構が存在するとしても、今回の確認調査の契機となったグラウンド造成による工事が遺構面まで及ぶものではない。

以上、今回の調査の結果から、当該事業計画地における本発掘調査は必要ではないと判断し調査を終了した。

註２）樋口清之「大和の先史原史時代と王寺平野」（保井芳太郎編『大和王寺文化史論』）1937年　大和史學會

4．大輪田・城内遺跡第２次調査

（1）はじめに

当該調査は平成25年度に安楽寺本堂・庫裏建て替えに伴い実施した大輪田・城内遺跡における調査である。既存建物の取り壊しの前後に発掘調査を実施したため調査期間が３月に亘っているが、実働は６日間である。前半の調査では解体前の本堂の東側と北側にトレンチを設定し、東側を第１トレンチ、北側を第２トレンチとした。本堂及び庫裏解体後には、本尊が安置されていた地点を中心に南北方向と東西方向に交差するトレンチを設定し、第３トレンチ及び第４トレンチとした。既存建物解体時には礎石も撤去されており、さらに基壇上面は整地が行われていたため、後半の調査では測量図を基に内陣の本尊安置位置が中心となるよう十字に交差するトレンチを設定し、南北方向を第３トレンチ１区、第４トレンチ１区とし、東西方向のトレンチを第３トレンチ２区、第４トレンチ２区とした。

調査トレンチは狭小な面積であり、微細な遺物の採集も考慮し、全て人力により作業を行った。調査終了後、埋め戻した。

（2）遺構

本堂東側に設定した第１トレンチでは、整地層である１層、表土層の２層の下は橙色粘土の地山である。トレンチ南西隅部では土壙を検出している。また、トレンチ中央部付近では遺物や炭を含む落ち込みを検出しているが、この落ち込みはごく最近まで草を燃やしたりしたものを埋めていたということであり、現代のものである。

第２トレンチでは本堂北側から建物を支える支柱を設置した後の整地の痕跡を確認したのみで、近世以前の遺構は認められなかった。

第３トレンチ１区で検出された礎石据え付け遺構（礎石１）は本堂の柱間間に合致しないものであり、安楽寺の前身であった中村道場に関連するものの可能性もある。

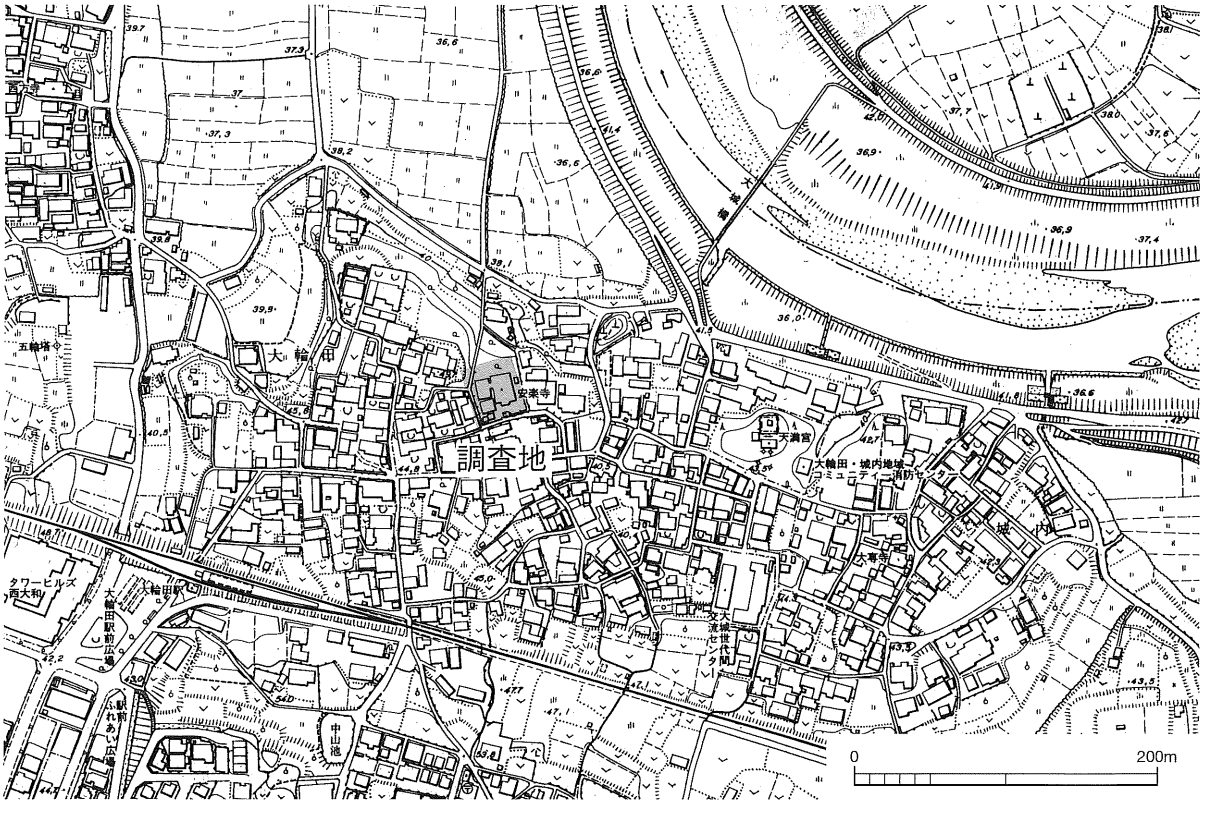


図11　大輪田・城内遺跡調査地位置図

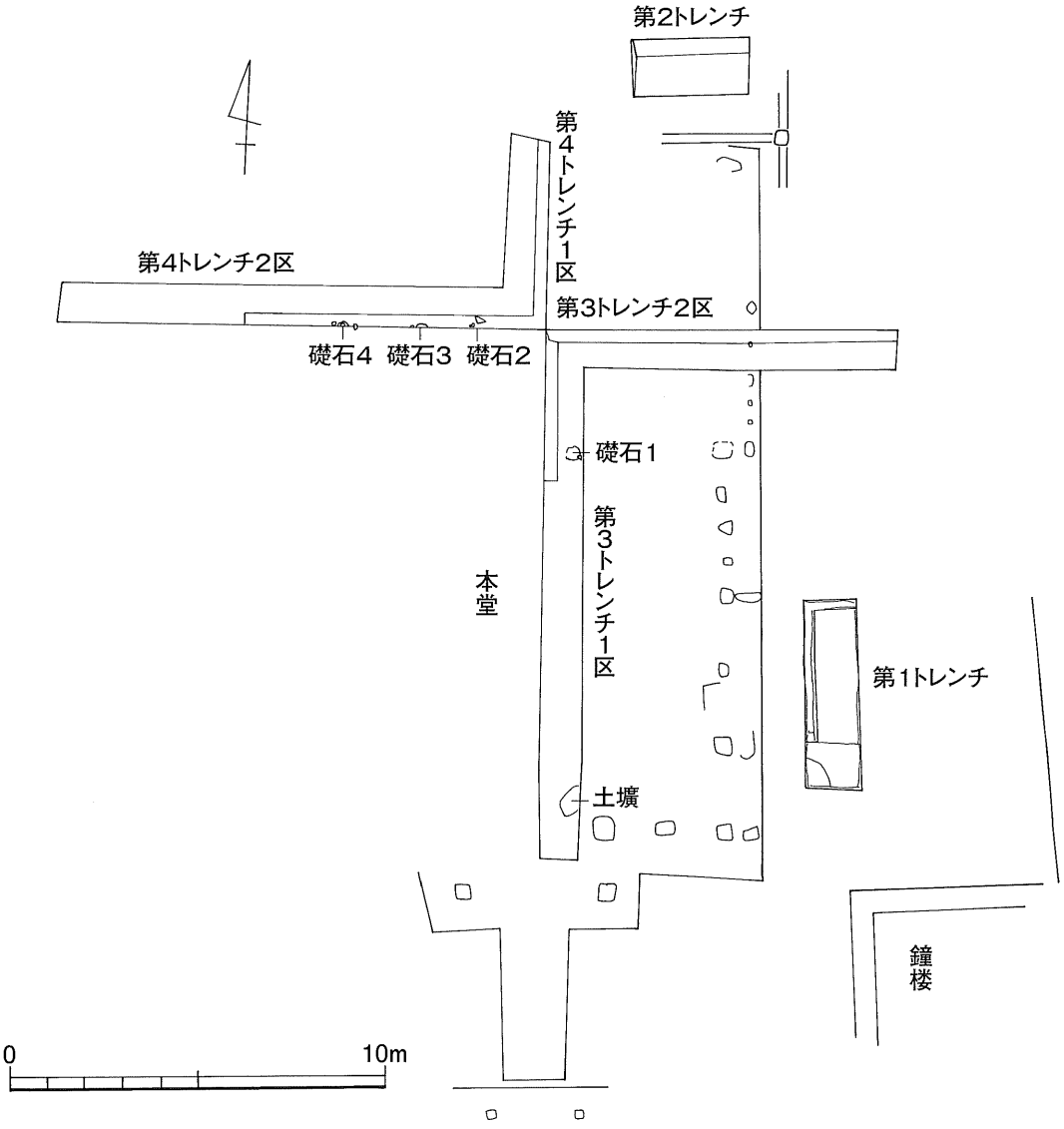
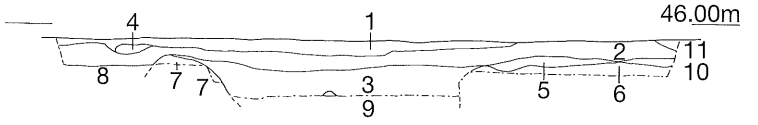


図 12　大輪田・城内遺跡調査トレンチ配置図

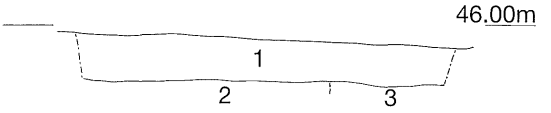
第３トレンチ２区では６層内で瓦器等の遺物が見られ、盛土であることがわかる。第３トレンチと第４トレンチの交点から６メートル東の地点で固く締まる８層が検出されているが、地山の範囲は判然としない。

第４トレンチ２区では３か所の礎石を確認した。礎石２、３は大きな石材ではなく、束柱の礎石かとみられる。礎石４は直接柱を載せていた礎石は解体時に失われており、下部構造としての長さ 50cm 幅 40cmの大石及び礎石を安定させるための径 10cm前後の礫が出土している。第４トレンチ２区の西側では調査時の地表面直下で地山が検出されており、礎石４の西側 2m40cm地点より東の位置で 30cm落ち込んでいることになるが、盛土の始まる位置は取り壊し時の攪乱により判然としない。礎石２・３・４はすべて盛土により造成された基壇上に据えられたものである。特に礎石４は盛土をしながら下の石を据え付け、この石の上面まで盛土を施した後、礫を放射状に並べて、上に乗せる礎石の安定を図っている。礫を並べた時点でさらに盛土を施し、礫の上面で水平面を造成し、これが基壇の上面となる。礫の範囲から考えると上部にあった礎石は直径 40cm 程度と考えられる。この礎石４は本堂内陣西側余間の最も西に位置する柱である。

第４トレンチ１区ではきめの細かい土や砂の層が重なり、南側が高く北側が低い傾斜となっている。このため、南から北に土を流すように盛土されたことがうかがえる。調査期間の都合により、狭い断ち割りでの確認である



第1トレンチ西壁



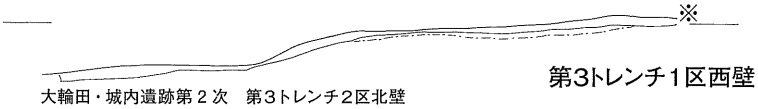
第2トレンチ北壁

大輪田・城内遺跡第２次　第1トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	明黄褐色土	10YR7/6	明黄褐色土を主体とした土、灰白色粘土 (5Y7/2)　橙色砂質土 (7.5YR6/8) を含む
2	黒褐色土	10YR3/1	
3	暗灰黄色土	2.5Y5/2	遺物・炭を多く含む、よく締まる
4	灰白色砂	2.5Y8/2	細かい砂
5	灰白砂質粘土	5Y7/2	黄橙色土 (10YR7/8)、細かい土を含む
6	橙色粘土	7.5YR6/8	筋状に暗赤褐色粗砂土 (2.5YR3/6) を含む、地山
7	灰白色粘土	5Y7/2	下方は明黄褐色粘土 (2.5Y7/6)
8	灰黄色粘質土	2.5Y7/2	粘質土、明赤褐色粘質土 (5YR5/8) 混じり、道構埋土
9	灰黄色砂質土	2.5Y6/2	砂質土　明赤褐色 (5YR5/6) 砂粒を含む
10	褐色土	7.5YR4/3	明褐色土 (7.5YR5/6) を塊で含む、灰白色粘土 (5Y7/2灰白色) を含む
11	浅黄色砂質土	2.5Y7/3	褐色土を含む

大輪田・城内遺跡第２次　第2トレンチ北壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒褐色土	10YR3/3	整地土
2	黄橙色砂質土	10YR7/8	よく締まる
3	にぶい黄褐色土	10YR5/4	砂粒・遺物を多く含む、黒色土あり、木根痕



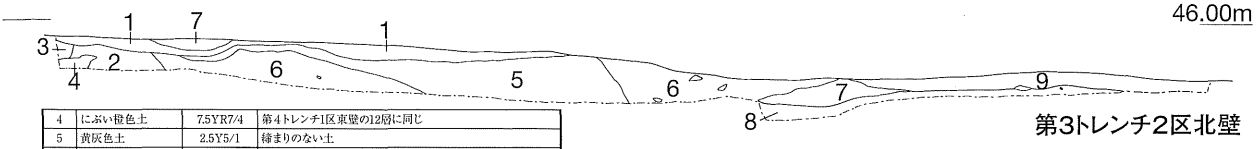
第3トレンチ1区西壁

大輪田・城内遺跡第２次　第3トレンチ1区西壁

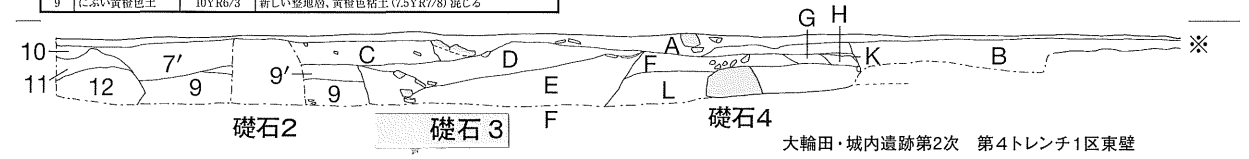
層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	浅黄色土	2.5Y7/3	細かい土
2	黄灰色土	2.5Y4/1	
3	灰白色砂	10YR8/2	粗い砂
3′	橙色砂質土	5YR6/8	きめ細かい砂、粘質土混じる
4			しまった土
5			しまった土
6			表土

大輪田・城内遺跡第２次　第3トレンチ2区北壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黄橙色砂質土	10YR8/6	第4トレンチ1区東壁の9層に同じ
2	褐灰色土 黒褐色土	10YR5/1 7.5YR3/1	第4トレンチ1区東壁の11層に同じ
3			
4	にぶい橙色土	7.5YR7/4	第4トレンチ1区東壁の12層に同じ
5	黄灰色土	2.5Y5/1	締まりのない土
6	にぶい黄色土	2.5Y6/3	締まる、瓦器等の遺物を含む
7	黄灰色土	2.5Y4/1	よく締まる、礎石の下の掘り込み地業
8	黒褐色土	10YR3/1	固く締まる
9	にぶい黄橙色土	10YR6/3	新しい整地層、黄橙色粘土 (7.5YR7/8) 混じる



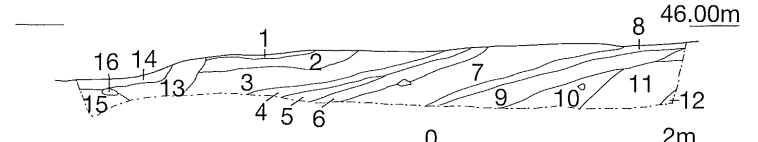
第3トレンチ2区北壁



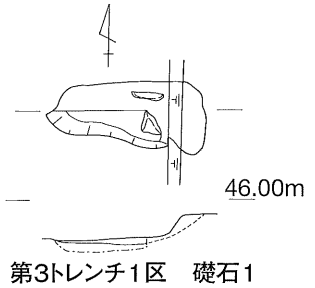
第4トレンチ2区　南壁

大輪田・城内遺跡第2次　第４トレンチ1区東壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	にぶい黄褐色土	10YR7/2	細かい土
2	橙色土	7.5YR7/6	白っぽい粘土が塊で入る
3	明黄褐色土	10YR7/4	細かい土、よく締まる、白色砂粒含む
4	灰白色砂	10YR8/2	細かい砂
5	橙色粘土	7.5YR6/8	きめの細かい粘土
6			4層に同じ、間層として5層が入る
7	浅黄色土	2.5Y7/4	細かい
8	浅黄橙色砂質土	7.5YR8/3	細かい砂に灰オリーブ色粘土 (5Y6/2)・灰白色土 (5Y7/1)・黄橙色粘土 (10YR8/6) の塊を含む
9	黄橙色砂質土	10YR8/6	細かく、締まる
10	にぶい黄褐色土	10YR7/3	石・砂を含む
11	褐灰色土 黒褐色土	10YR5/1 7.5YR3/1	締まりなくボサボサ
12	にぶい橙色土	7.5YR7/4	粗い砂、地山
13	灰白色砂質土	7.5Y7/1	粗い砂
14			15に同じ
15	褐色土	7.5YR4/3	撹乱、14に同じ
16	橙色粘質土	5YR6/8	塊で15層に入る

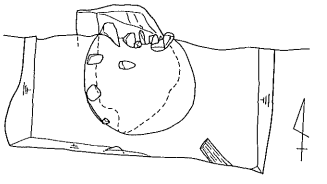


第4トレンチ1区　東壁



第3トレンチ1区　礎石1

0　1m



第4トレンチ2区　礎石4

0　1m

大輪田・城内遺跡第2次　第４トレンチ2区南壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
7′			
9	黄橙色砂質土	10YR8/6	細かく、締まる
9′	黄橙色砂質土	10YR8/6	細かく、締まる、灰白色粘土 (5Y7/2) の塊を含む
10	にぶい黄褐色土	10YR7/3	石・砂を含む
11	褐灰色土 黒褐色土	10YR5/1 7.5YR3/1	締まりなくボサボサ
12	にぶい橙色土	7.5YR7/4	粗い砂、地山
A			締まりのない整地層、旧本堂取り壊し後の整地層
B	灰黄褐色土	10YR4/2	木片・モルタル等を含む整地層、よく締まる
C	浅黄色土	2.5Y7/4	砂粒を含む、よく締まる
D	明黄褐色土	10YR7/6	橙色砂質粘土 (7.5YR6/8) の塊・明赤褐色土 (2.5YR5/8) の塊・石・瓦を含む
E	黄褐色土	10YR5/6	Dより粗く粘質
F	褐灰色粘質土	10YR5/1	灰赤色砂質土 (2.5YR4/2) を含む、上部は黄色粘土
G	明黄褐色土	10YR7/6	細かい
H	灰黄褐色粘質土	10YR5/2	
K	黄橙色粘質土	7.5YR7/8	
L	黄灰色粘質土	2.5Y5/1	浅黄橙色粘土 (7.5YR8/6) の塊を含む

図 13　大輪田・城内遺跡調査トレンチ平面図及び土層断面図

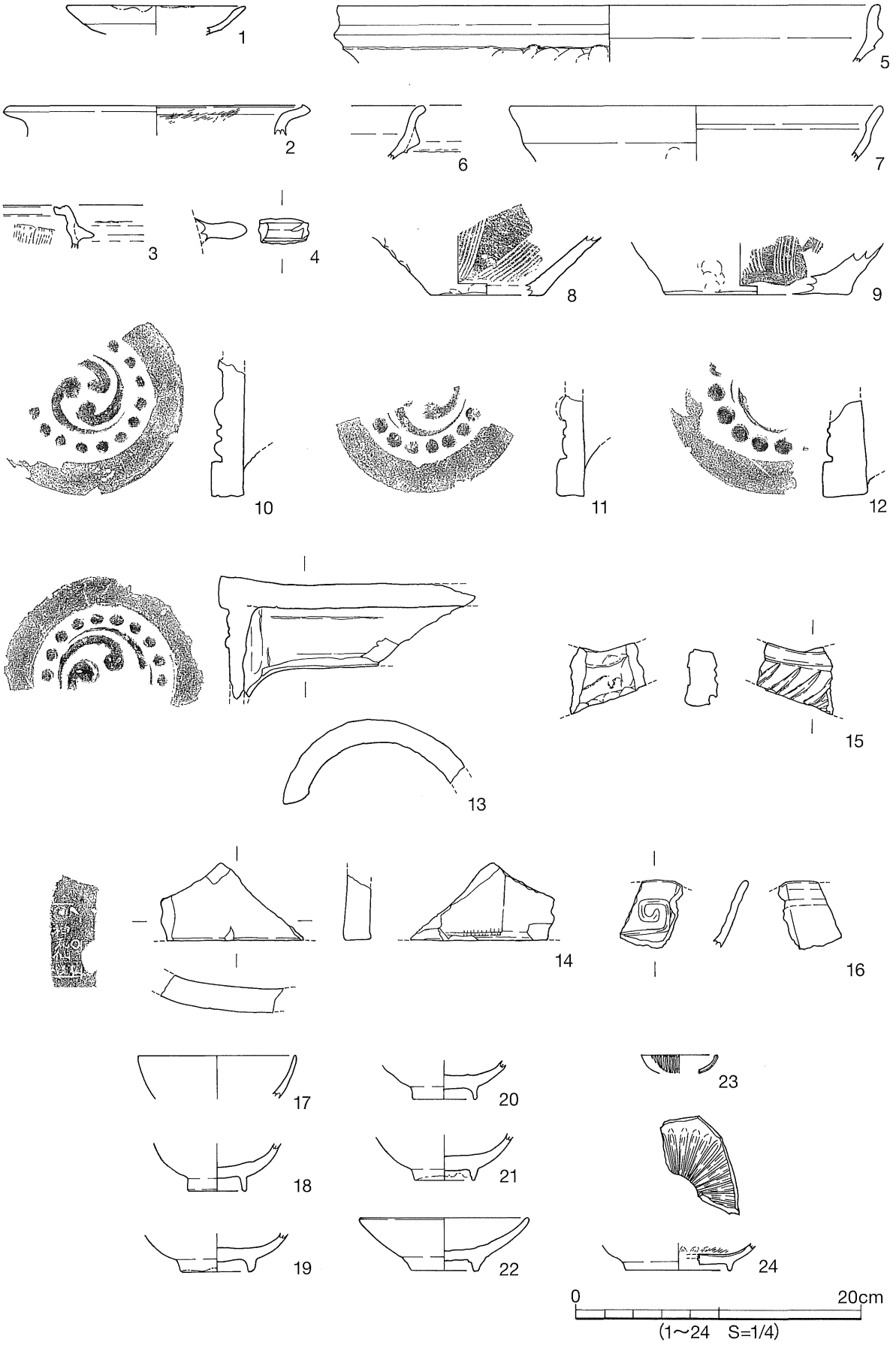


図 14　大輪田・城内遺跡出土遺物（1）

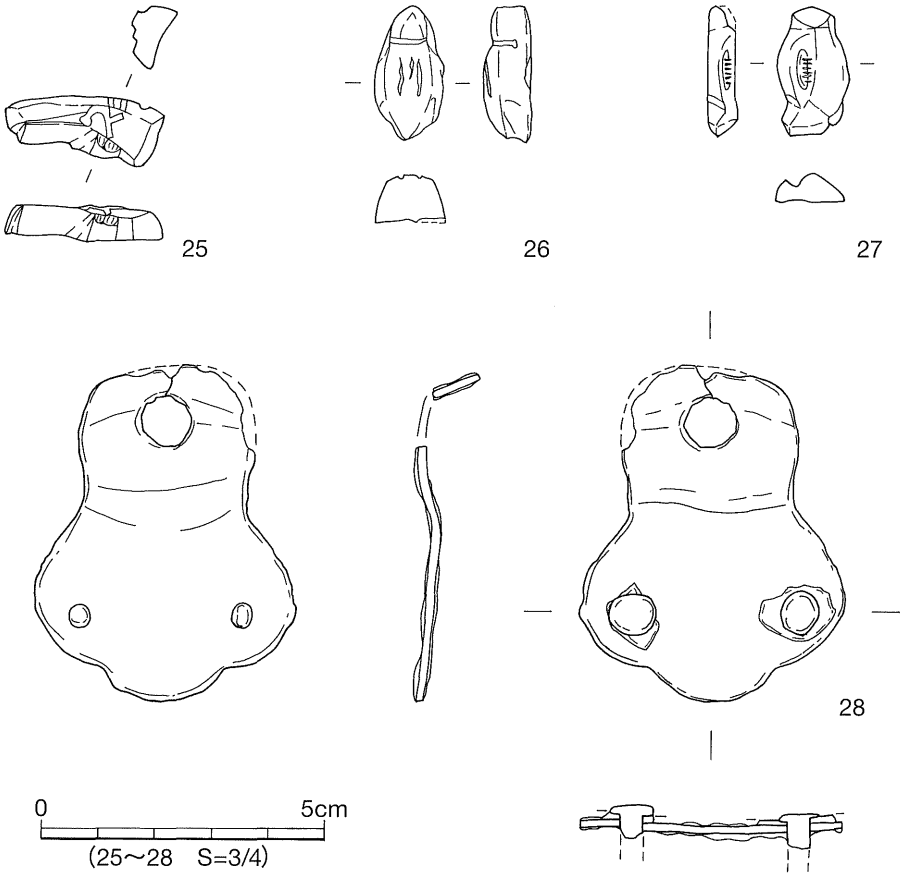


図 15　大輪田・城内遺跡出土遺物（2）

ため調査途中で掘削を残念したが、最下層はさらに数十 cm は締まりのない盛土層が続くようである。調査中に各トレンチが水没するほどの一時的な豪雨があったが、雨が止んだ後、第 4 トレンチ 1 区のみすぐに雨水が地下に浸み込んでしまった。当該部分で観察された土はすべて盛土である。

以上の各トレンチの状況から、第 3 トレンチと第 4 トレンチの交点より北側は盛土により造成されていることがわかる。

（3）遺物

主な遺物として近世の瓦・陶磁器が出土している。少量ながら土師器・瓦器の破片も出土している。

28 は鉄製の釣り金具で、建物取り壊し後の基壇上で採集したものである。有機質のものに鋲留めしていたものと考えられる。上部の孔は棒状のものに引っ掛ける孔であろう。

17 ～ 21 はくらわんか手の磁器碗で安楽寺建立時期以降のものである。

（4）まとめ

今回の調査では大輪田城に伴う遺構は検出されなかった。調査地西側の現状の地形から推測すると、現在の安楽寺の造営時に尾根頂部を大きく切土して建設地を造成したようである。この造成時に先行する遺構は削平されているものと考えられる。このため、大輪田城に関連する明確な遺構は検出できなかったが、出土遺物から中世以前の遺構が存在していたことが伺える。本堂は宝永 6 年（1709）に建立されたもので、地山を整形して造られた基壇上に前身建物（中村道場）があり、その基壇を北側に盛土により拡張して、新たに本堂を立てたと推測できる。また、河合町域ではこれまであまりわかっていない近世寺院の建築に際しての基壇造成の状況や礎石を据えつける際の状況の一端が明らかとなった。

表３　大輪田・城内遺跡　掲載遺物一覧

挿図番号	図版番号	遺物名	特　　徴	出土位置	遺物台帳ラベル番号
14-1	16-1	土師器　皿	【法量】残存高：2.0cm　復元口径：12.4cm　【色調】にぶい橙（7.5YR7/4）【胎土】密、径 9mm以下の長石・雲母を僅かに含む	第３トレンチ２区	OJ ② -15
14-2	16-2	土師質　羽釜	【法量】残存高:2.1cm　復元口径:20.4cm　【色調】外面:にぶい褐(7.5YR6/3)黒褐(7.5YR3/1)　内面：にぶい橙（7.5YR7/4）【胎土】密、径 1mm以下の石英・長石・クサリレキ・雲母を僅かに含む　【焼成】良好　【残存率】1/8	第４トレンチ２区	OJ ② -19
14-3	16-3	土師質　羽釜	【法量】残存高:3.0cm　【色調】浅黄橙（7.5YR8/4）【胎土】密、径 9mm以下の石英･長石･クサリレキを少量含む　【焼成】良好	第１トレンチ	OJ ② -2
14-4	16-4	土師質　羽釜	【法量】残存高:1.8cm　【色調】にぶい黄橙（10YR7/4）【胎土】普通、径 1mm以下の石英･長石を少量含む　【焼成】良好　【残存率】1/12 以下	第３トレンチ２区	OJ ② -15
14-5	16-5	土師器　炮烙	【法量】残存高：4.0cm　復元口径：37.8cm　【色調】外面：灰黄褐（10YR5/2）内面：にぶい黄橙（10YR6/3）【胎土】密、径 9mm以下の石英・長石・雲母を僅かに含む　【焼成】良好　【残存率】1/12 以下　【その他】表採資料	西側山崖	OJ ② -23
14-6	16-6	土師器　炮烙	【法量】残存高:3.7cm　【色調】外面:灰褐（7.5YR7/4）　内面:にぶい橙（7.5YR7/4）【胎土】密、径 1mm以下の長石・雲母を僅かに含む　【焼成】良好	第２トレンチ	OJ ② -12
14-7	16-7	瓦質土器　鍋または土管	【法量】残存高：3.9cm　復元口径：25.8cm　【色調】黒褐（2.5Y3/1）【胎土】普通、径 1mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【残存率】1/12	第３トレンチ２区	OJ ② -15
14-8	16-8	瓦質土器　擂鉢	【法量】残存高:4.2cm　復元底径:7.8cm　【色調】外面:灰白(2.5Y7/1)　内面:灰黄(2.5Y7/2)【胎土】普通、径 1mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【残存率】1/4	第３トレンチ１区	OJ ② -14
14-9	16-9	瓦質土器　擂鉢	【法量】残存高：3.6cm　復元底径：12.8cm　【色調】外面：にぶい黄橙（10YR6/3）内面：褐灰（10YR6/1）【胎土】普通、径 4mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【残存率】1/6	第３トレンチ２区	OJ ② -15
14-10	16-10	軒丸瓦	【法量】瓦当復元径：14.2cm　瓦当厚：2.2cm　【色調】灰（N4/0）【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【その他】表採資料	第２トレンチ	OJ ② -11
14-11	16-11	軒丸瓦	【法量】瓦当復元径：14.0cm　瓦当厚：2.0cm【色調】暗灰（N4/0）【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む　【焼成】良好	第２トレンチ	OJ ② -11
14-12	16-12	軒丸瓦	【法量】瓦当復元径：15.8cm　瓦当厚：2.3cm　【色調】灰（N4/0）【胎土】普通、径 6mm以下の石英・長石・雲母を少量含む　【焼成】良好　【その他】巴文	第４トレンチ	OJ ② -17
14-13	16-13	軒丸瓦	【法量】瓦当径：14.0cm　瓦当厚：0.95cm【色調】灰（N5/0）【胎土】普通、径 7mm以下の長石を少量含む　【焼成】良好　【その他】表採資料		OJ ② -18
14-14	16-14	平瓦	【法量】残存長:5.3cm　残存幅:10.05cm　厚さ:1.8cm　【色調】灰（N4/0）【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好	第２トレンチ	OJ ② -12
14-15	16-15	鬼瓦	【法量】残存長：5.0cm　残存幅：5.35cm　厚さ：2.3cm　【色調】灰（N4/0）【胎土】密、径 1mm以下の石英・長石を少量含　【焼成】良好　【その他】全面的にいぶしがかかる。鬼の眉または髭。	第１トレンチ	OJ ② -10
14-16	17-16	陶器　鉢	【法量】残存高：4.8cm　【色調】黄褐　釉：灰白色　胎土：灰白色　【胎土】精緻　【焼成】良好　【その他】内面に文様（雷文？）	第１トレンチ	OJ ② -9
14-17	17-17	磁器　碗（染付）	【法量】残存江：3.0cm　復元口径：11.0cm　【色調】釉：青、透明　胎土：白　【胎土】精良　【焼成】良好　【残存率】1/6	第４トレンチ２区	OJ ② -17
14-18	17-18	磁器　碗（染付）	【法量】残存高：3.3cm　底径：4.0cm　【色調】釉：淡青色、透明　胎土：灰白色　【胎土】精良　【その他】外面に草花文	第１トレンチ	OJ ② -7
14-19	17-19	磁器　碗（染付）	【法量】残存高:2.7cm　復元底径:4.8cm　【色調】釉:青､透明　胎土:白　【胎土】精良　【焼成】良好　【残存率】1/4	第４トレンチ２区	OJ ② -17
14-20	17-20	磁器　碗（染付）	【法量】残存高:1.7cm　復元底径:4.4cm　【色調】釉:青､透明　胎土:白　【胎土】精良　【焼成】良好　【残存率】1/12 以下	第４トレンチ２区	OJ ② -17
14-21	17-21	磁器　碗（染付）	【法量】残存高:3.2cm　復元底径:4.2cm　【色調】釉:青､透明　胎土:白　【胎土】精良　【焼成】良好　【残存率】1/4	第４トレンチ２区	OJ ② -17
14-22	17-22	磁器　皿（染付？）	【法量】器高:3.7cm　復元口径:11.6cm　【色調】釉:褐、灰白　胎土:白　【胎土】精良　【焼成】良好　【残存率】1/3　【その他】表採資料		OJ ② -18
14-23	17-23	磁器　紅皿	【法量】残存高：1.25cm　復元口径：5.4cm　【色調】釉：白・透明　【胎土】精緻　【焼成】良好　【残存率】1/4	第２トレンチ	OJ ② -12
14-24	17-24	磁器　皿	【法量】残存高:1.85cm　復元底径:7.4cm　【色調】釉:白　胎土:灰白　【胎土】精緻　【その他】内面に菊花文	第２トレンチ	OJ ② -12
15-25	17-25	土製品　人形？	【法量】長さ：2.8cm　幅：1.3cm　厚さ 0.55cm　重量 1g　【色調】明赤褐（2.5YR5/6）【胎土】精緻、径 1mm以下の長石を僅かに含む　【焼成】良好　【その他】剝離痕	第１トレンチ	OJ ② -1
15-26	17-26	土製品　人形？	【法量】長さ:2.35cm　幅:1.2cm　厚さ 0.8cm　重量 2 g　【色調】明赤褐（2.5YR5/8）【胎土】精緻、径 1mm以下の長石を僅かに含む　【焼成】良好　【その他】剝離痕	第１トレンチ	OJ ② -1
15-27	17-27	土製品　人形？	【法量】長さ:2.25cm　幅:1.25cm　厚さ 0.5cm　重量 1 g　【色調】橙（2.5YR6/6）【胎土】精緻、径 1mm以下の長石を僅かに含む　【焼成】良好　【その他】剝離痕	第１トレンチ	OJ ② -7
15-28	17-28	鉄製品　釣り金具	【法量】長さ：5.9cm　幅：4.6cm　厚さ 0.15cm　重量 16 g　【その他】表採資料		OJ ② -18

5．高山３号墳（高山塚３号古墳）の調査

（1）はじめに

当該調査は平成25年度に専用住宅建て替えに伴い実施した高山３号墳の墳丘、周溝想定範囲内における調査である。調査地は史跡大塚山古墳群中の高山塚３号古墳の指定地北側隣接地であり、工事に先立つ調査として発掘調査を実施した。

２棟の建物建設が予定されているため、調査地内に２本のトレンチを設定した。既存建物建設時の盛土及び盛土直下の旧耕土層を重機により掘削し、それより下位の層位については、微細な遺物の採集も考慮し、全て人力により作業を行った。断ち割りにより深さ120cmまでの状況を確認し、地山までの確認を行った。

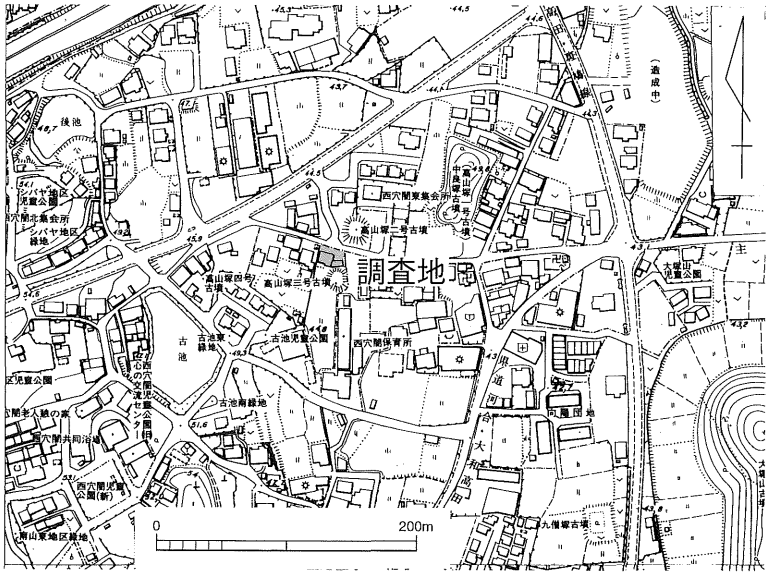


図16　高山３号墳調査地位置図

（2）遺構

第１トレンチでは墳丘裾は確認できなかった。また、周溝の外側の裾も検出できなかった。

トレンチ北端部で土色の異なる箇所がある。トレンチ底面全体の色調が灰色を基調とする中で、三角形状に明るい橙色を呈する箇所が認められる。これを周溝内の土橋状遺構とすれば、トレンチ内で周溝や墳丘裾が検出されなかったことへの合理的な解釈が可能ではある。しかし、周溝部に該当することになる部分からは全く遺物は出土していない点や、色調は異なるが、土質としてはあまり差がないこと、また、この橙色部分の標高が第２トレンチの墳丘裾とほとんど変わらないかむしろ低い点を考慮すると積極的に土橋状遺構とすることはできない。

尚、埋戻し時にトレンチ南東側を拡張したが、顕著な遺構は検出できなかった。

第２トレンチでは、雨水により良好な状態で平面での検出はできなかったが、トレンチ壁面の土層観察により、墳丘が大きく分けて３段階の開墾により削られ

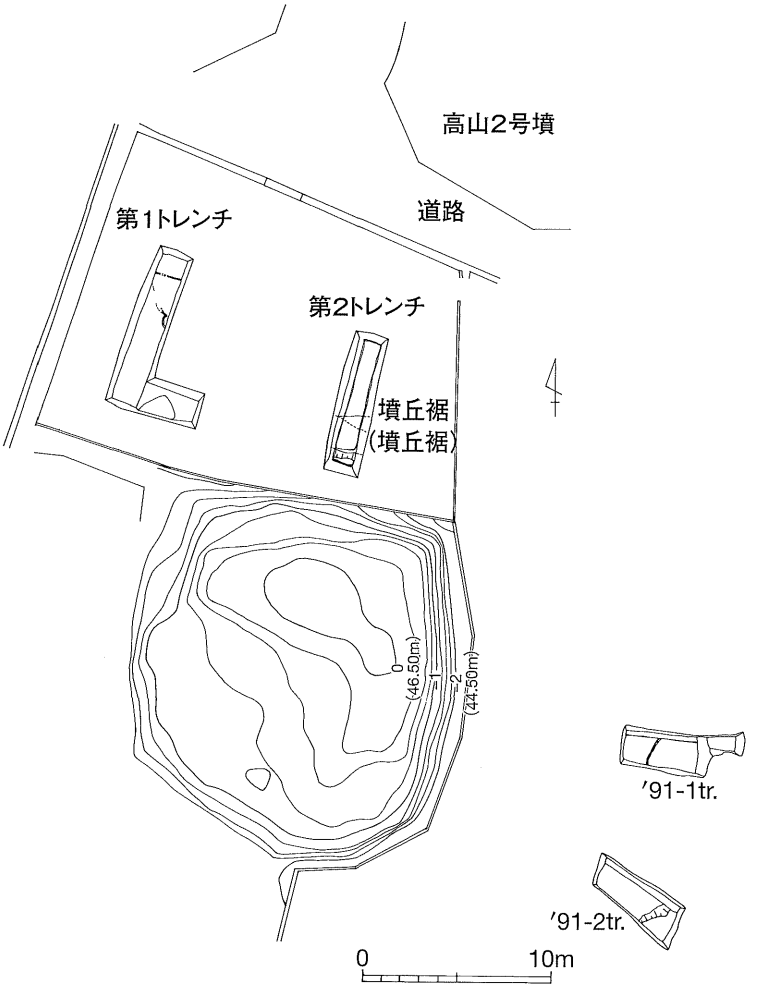
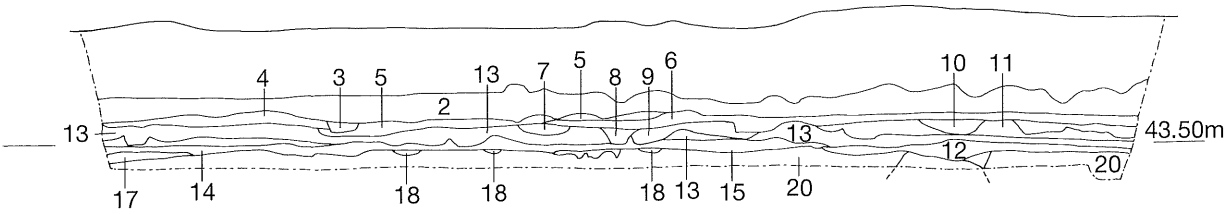
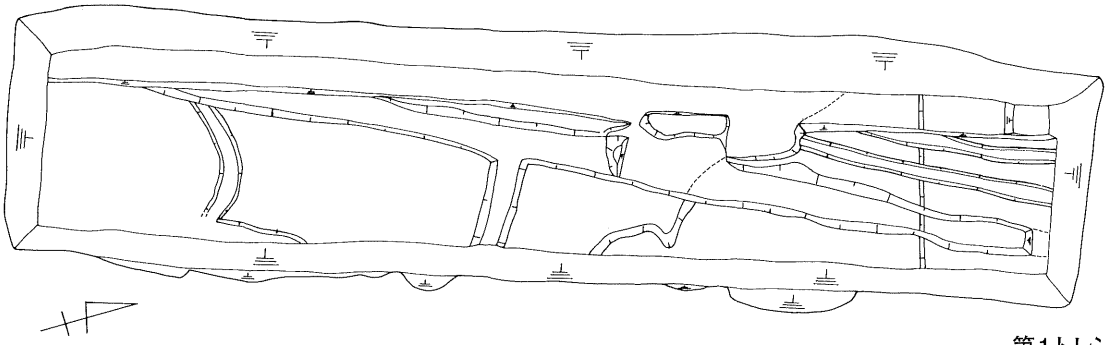


図17　高山３号墳墳丘測量図及び調査トレンチ配置図



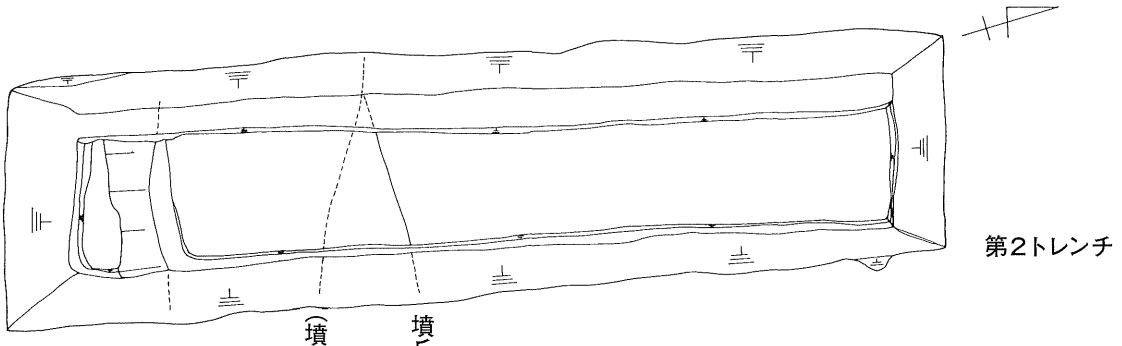


第1トレンチ

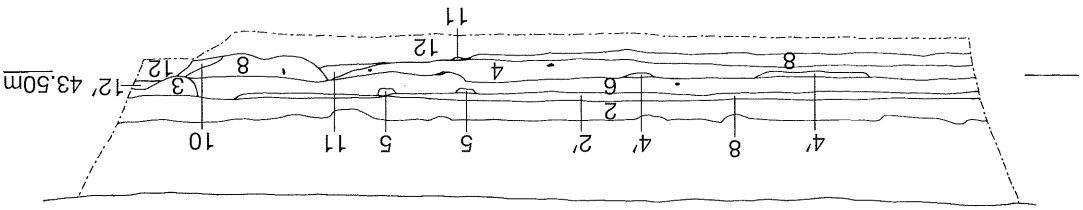
高山3号墳第2次　第1トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1			昭和40年代の盛土
2	灰色粘質土	N5/0	粘性強い、炭化物が1%混じる、遺物を含む、旧耕作土
3	灰黄色粘質土	2.5Y6/2	5よりやや粘性強い（素掘り溝）
4	黄灰色粘質土	2.5Y5/1	
5	灰黄色粘質土	2.5Y6/2	
6	灰黄色粘質土	2.5Y7/2	
7	灰黄色粘質土	2.5Y7/2	6よりやや粘性高い（素掘り溝）
8	灰黄色粘質土	2.5Y6/2	（素掘り溝）
9	灰黄色粘質土	2.5Y6/2	
10	灰黄褐色土	10YR6/2	径5mm以下の砂粒が2%混じる
11	暗灰黄色粘質土	2.5Y5/2	

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
12	明黄褐色粘質土	10YR7/6	
13	黄灰色粘質土	2.5YR6/1	遺物を含む
14	浅黄色粘質土	2.5Y7/4	
15	浅黄色粘質土	2.5Y7/4	14より砂を多く含む
16	明黄褐色粘質土	10YR7/6	
17	灰黄色粘質土	2.5Y7/2	埴輪破片等の遺物を多く含む
18	浅黄色砂質土	2.5Y7/4	
19	灰黄色砂質土	2.5Y6/2	やや締まりなし
20	灰色砂質土	7.5Y6/1	やや締まりなし、遺物を含まない、拡張区でこの層の上面で浅い窪みを検出
21	にぶい橙色砂質土	7.5YR7/4	締まり強い、斑鉄・マンガンを5%含む、遺物を含まない、土橋か



第2トレンチ



高山3号墳第2次　第2トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1			昭和40年代の盛土
2	灰色粘質土	N4/0	粘質、旧耕作土
2'	灰色粘質土	5Y6/1	粘質、旧耕作土
3	灰色土	N6/0	2よりやや砂質で粒子粗い、旧耕作土下の溝
4	黄橙色土	10YR7/8	褐灰色土（10YR6/1）が混じる、層内下方に多い、遺物含む
5	褐灰色土	10YR6/1	4層内の素掘り溝
6	明黄褐色土	10YR6/8	遺物多く粗い白砂含む
7	灰黄褐色土	10YR5/2	暗褐色土（7.5YR3/4）の塊、マンガン
8	暗灰黄色土	2.5Y5/2	遺物を多く含む、地山直上の耕作土、含まれる遺物は5cm台以下

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
9	黄灰色土	2.5Y6/1	4' に近い、4層が耕作土であった時の溝状遺構埋土
10	黄灰色粘質土	2.5Y5/1	粘質、9層によって切られている
11	黄色土	2.5Y8/8	明るい黄色粘土、地山又は墳丘盛土、12' より粗い
12	オリーブ色土 黄色土 灰白色土	5Y6/6 2.5Y8/6 2.5Y8/1	上方はオリーブ色土（5Y6/6）シルト、下方は黄色土（2.5Y8/6）と灰白色砂質粘土（2.5Y8/1）が混じりよく締まった土、地山
12'	黄橙色土 黄色土	10YR8/8 2.5Y7/8	緻密な粘土、11層より明るく、11層より細かい粒子

0　2m

図18　高山3号墳調査トレンチ平面図及び土層断面図

ていることがわかった。原位置を保った葺石や基底石は確認できなかった。

(3) 遺物

出土した遺物のほとんどは埴輪の破片である。円筒埴輪が大半で、朝顔形埴輪とわかるものが少量見られる。その他の遺物としては、須恵器、土師器、瓦器、瓦が出土している。いずれも破片であり、接合する資料もほとんどない。そこで、本報告では参考資料として、高山３号墳を含む大塚山古墳群内で過去に採集・寄贈されたもの、工事立会い等で出土したものを紹介しておく。

高山３号墳の遺物は１～49である。１～44は今回の調査に伴うものである。19は外面に赤色顔料が塗布されており、形象埴輪の一部である可能性も考えられる。

40は瓦器埦で第２トレンチ西壁７層から出土している。７層は墳丘と考えられる11層を切る層である。

43、44は鉄製品である。第２トレンチの旧耕作土層より出土したもので、古墳に伴うものとは考えにくい。瓢箪を半裁したような形状で、平坦な面を設置面とし、くびれ部分に糸などを巻いて留めていたものであろう。

50～56は大塚山古墳の西側周堤の外、前方部南端の真西あたりで、工事に伴う立会い時に出土したものである。堤に沿って近世・近代のものと思われる木杭列の痕跡があり、前方部南端を西へ延長した地点で直角に西へ曲がっていた。その角部分に土壙があり、その中から埴輪や葺石材が一括で出土した。このような杭列による区画は地籍図や現在の地割には残っておらず、古墳に関連する遺構を反映したものかもしれない。詳細な記録を残すことができなかったのが残念である。

67～78は中良塚古墳（高山塚１号古墳）での採集品である。中良塚古墳の上段の東側は後円部からくびれ部にかけて大きく削られているが、そのあたりで集中して散布していたもので、後円部墳頂に配置されていたものである可能性が高い。

51の円筒埴輪はウワナベ古墳出土埴輪との類似性、67～71の中良塚古墳の蓋形埴輪の特徴は上人ヶ平古墳群や久津川古墳群の埴輪との関係が指摘されている[註3]。全体像は明確ではないが高山３号墳の埴輪もこれらとの関係を考えていかなければならないであろう。

註３）和田一之輔「埴輪の系統と展開―川合大塚山古墳出土埴輪の紹介―」『文化財論叢Ⅳ』2012年　奈良文化財研究所

（4）まとめ

既存建物（撤去済み）建設時の盛土が想定以上に厚く、また、雨による盛土層からの湧水により、調査地全体でトレンチを拡張できなかった。第２トレンチにおいても、湧水により検出面を丁寧に精査することができなかった。このため、墳形の確定には至らなかった。第２トレンチで墳丘裾を検出したことから、高山２号墳と３号墳がもとは一つの古墳ではないかという指摘もあったが、別の古墳であることが確認された。

墳丘の規模については1991年度の調査結果から推定していた規模[註4]より小さくなるようである。第２トレンチでの黄色粘質土を墳丘と考えると現状の墳丘の西側及び南側は原状に近い状態と考えてもよいことになる。墳形については、第２トレンチ壁面の土層観察から図18に示した二通りの捉え方ができ、円墳の可能性が高いものの、方墳の可能性も考えられる。耕作が周溝底より深く及んでいたことも考えられ、周溝の底面が築造当初のままであるとは考えにくい。したがって、第２トレンチで検出した墳丘裾は、築造時の墳丘裾ではないと考えるのが妥当であろう。北側に隣接する高山２号墳のこれまでの調査では墳丘は歪んだ円形に復元されているが、４号墳を含め周辺地域の広範な調査によらない限り、墳形の確認は困難である。

註４）『高山３号墳　発掘調査報告－河合町文化財調査報告　第５集－』1992年　河合町教育委員会
直径約30mとしているが、今回の調査結果から25m以下になると思われる。

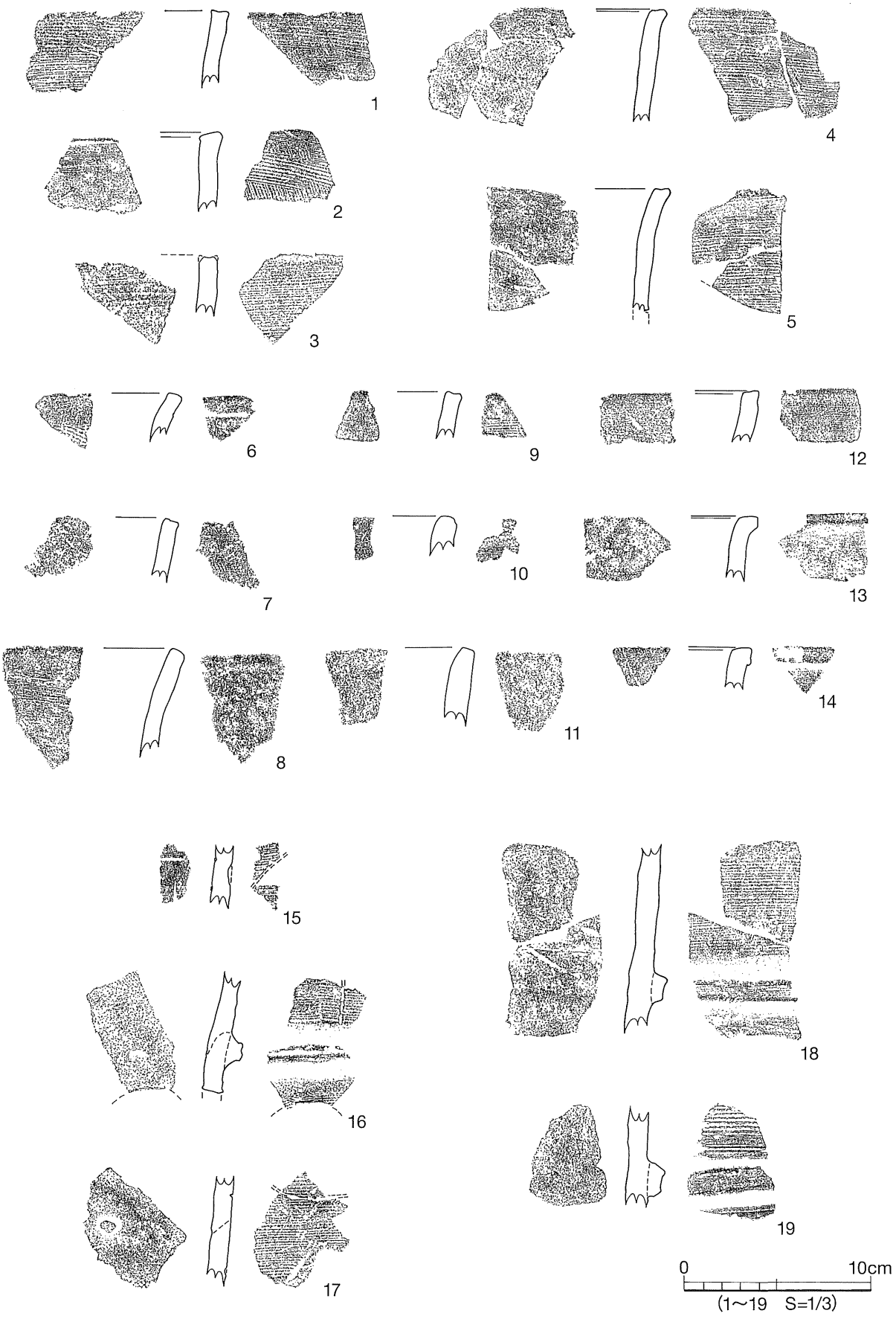


図 19　高山 3 号墳出土・採集遺物（1）

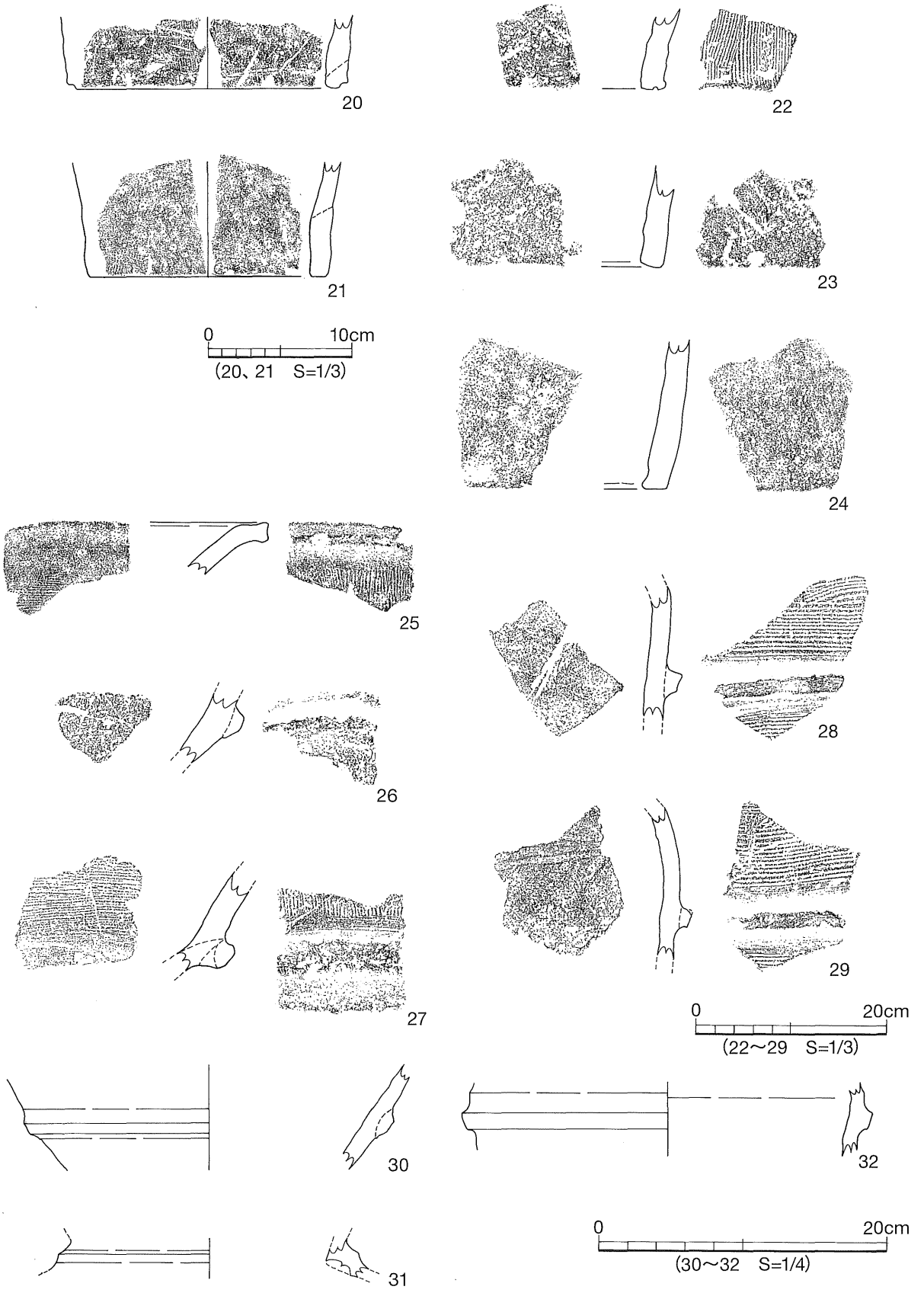


図 20　高山 3 号墳出土採集・遺物（2）

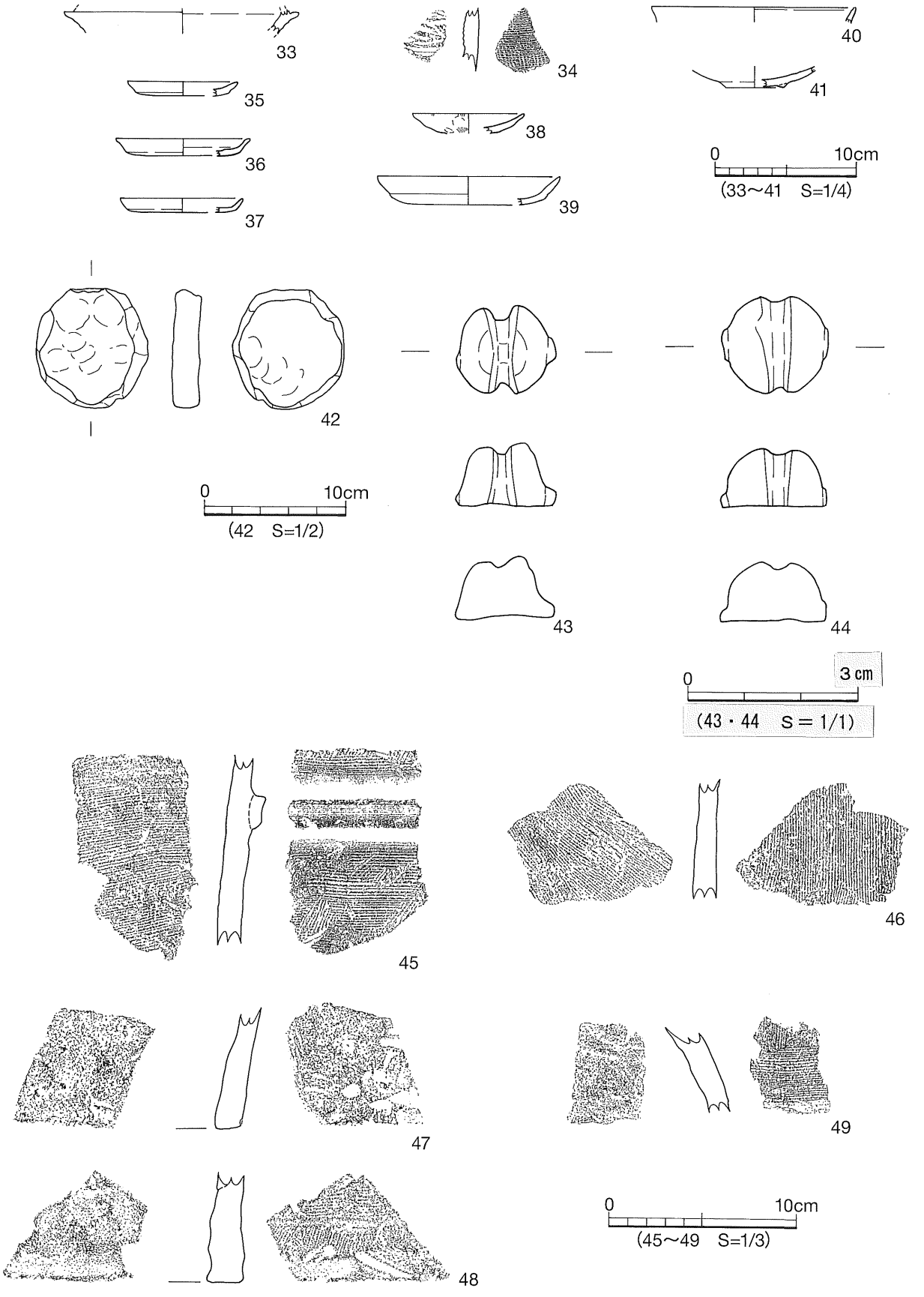


図21　高山3号墳出土・採集遺物（3）

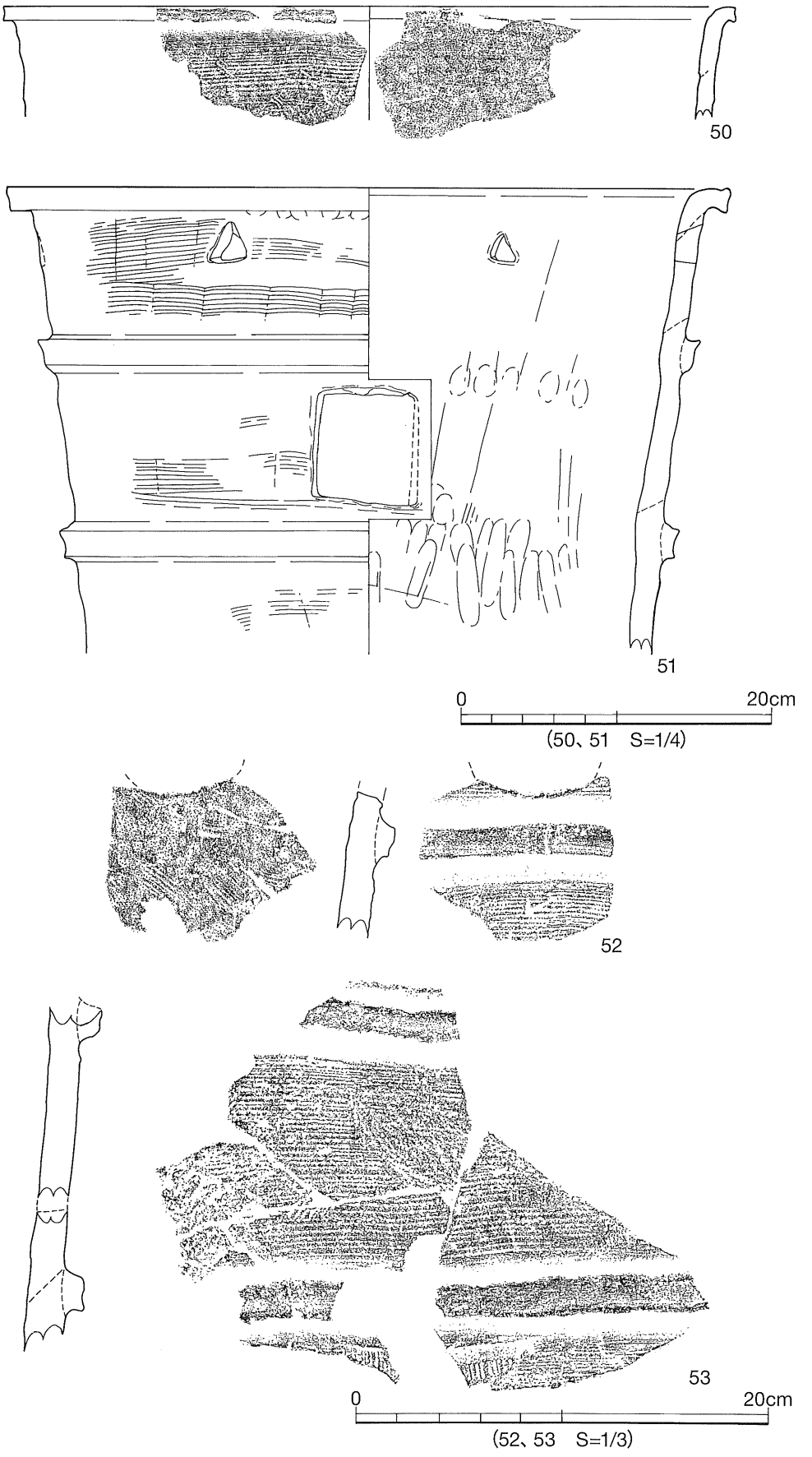
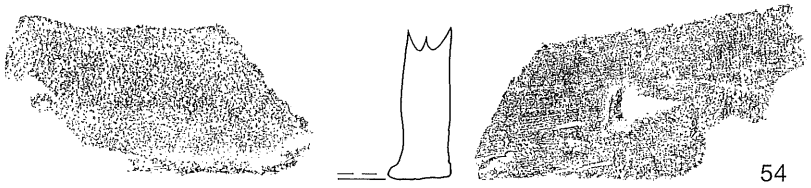
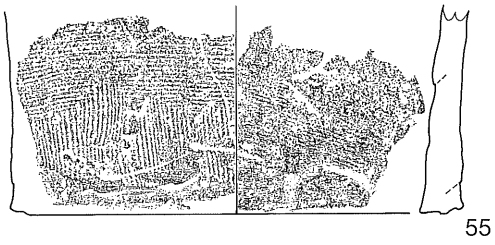
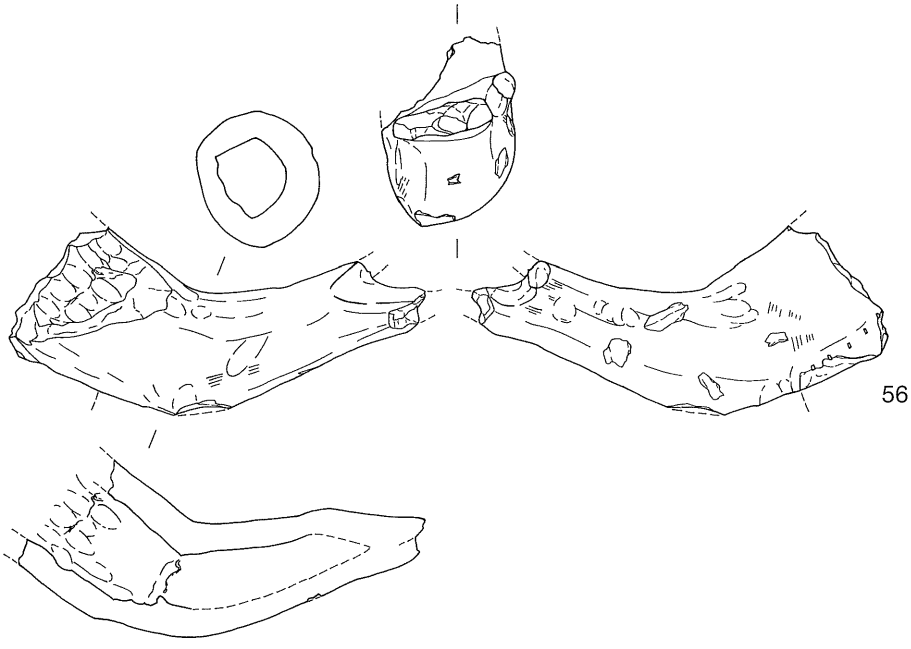


図 22　大塚山古墳群出土・採集遺物（1）



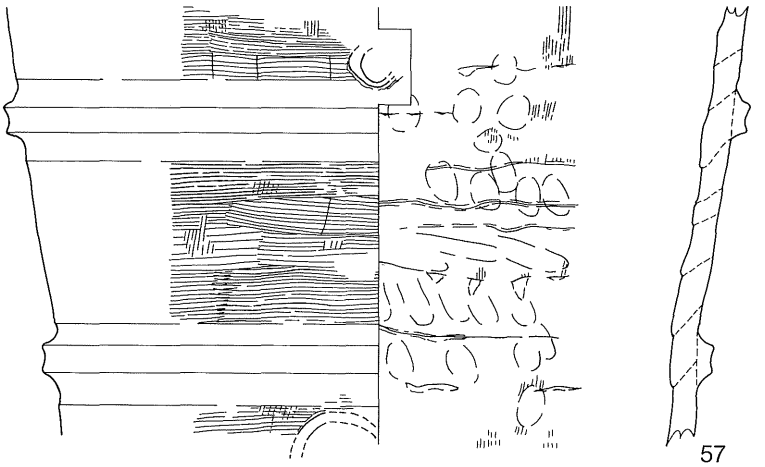
0　10cm
(54　S=1/3)

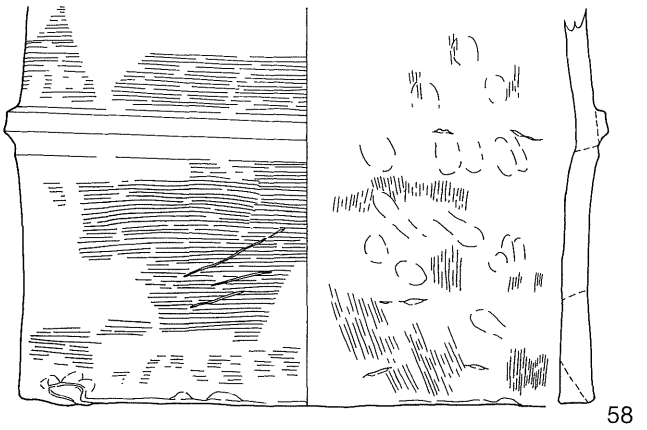


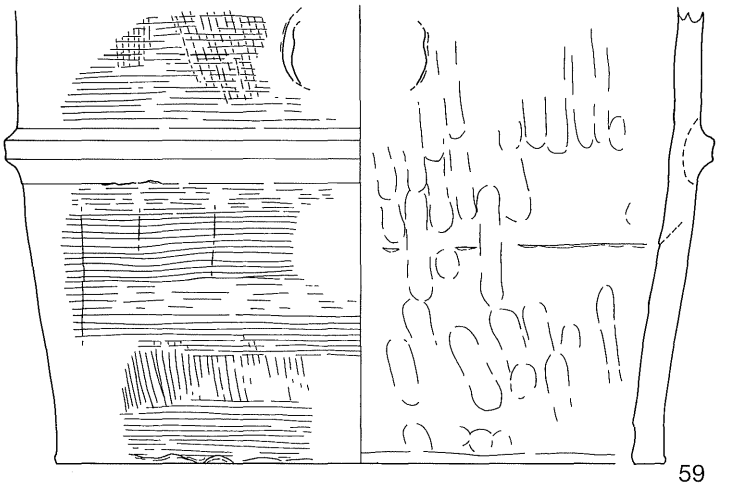


0　10cm
(55、56　S=1/4)

図 23　大塚山古墳群出土・採集遺物（2）







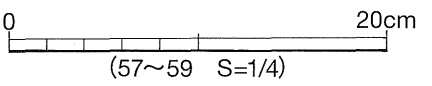


図 24　大塚山古墳群出土・採集遺物（3）

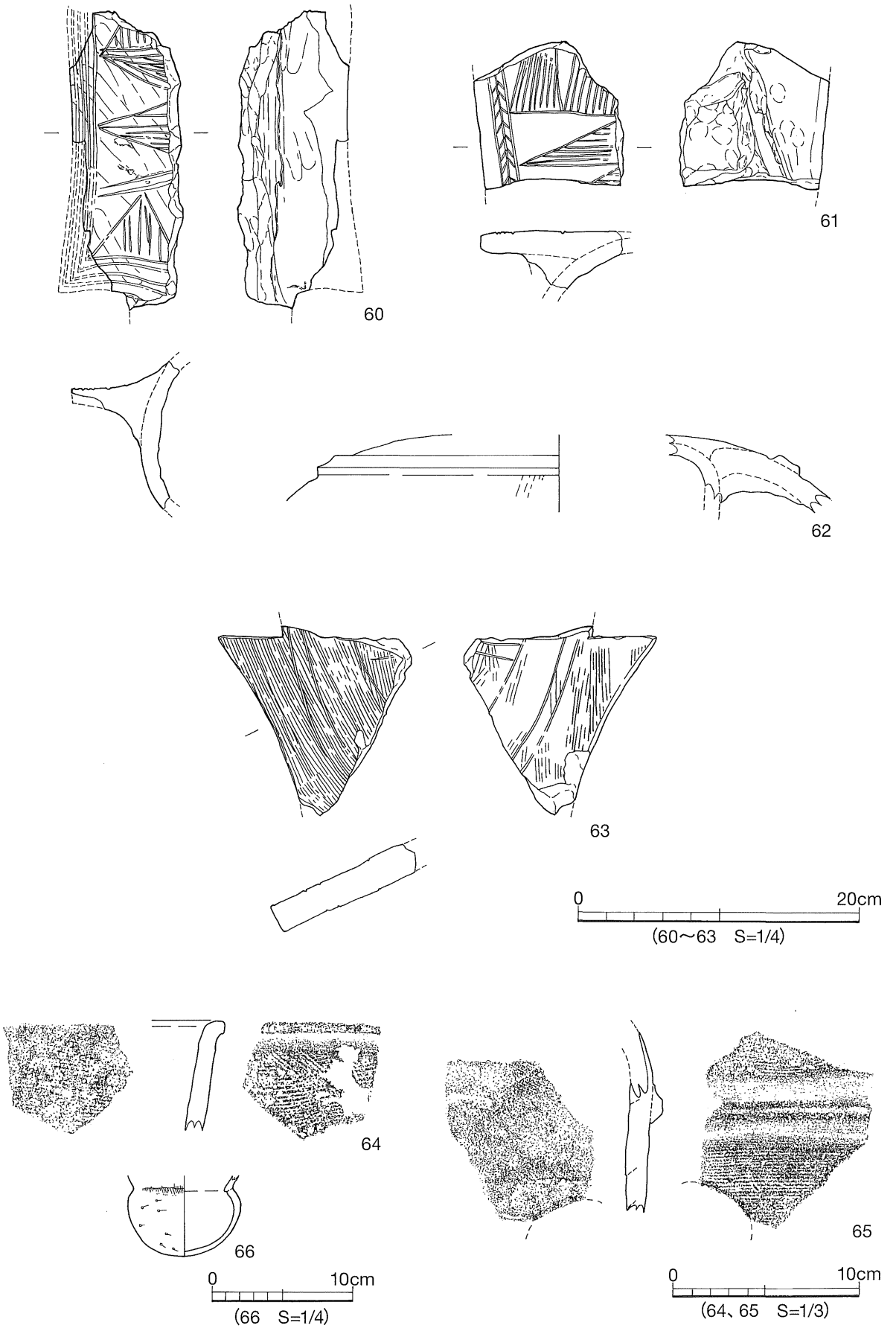


図 25　大塚山古墳群出土・採集遺物（4）

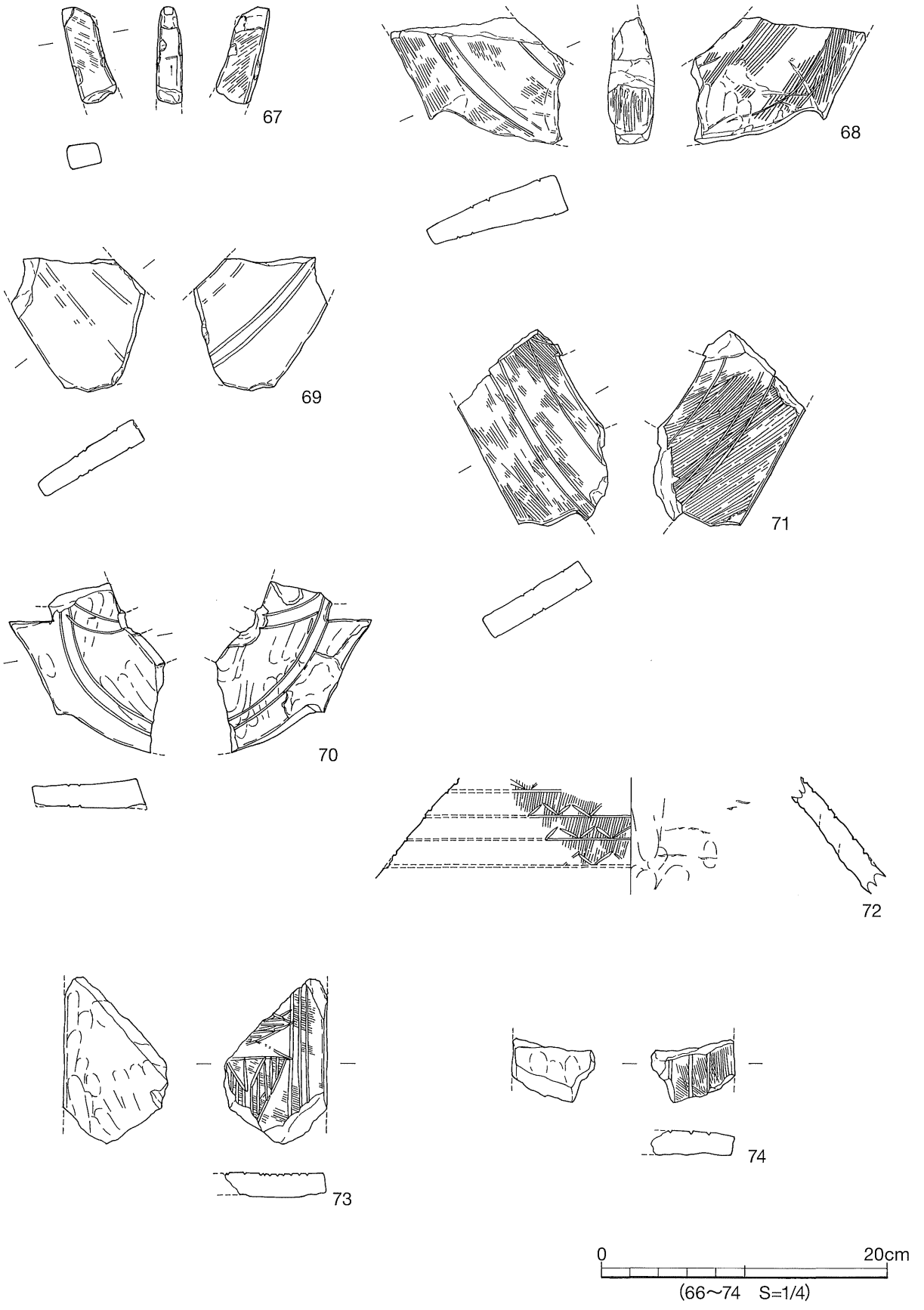


図 26　大塚山古墳群出土・採集遺物（5）

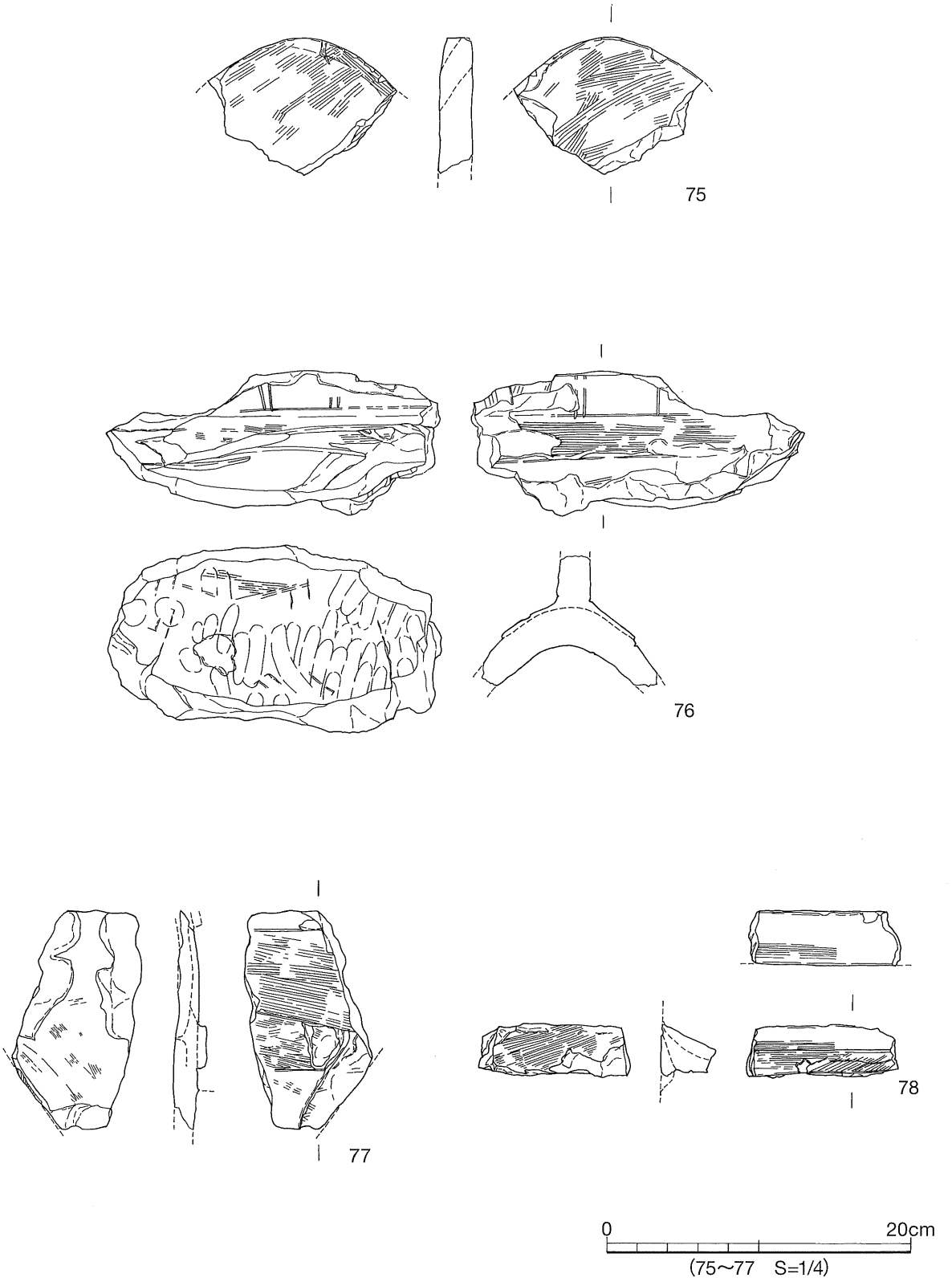


図 27　大塚山古墳群出土・採集遺物（6）

表４　高山３号墳　掲載遺物一覧

挿図番号	図版番号	遺物名	特　徴	古墳名	出土位置	遺物台帳ラベル番号
17-1	21-1	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：4.1cm　【色調】にぶい褐（7.5YR5/3）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、やや硬質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：タテハケ→ヨコハケ（7 本 /cm）　内面：ヨコハケ（7 本 /cm）　端面：ヨコナデ	高山３号墳	第１トレンチ 東たちわり	NTⅢ②−5
17-2	21-2	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：3.25cm　【色調】橙（7.5YR7/6）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：タテハケ→ヨコハケ（6 本 /cm）　内面：ナデ・オサエ　端部：ヨコナデ	高山3号墳	第１トレンチ 拡張	NTⅢ②−45
17-3	21-3	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：3.2cm　【色調】橙（2.5YR6/6）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、やや硬質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（8 本 /cm）　内面：ヨコハケ（4 本 /5mm）　端面：ヨコナデ	高山3号墳	墳丘北側腐葉土	NTⅢ②−23
17-4	21-4	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：5.9cm　【色調】外面：にぶい橙（5YR7/4）　内面：にぶい褐（7.5YR 6/ 3）　【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（7 本 /cm）　内面：ナデ　端部：ヨコナデ【その他】4・5・18 は同一個体の可能性あり	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-5	21-5	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高:6.5cm　【色調】外面:にぶい橙（5YR7/4）　内面:にぶい橙（5YR7/4）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（7 本 /cm）　内面：ナデ　端部：ヨコナデ　【その他】4・5・18 は同一個体の可能性あり	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-6	21-6	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：2.7cm　【色調】外面：橙（7.5YR7/6）　内面：橙（2.5YR6/6）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコナデ　内面：ナナメハケ（5 本 /8mm）	高山3号墳	第２トレンチ 西断ち割り	NTⅢ②−10
17-7	21-7	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：3.4cm　【色調】にぶい褐（7.5YR6/3）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：タテハケ（4 本 /5mm）→ヨコナデ　内面：ナデ　端面：ヨコナデ	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-8	21-8	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：5.8cm　【色調】浅黄橙（7.5YR8/6）　【胎土】普通、径 5mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】やや不良、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：磨滅により不明　内面：ヨコハケ（7 本 /cm）　端面：ヨコナデ	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-9	21-9	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：2.6cm　【色調】橙（7.5YR7/6）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（7 本 /cm）　内面：ナデ　端面：ヨコナデ	高山3号墳	第２トレンチ 西断ち割り	NTⅢ②−10
17-10	21-10	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高:2.4cm　【色調】外面:にぶい赤褐(5YR5/4)　内面:にぶい赤褐(5YR5/3)　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、やや硬質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】ヨコナデ	高山3号墳	墳丘北側腐葉土	NTⅢ②−23
17-11	21-11	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：4.2cm　【色調】橙（7.5YR7/6）　【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む　【焼成】やや不良、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】表面磨滅により不明	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-12	21-12	円筒埴輪？ 口縁部	【法量】残存高:2.7cm　復元口径:19.8cm　【色調】外面:にぶい橙(5YR6/4)　内面:橙(5YR7/6)　【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（7 本 /cm）　内面：ヨコハケ（7 本 /cm）　端部：ヨコナデ	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-13	21-13	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高:3.55cm　【色調】外面:灰白（10YR8/2）橙（10YR7/6）　内面:橙（10YR6/6）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】磨滅により不明　端部：ヨコナデ	高山3号墳	第２トレンチ 西断ち割り	NTⅢ②−10
17-14	21-14	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：2.2cm　【色調】橙（7.5YR7/6）　【胎土】普通、径 1mm以下の石英・長石・黒赤褐色砂粒を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　外面：ヨコハケ　内面：ヨコナデ　端部：ナデ	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-15	21-15	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：3.3cm　【色調】外面：橙（5YR6/6）　内面：灰褐（5YR6/2）　【胎土】普通、径 1mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、やや硬質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（9 本 /cm）　内面：ナデ　【その他】外面に斜め方向の直線状の線刻あり	高山3号墳	第１トレンチ拡張	NTⅢ②−45
17-16	21-16	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：6.4cm　【色調】褐灰（10YR6/1）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、硬質（須恵質）　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（8 本 /cm）　内面：ナナメハケ（7 本 /cm）→ナデ　【その他】円形スカシ、縦方向の直線的な線刻あり	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-17	21-17	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：5.9cm　【色調】にぶい橙（5YR6/4）　【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、やや硬質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（8 本 /cm）　内面：ナデ　【その他】外面に円弧状の線刻あり	高山3号墳	墳丘北側腐葉土	NTⅢ②−23
17-18	21-18	円筒埴輪 体部	【法量】残存高:10.0cm　【色調】外面:にぶい橙（5YR7/4）　内面:灰褐（7.5YR6/2）　【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面:ヨコハケ（7 本 /cm）　内面:ナデ　凸帯部:ヨコナデ　【その他】4・5・18 は同一個体の可能性あり	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
17-19	21-19	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：5.4cm　【色調】外面：赤（2.5YR5/6）　内面：橙（5YR7/6）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好、やや硬質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面：ヨコハケ（5 本 /cm）　内面：ナデ　【その他】外面赤色顔料残存	高山3号墳	墳丘北側腐葉土	NTⅢ②−23
18-20	22-20	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：5.0cm　復元底径：17.8cm　【色調】外面：にぶい橙（7.5YR7/4）　内面：橙（7.5YR7/6）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む　【焼成】良好、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/6　【調整】外面：タテハケ（7 本 /cm）　→ナデ・オサエ　内面：ハケの小口でかき上げ→ナデ・オサエ	高山3号墳	墳丘北側腐葉土	NTⅢ②−23
18-21	22-21	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：7.9cm　復元底径：16.2cm　【色調】浅黄橙（10YR8/4）　【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む　【焼成】やや不良、軟質　【黒斑】なし　【残存率】1/6　【調整】外面：下部にタテハケ（3 本 /5mm）、大部分は不明　内面：ナデ・ユビオサエ　底面：未調整	高山3号墳	第２トレンチ	NTⅢ②−17
18-22	22-22	円筒埴輪 底部	【法量】残存高:4.2cm　【色調】外面:にぶい橙（5YR6/4）　内面:にぶい黄橙（10YR7/3）　【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む　【焼成】良好、やや硬質　【黒斑】なし　【残存率】1/12 以下　【調整】外面:タテハケ（7 本 /cm）　内面:磨滅により不明　底面:未調整	高山3号墳	墳丘北側腐葉土	NTⅢ②−23

18-23	22-23	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：5.4cm 【色調】明赤褐（2.5YR5/6） 【胎土】普通、径3mm以下の石英・長石・黒色砂粒を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：ナデ 内面：ナデ 底面：未調整	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−17
18-24	22-24	円筒埴輪 底部	【法量】残存高:7.65cm 【色調】外面:橙(7.5YR7/6) 内面:浅黄橙(10YR8/4) 【胎土】普通、径3mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】やや不良、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：磨滅により不明 内面：ナデ・ユビオサエ 底面：未調整	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−17
18-25	22-25	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】残存高：2.7cm 復元口径：48.8cm 【色調】橙（7.5YR7/6） 【胎土】普通、径3mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】やや不良、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：タテハケ（8本/cm） 内面：ヨコハケ（8本/cm） 端部：ヨコナデ	高山3号墳	第1トレンチ 拡張	NTⅢ②−45
18-26	22-26	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】残存高：3.6cm 【色調】橙（5YR6/6） 【胎土】普通、径3mm以下の石英・長石・黒色砂粒を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：磨滅により不明 内面：ナデ	高山3号墳	第2トレンチ 西断ち割り	NTⅢ②−10
18-27	22-27	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】残存高：5.1cm 【色調】外面：橙（7.5YR7/6） 内面：にぶい橙（7.5YR6/4） 【胎土】普通、径2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】やや不良、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：タテハケ（7本/cm）→凸帯部ヨコナデ 内面：ヨコハケ（7本/cm）	高山3号墳	墳丘北側腐葉土	NTⅢ②−23
18-28	22-28	朝顔形埴輪 壺肩部	【法量】残存高：6.9cm 【色調】橙（2.5YR6/6） 【胎土】普通、径2mm以下の石英・長石を少量含む 【焼成】良好、やや硬質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：ヨコハケ（5本/cm） 凸帯部：ヨコナデ 内面：ナデ	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−9
18-29	22-29	朝顔形埴輪 壺肩部	【法量】残存高：7.9cm 【色調】外面：橙（5YR6/6） 内面：橙（2.5YR6/6） 【胎土】普通、径2mm以下の石英・長石・黒色砂粒を少量含む 【焼成】良好、やや硬質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：ヨコハケ（5本/cm） 凸帯部：ヨコナデ 内面：ナデ	高山3号墳	第2トレンチ 西断ち割り	NTⅢ②−8
18-30	22-30	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】残存高：8.2cm 凸帯部復元径：25.5cm【色調】外面：灰白（10YR8/2） 橙（5YR7/6） 内面：浅黄橙（7.5YR8/3） 【胎土】普通、径3mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12（凸帯部分径に対して） 【調整】凸帯部：ヨコナデ その他は内外面とも全体に磨滅のため不明	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−17
18-31	22-31	朝顔形埴輪 頸部	【法量】残存高:2.7cm 【色調】外面:浅黄橙（10YR8/3） 内面:橙（5YR6/6） 【胎土】普通、径2mm以下の石英・長石・雲母片を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】頸部1/8 【調整】外面：ヨコナデ 内面：ナデ	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−17
18-32	22-32	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】残存高:5.1cm 【色調】外面:浅黄橙（7.5YR8/3） 内面:橙（5YR7/6） 【胎土】普通、径2mm以下の石英・長石を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12（凸帯上部分径に対して） 【調整】凸帯部：ヨコナデ その他は内外面とも全体に磨滅のため不明	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−17
19-33	23-33	須恵器 坏身	【法量】残存高:1.7cm 復元径:16.0cm 【色調】外面:灰(N5/0) 内面:灰(N4/0) 【胎土】密、径2mm以下の石英・長石を少量含む 【焼成】良好 【残存率】1/12 【調整】回転ナデ	高山3号墳	第1トレンチ 西断ち割り	NTⅢ②−7
19-34	23-34	須恵器 甕？ 体部	【法量】残存高：4.5cm 【色調】灰（N6/0） 【胎土】密、径1mm以下の長石を僅かに含む 【焼成】良好 【調整】外面：平行タタキ→カキメ 内面に同心円文当て具痕	高山3号墳	第1トレンチ	NTⅢ②−11
19-35	23-35	土師器 皿	【法量】残存高：1.0cm 復元口径：7.8cm 【色調】浅黄（2.5ｙ7/3） 【胎土】密、径2mm以下の石英・長石を少量含む 【焼成】良好 【残存率】1/12 【調整】外面端部：ヨコナデ 他はナデ	高山3号墳	第1トレンチ 素掘り溝4	NTⅢ②−14
19-36	23-36	瓦器 皿	【法量】器高：1.2cm 復元口径：9.48cm 復元底径：6.0cm 【色調】外面：黄灰（2.5Y6/1） 内面:灰白（N4/0） 【胎土】密、径1mm以下の長石を僅かに含む 【焼成】やや不良 【残存率】1/6 【調整】磨滅のため不明	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−9
19-37	23-37	土師器 皿	【法量】器高：1.0cm 復元口径：8.6cm 復元底径：6.0cm 【色調】外面：黄灰（2.5Y6/1） 内面:灰白（N4/0） 【胎土】密、径1mm以下の長石を僅かに含む 【焼成】やや不良 【残存率】1/7 【調整】ナデ	高山3号墳	第2トレンチ 溝1	NTⅢ②−16
19-38	23-38	土師器 皿	【法量】残存高：1.4cm 復元口径：7.8cm 【色調】浅黄橙（7.5YR8/4） 【胎土】密、径1mm以下の長石を僅かに含む 【焼成】良好 【残存率】1/6 【調整】外面:ハケメ（8本/cm）→ナデ・オサエ 端部：ヨコナデ 内面：ナデ	高山3号墳	墳丘上 表採	NTⅢ②−3
19-39	23-39	土師器 皿	【法量】器高:2.0cm 復元口径:12.8cm 復元底径:7.7cm 【色調】外面:橙（5YR6/6） 内面:にぶい黄橙（10YR7/4） 【胎土】密、径1mm以下の長石・クサリレキを僅かに含む 【焼成】良好 【残存率】1/12以下 【調整】外面端部：ヨコナデ 他はナデ	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−9
19-40	23-40	瓦器 埦（大和型）	【法量】残存高:1.1cm 復元口径:14.2cm 【色調】外面:褐灰(10YR4/1) 内面:黒褐(10YR3/1) 【胎土】密、径1mm以下の長石を僅かに含む 【焼成】やや不良 【残存率】1/12以下 【調整】磨滅のため不明	高山3号墳	第2トレンチ 西壁土層断面図5	NTⅢ②−29
19-41	23-41	瓦器 埦	【法量】残存高:2.0cm 復元底径:4.0cm 【色調】外面:灰黄（2.5Y7/2） 内面:黄灰（2.5Y4/1） 灰白（2.5Y7/1） 【胎土】密、径1mm以下の長石を僅かに含む 【焼成】やや不良 【残存率】1/3 【調整】磨滅のため不明 内面に暗文僅かに残存	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−9
19-42	23-42	土製円盤 （埴輪転用？）	【法量】直径4.2cm 厚さ0.95cm 重量21ｇ 【色調】外面：橙（2.5Y R 6/6） 内面：にぶい赤褐（2.5Y R 5/4） 【胎土】普通、径3mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好 【残存率】完存 【調整】ナデ・オサエ 打ち掻き痕跡が認められる	高山3号墳	墳丘上 表採	NTⅢ②−3
19-43	23-43	鉄製品 飾り金具	【法量】長さ1.5cm 幅1.8cm 厚さ1.1cm 重量6ｇ	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−4
19-44	23-44	鉄製品 飾り金具	【法量】長さ1.7cm 幅1.85cm 厚さ1.0cm 重量7ｇ	高山3号墳	第2トレンチ	NTⅢ②−4
19-45	23-45	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：10.0cm 【色調】外面：にぶい赤褐（2.5YR5/4） 内面：橙（5YR7/6） 【胎土】普通、径1mm以下の石英・長石を少量含む 【焼成】良好、やや硬質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】外面：ナナメハケ（7本/cm） →ヨコハケ（8本/cm）→一部ナナメハケ 内面：ヨコハケ（8本/cm）	高山3号墳	墳丘上 表採	NTⅢ−27
19-46	23-46	形象埴輪？	【法量】残存高:6.3cm 【色調】外面:黄灰（2.5Y4/1） 内面:黄灰（2.5Ｙ6/1） 【胎土】普通、径2mm以下の石英・長石を少量含む 【焼成】良好、硬質（やや須恵質） 【黒斑】なし 【調整】外面：タテハケ（7本/cm） 内面：ナナメハケ（7本/cm）	高山3号墳	墳丘上 表採	KHS−46
19-47	23-47	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：6.4cm 【色調】外面：にぶい橙（5YR6/4） 内面：橙（5ＹR 6/6） 【胎土】普通、径2mm以下の石英・長石・赤褐色砂粒を少量含む 【焼成】良好、やや硬質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】内外面ともナデ 底面は未調整	高山3号墳	東側斜面 表採	KHS−47
19-48	23-48	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：5.8cm 【色調】にぶい黄橙（10YR7/4） 【胎土】普通、径1mm以下の石英・長石を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12以下 【調整】タテハケ(8本/cm）→ヨコハケ（7本/cm） 内面：ナデ・ユビオサエ 底面：未調整	高山3号墳	墳丘上 表採	NTⅢ−27

19-49	23-49	朝顔形埴輪 壺肩部	【法量】残存高：4.4cm 【色調】外面：にぶい橙（7.5YR6/4） 内面：にぶい赤褐（5 Y R 5/4） 【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、やや硬質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 以下 【調整】外面：タテハケ（8 本 /cm） →ヨコハケ（8 本 /cm） 内面：ナデ	高山3号墳	墳丘上 表採	NTⅢ−27
20-50	24-50	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高:7.2cm 復元口径:47.0cm 【色調】外面:橙（75YR7/6） 内面:橙（5YR7/6） 【胎土】やや粗、径 2mm以下の石英・長石・雲母・クサリレキをやや多く含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 【調整】外面：B 種ヨコハケ（4 本 /cm） 内面：ナデ 端部：ヨコナデ 【その他】口縁端部は水平に外側へ突出。	大塚山古墳	前方部南西側 外濠底	KOT⑩・2−1
20-51	25-51	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：29.9cm 復元口径：46.0cm 【色調】橙（5YR7/6） 【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石・雲母・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/4 【調整】外面：B 種ヨコハケ（4 本 /cm） 内面：ナナメハケ（4 本 /cm） →ナデ・ユビオサエ 【その他】口縁部に三角形スカシあり。2 か所残存、4 ～ 6 方向の可能性あり。上から 2 段目に方形スカシ（7cm角）あり、2 または 4 方向か。口縁端部は外側へ水平に突出する。	大塚山古墳	前方部南西側 外濠底	KOT⑩・2−1
20-52	24-52	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：7.0cm 【色調】橙（2.5YR6/8） 【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・黒色砂粒・雲母・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 以下 【調整】外面:ヨコハケ（5 本 /cm） 内面:ヨコハケ（5 本 /cm） →ナデ 【その他】円形スカシ	大塚山古墳	前方部南西側 外濠底	KOT⑩・2−1
20-53	24-53	円筒埴輪 体部	【法量】残存高:16.5cm 復元径（上段凸帯下）:40.2cm 【色調】外面:橙（2.5YR6/8） 内面:浅黄橙（10YR8/4） 【胎土】普通、径 4mm以下の石英・長石・雲母・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 以下 【調整】外面：ナナメハケ（4 ～ 6 本 /cm） →ヨコハケ（4 ～ 6 本 /cm） 内面：ナデ	大塚山古墳	前方部南西側 外濠底	KOT⑩・2−1
21-54	24-54	円筒埴輪 底部	【法量】残存高:6.0cm 【色調】外面:橙（5YR7/6） 内面:浅黄橙（7.5YR8/4） 【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石・クサリレキ・雲母を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 以下 【調整】タテハケ（4 本 /5mm） →ヨコハケ（4 本 /5mm） 内面：ナデ 底面：未調整	大塚山古墳	前方部南西側 外濠底	KOT⑩・2−1
21-55	24-55	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：10.9cm 復元底径：21.8cm 【色調】外面：にぶい橙（5YR7/4） 内面：橙（5YR7/6） 【胎土】やや粗、径 4mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/4 【調整】外面:タテハケ（5 本 /cm） →ヨコハケ（5 本 /cm） 内面：ヨコハケ（6 本 /cm） →ナデ・ユビオサエ	大塚山古墳	前方部南西側 外濠底	KOT⑩・2−1
21-56	25-56	巫女形埴輪 左腕部	【法量】残存長：21.8cm 幅：9.9cm 厚さ：1.0 ～ 1.8cm 【色調】外面：浅黄橙（7.5YR8/3） 内面：灰白（10YR8/2） 【胎土】密、径 5mm以下の石英・長石・黒褐色砂粒・赤褐色砂粒・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【調整】外面：全体的にハケ（4 本 /5mm） 調整後ナデ・オサエ 内面：ナデ 【その他】掌に指の接合痕あり。肘付近に襲の剝離痕あり。襲部分に線刻が認められる。両腕で容器を捧げ持つ姿が考えられる。	大塚山古墳	前方部南西側 外濠底	KOT⑩・2−1
22-57	26-57	円筒埴輪 体部	【法量】残存高:23.1cm 復元径（上段凸帯部）:39.4cm 【色調】橙（2.5YR6/6） 【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・雲母・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【調整】外面：タテハケ（4 ～ 7 本 /cm） →ヨコハケ（5 ～ 7 本 /cm） 内面：タテハケ（6 本 /cm） →ナデ・ユビオサエ 【その他】上部に小円形スカシ、一段空けて下部に円形スカシ	大塚山古墳	前方部東側下段斜面 表採	KHS−49
22-58	26-58	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：21.0cm 復元底径：30.2cm 【色調】橙（2.5YR7/6） 【胎土】普通、径 5mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【調整】外面：ヨコハケ（6 本 /cm） 内面：タテハケ（6 本 /cm） →ナデ・オサエ 底面：未調整	大塚山古墳	前方部東側 下段斜面 表採	KHS−48
22-59	26-59	円筒埴輪 底部	【法量】残存高：24.1cm 復元底径：31.8cm 【色調】橙（5YR7/6） 【胎土】普通、径 3mm以下の石英・長石・赤褐色砂粒・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、やや硬質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 以下 【調整】外面：タテハケ→ヨコハケ（3 ～ 4 本 /cm） 内面：ナデ・オサエ 【その他】円形スカシ	大塚山古墳	後円部北側 墳丘裾 溝内表採	KHS−50
23-60	27-60	盾形埴輪	【法量】残存長:21.15cm 残存幅:7.9cm 厚さ:盾部 1.45cm、円筒部 1.15cm 円筒部復元径:18.0cm 【色調】橙（2.5YR6/8） 【胎土】密、径 6mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【調整】ナデ・ユビオサエ 【その他】線刻（鋸歯文・界線）	大塚山古墳	前方部東側 墳丘上表採	KHS−11
23-61	27-61	盾形埴輪	【法量】残存長：10.5cm 残存幅 10.55cm 厚さ：盾部 1.5cm、円筒部 1.1cm 円筒部復元径:19.8cm 【色調】にぶい橙（7.5YR7/4） 【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキ・雲母を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【調整】ナデ・ユビオサエ 【その他】線刻（鋸歯文・綾杉文）	大塚山古墳	後円部北西側	
23-62	27-62	蓋形埴輪 傘部	【法量】残存高：5.5cm 円筒部復元径：22.6cm 【色調】橙（2.5YR6/6） 【胎土】密、径 4mm以下の石英・長石・黒褐色砂粒・赤褐色砂粒を少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【調整】外面：ハケメ（3 本 /cm） →ナデ 内面：ナデ	大塚山古墳	前方部東側 墳丘上表採	KHS−11
23-63	27-63	蓋形埴輪 立飾	【法量】残存長：13.3cm 残存幅 13.7cm 厚さ：2.0cm 【色調】橙（5YR7/6） 【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石・チャート・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし	大塚山古墳	後円部墳頂 南西部表採	KTX−1
23-64	27-64	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：5.8cm 【色調】橙（7.5YR6/6） 【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 以下 【調整】ハケ（5 本 /cm） 小口面：ケズリ→ナデ 【その他】線刻にて弧線と直線を描く。	大塚山古墳	墳丘上表採	KTX−29
23-65	27-65	朝顔形埴輪 壺肩部	【法量】残存高：9.5cm 【色調】外面：橙（5YR6/6） 内面：橙（7.5YR6/6） 【胎土】普通、径 1mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好、軟質 【黒斑】なし 【残存率】1/12 以下 【調整】外面：ヨコハケ（7 本 /cm） 内面：ヨコハケ（8 本 /cm） ナデ 【その他】外面全体に僅かに赤色顔料残存。円形スカシ	大塚山古墳	墳丘上表採	KTX−29
23-66	27-66	土師器 小型丸底壺	【法量】残存高：5.7cm 体部最大径：8.0cm 【色調】外面：橙（5YR6/6） 内面：にぶい橙（5YR7/4） 【胎土】普通、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好 【黒斑】なし 【残存率】全体の 4/5 【調整】外面：口縁部はハケ（8 本 /cm） →ヨコナデ 体部はヘラケズリ→ナデ 内面：ナデ・ヨコナデ 【その他】外面全体に僅かに赤色顔料残存。一部に煤付着。	大塚山古墳	墳丘上表採	KTX−29
24-67	28-67	蓋形埴輪 立飾	【法量】残存長:6.7cm 残存幅 3.75cm 厚さ:1.75cm 【色調】橙(5YR6/6) 明赤褐(2.5YR5/6) 【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む 【焼成】良好 【黒斑】なし 【調整】文様面：ハケ（6 本 /cm） 小口：ヘラケズリ→ナデ 【その他】三面に赤色顔料残存	中良塚古墳	後円部東側 下段テラス 表採	NNR・X−14
24-68	28-68	蓋形埴輪 立飾	【法量】残存長：8.75cm 残存幅 12.25cm 厚さ：2.7cm 【色調】明赤褐（2.5YR5/6） 赤（10YR5/6） 【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む 【焼成】良好 【黒斑】なし 【調整】ハケ（8 本 /cm） →施文 小口：ヘラケズリ→ナデ 【その他】一面と端面に赤色顔料残存。線刻（弧線）	中良塚古墳	後円部東側 下段テラス 表採	NNR・X−14

24-69	28-69	蓋形埴輪 立飾	【法量】残存長：9.2cm　残存幅 9.4cm　厚さ：1.7cm　【色調】灰褐（5YR5/2）【胎土】やや密、径 2mm以下の石英・長石・クサリレキを少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】ナデ→施文　小口：ヘラケズリ→ナデ　【その他】線刻（弧線）	中良塚古墳	表採	KHS−52
24-70	28-70	蓋形埴輪 立飾	【法量】残存長：11.9cm　残存幅 10.85cm　厚さ：1.95cm　【色調】にぶい橙（5YR6/4）　赤（7.5YR4/8）【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】ナデ→施文　小口:ヘラケズリ→ナデ　【その他】両面に赤色顔料残存。線刻（弧線）	中良塚古墳	後円部墳頂　表採	NNR・X−18
24-71	28-71	蓋形埴輪 立飾	【法量】残存長:13.5cm　残存幅 10.6cm　厚さ:1.8cm　【色調】橙（5YR6/6）　赤（7.5YR4/6）【胎土】密、径 1mm以下の石英・長石・赤褐色砂粒を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】ハケ（10 本 /cm）→施文　【その他】両面全とも体に赤色顔料残存。線刻（弧線）	中良塚古墳	後円部東側 下段テラス　表採	NNR・X−14
24-72	28-72	草摺形埴輪	【法量】残存高：8.0cm　復元径：最小 23.0cm、最大 35.6cm　【色調】にぶい橙（7.5YR6/4）【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石・赤褐色砂粒・クサリレキを少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】外面：ハケ（7 ～ 8 本 /cm）→施文　内面：ナデ・ユビオサエ　【その他】線刻（山形文・界線）	中良塚古墳	後円部墳頂　表採	NNR・X−18
24-73	28-73	盾形埴輪	【法量】残存長:11.55cm　残存幅:7.7cm　厚さ:1.6cm　【色調】にぶい橙（5YR6/4）【胎土】密、径 2mm以下の石英･長石を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】外面:ハケ（8 本 /cm）→ナデ→施文　内面：ナデ・ユビオサエ　【その他】線刻（鋸歯文・界線）	中良塚古墳	後円部東側 下段テラス　表採	NNR・X−14
24-74	28-74	盾形埴輪	【法量】残存長:4.4cm　残存幅:5.8cm　厚さ:1.75cm　【色調】にぶい橙(5YR6/4)【胎土】密、径 1mm以下の石英・長石・黒色砂粒を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】外面:ハケ（8 ～ 9 本 /cm）→施文　内面:ナデ･ユビオサエ　【その他】赤色顔料残存。線刻（直線）	中良塚古墳	表採	KHS−51
25-75	29-75	家形埴輪 屋根部 （破風板）	【法量】残存長：8.85cm　残存幅 12.4cm　厚さ：2.1cm　【色調】にぶい赤褐（5YR4/3）【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】ハケ（6 ～ 7 本 /cm）→ナデ　小口：ヘラケズリ→ナデ　【その他】両面に赤色顔料残存	中良塚古墳	後円部東側 下段テラス　表採	NNR・X−14
25-76	29-76	家形埴輪 屋根部	【法量】残存長：21.8cm　残存幅 9.5cm　厚さ：2.5cm　【色調】外面：橙（7.5YR7/6）　内面：橙（5YR7/6）【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】外面：ハケ（8 本 /cm）→施文　内面：ハケ（4 本 /5mm）→ナデ　【その他】棟の基部に水平方向の線刻、屋根に 2 本 1 組になる垂直方向の線刻あり。	中良塚古墳	表採	KHS−52
25-77	29-77	家形埴輪 屋根部	【法量】残存長：14.2cm　残存幅 8.5cm　厚さ：1.6cm　【色調】にぶい赤褐（2.5YR4/4）【胎土】密、径 2mm以下の石英・長石を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】ハケ（7 ～ 8 本 /cm）→施文→凸帯貼り付け　【その他】両面に赤色顔料残存	中良塚古墳	後円部東側 下段テラス　表採	NNR・X−14
25-78	29-78	家形埴輪 裾廻凸帯部	【法量】残存長:10.0cm　残存幅 3.5cm　厚さ:3.6cm　【色調】にぶい赤褐(2.5YR4/4)【胎土】密、径 1mm以下の石英･長石を少量含む　【焼成】良好　【黒斑】なし　【調整】上面:ハケ（9 本 /cm）→ナデ　前面：ハケ（9 本 /cm）　下面（ヘラケズリ→ナデ　【その他】三面に赤色顔料残存　剝離部分にハケメ（9 本 /cm）	中良塚古墳	後円部東側 下段テラス　表採	NNR・X−14

図　版

①高山３号墳（手前）と高山２号墳 (左奥)・中良塚古墳（右奥）

②高山３号墳と大塚山古墳（左奥）

75

67

71

77

70

78

19

68

赤色顔料の残る大塚山古墳群出土・採集埴輪

①調査前（東から）

②掘削状況（東から）

①掘削状況（西から）

1

2

3

②出土遺物

①調査前（東から）

②第６トレンチ付近
調査前（東から）

③第１トレンチ
調査前（東から）

①第１トレンチ
（西から）

②第２トレンチ
（西から）

③第３トレンチ
（南から）

①第４トレンチ
（北から）

②第５トレンチ
（北から）

③第６トレンチ
（東から）

①第７トレンチ
（西から）

②第７トレンチ
須恵器出土状況
（西から）

③第７トレンチ
拡張後（南から）

①第８トレンチ
（南から）

②第９トレンチ
（西から）

③出土遺物

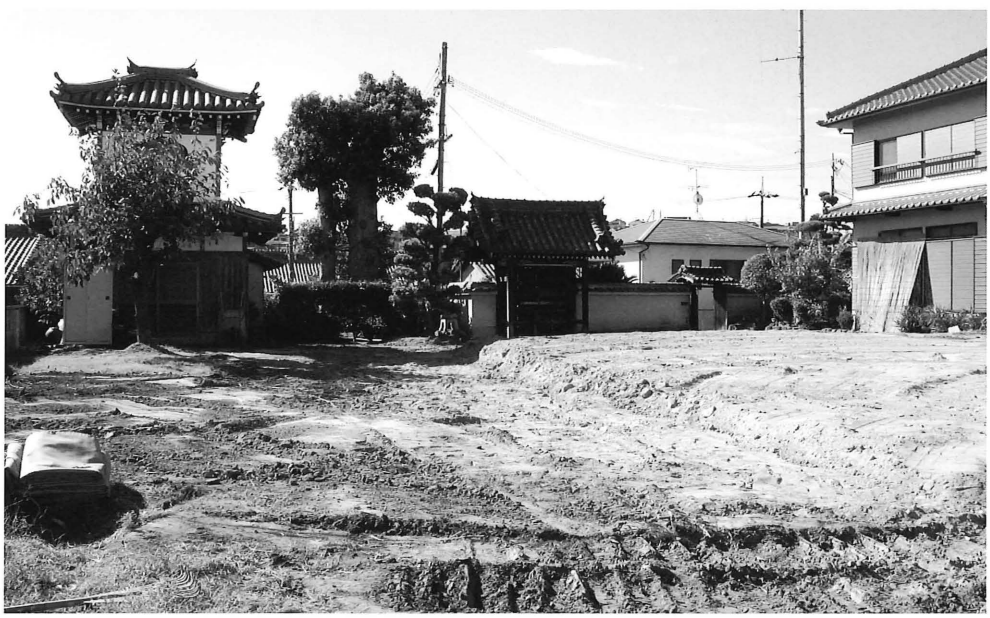
①調査前（北から）

②第１トレンチ
調査前
（北東から）

③第１トレンチ
表土除去後
（北東から）

①第１トレンチ
掘り下げ状況
（北から）

②第２トレンチ
掘り下げ状況
（東から）



③建物撤去後（北から）

①建物撤去後の基壇
（北東から）

②第３トレンチ・
第４トレンチ
（東から）

③第３トレンチ・
第４トレンチ
（北から）

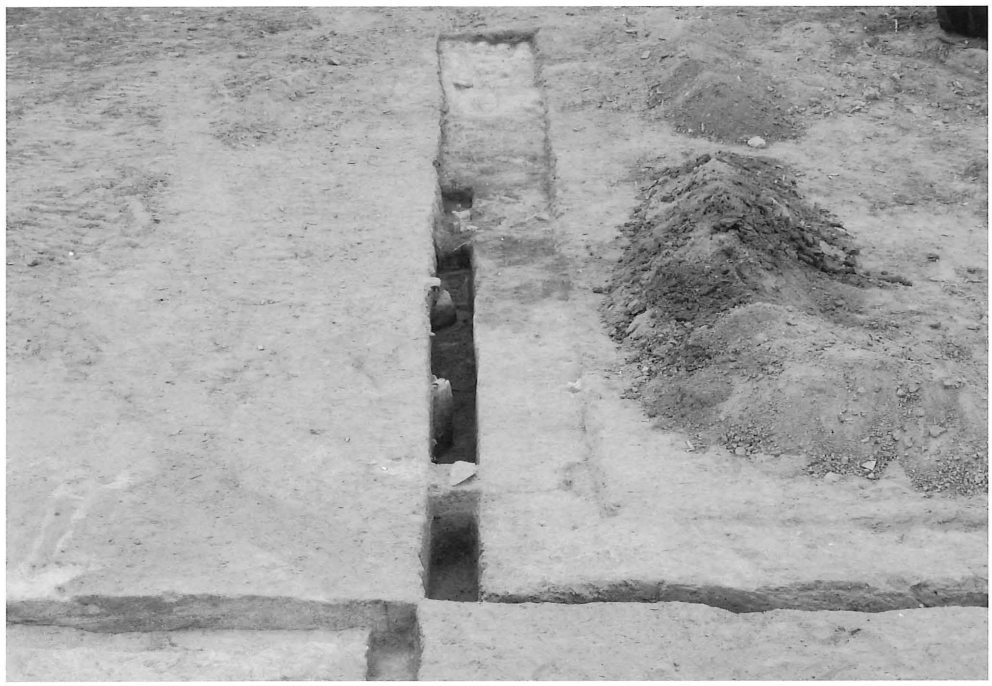
①第３トレンチ１区
土壙（西から）

②第３トレンチ・
第４トレンチ
（北から）

①第３トレンチ１区
礎石１据え付け痕
（西から）

②第４トレンチ
１区　盛土状況
（西から）

③第４トレンチ２区
（北東から）



①第４トレンチ２区
礎石列（東から）

②第４トレンチ２区
礎石２（南から）

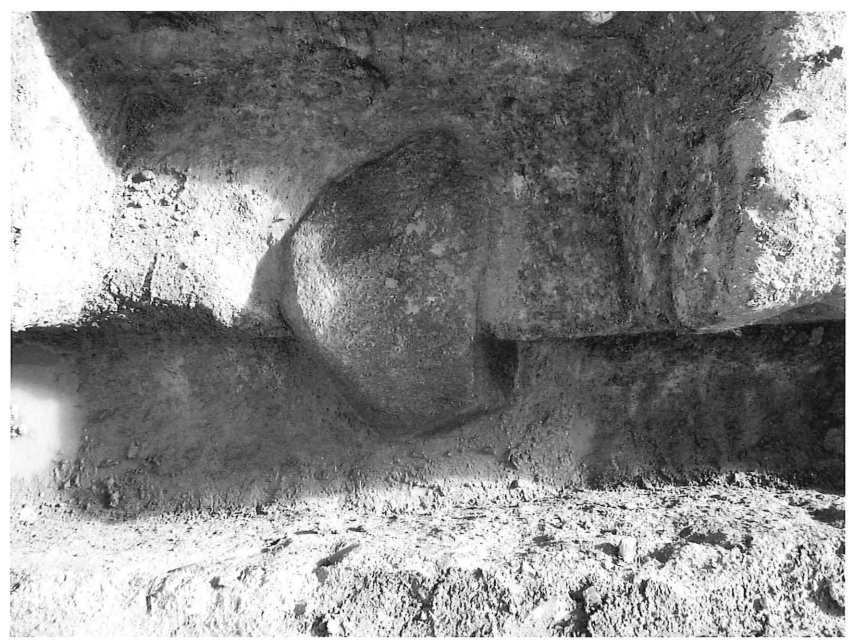
③第４トレンチ２区
礎石２（北から）

①第４トレンチ２区
礎石３（北から）

②第４トレンチ２区
礎石４（北から）

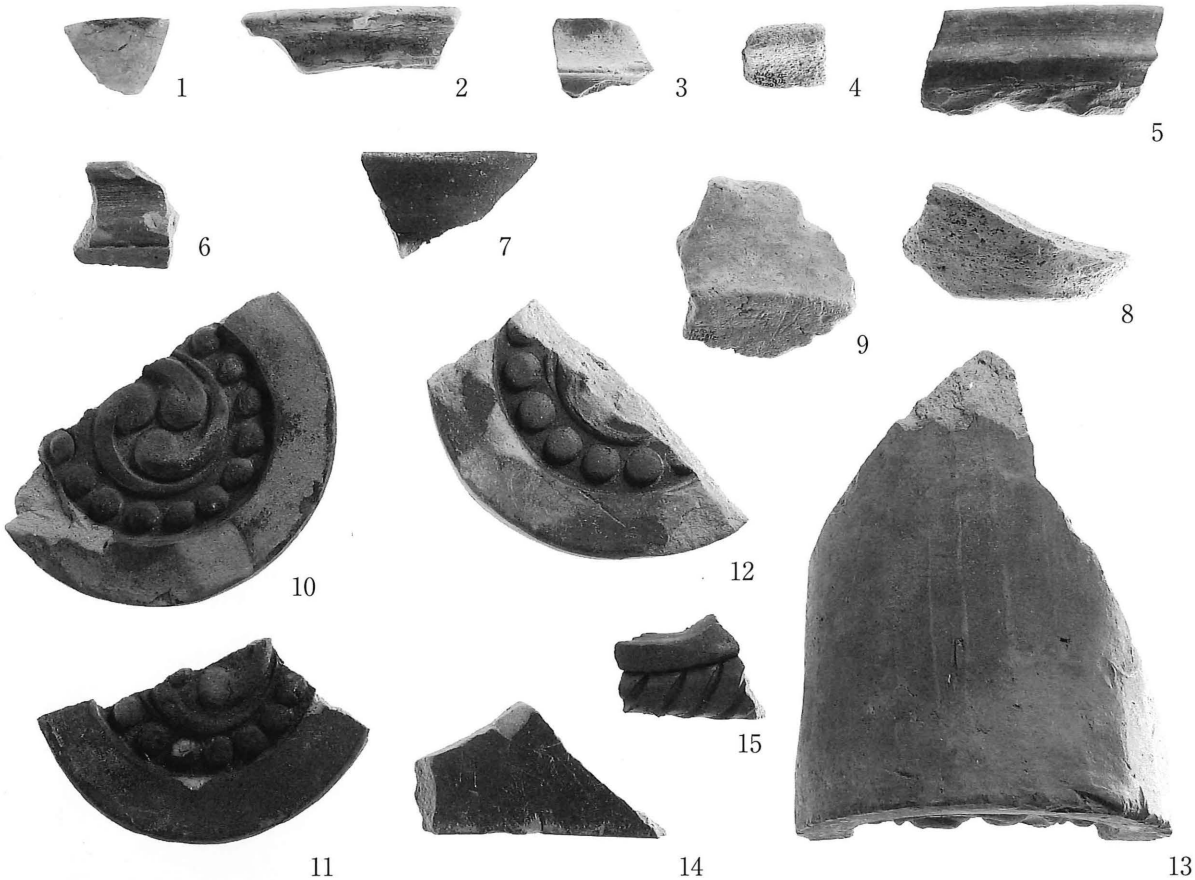
③第４トレンチ２区
礎石４据え付け痕跡
検出状況

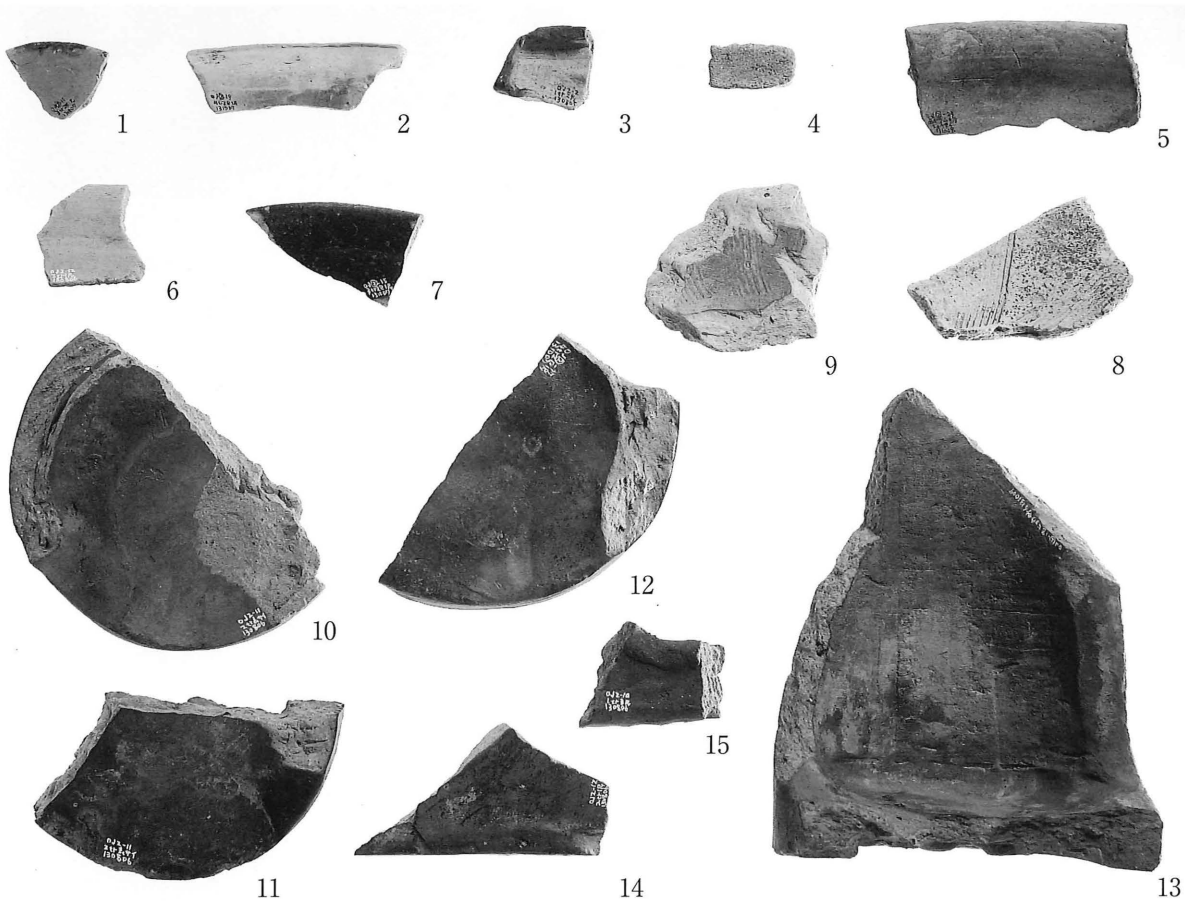
①第４トレンチ２区
礎石４（北から）



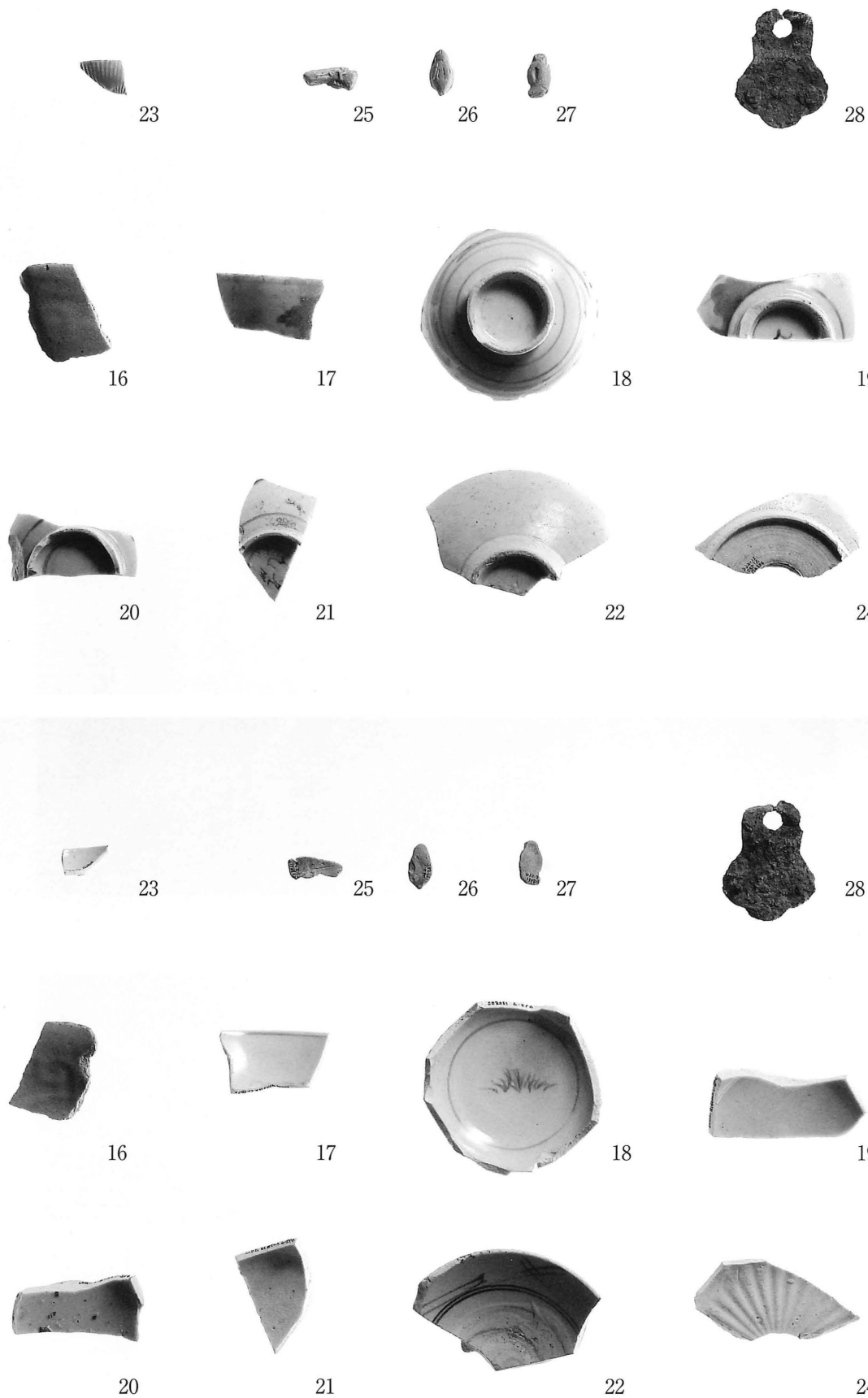
②第４トレンチ２区
礎石４　礫除去後
（北から）

③第４トレンチ２区
礎石４礫除去後
（南から）



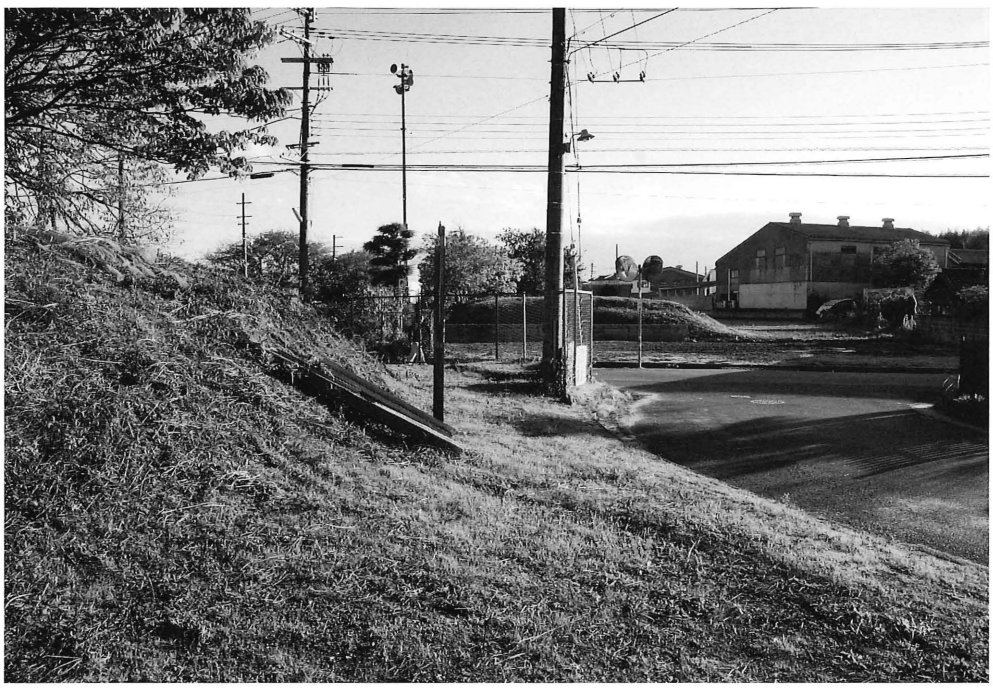


出土遺物（1）

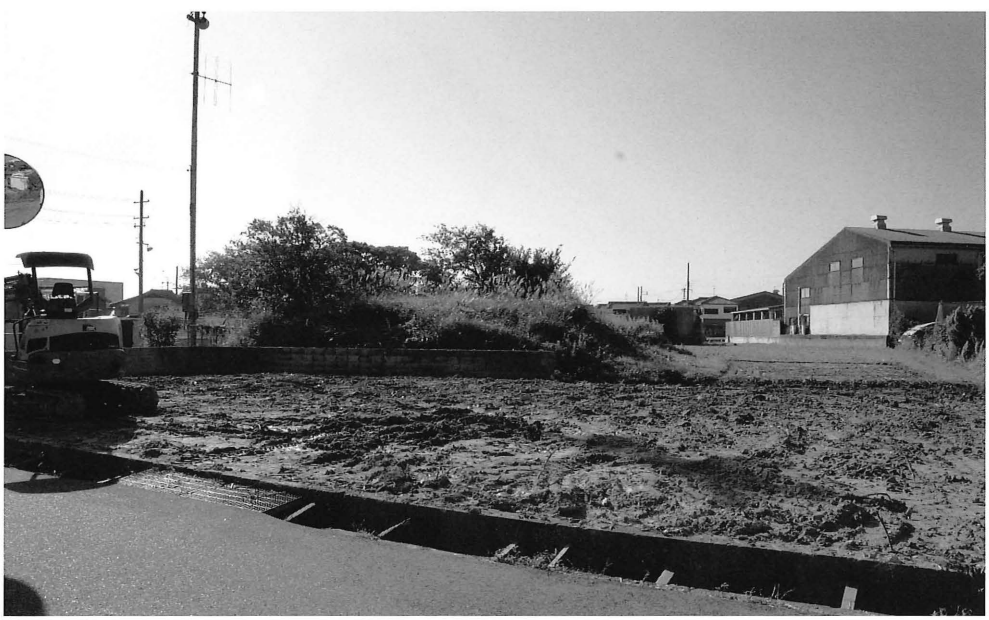

23
25
26
27
28
16
17
18
19
20
21
22
24
23
25
26
27
28
16
17
18
19
20
21
22
24

出土遺物（2）

①高山３号墳と周辺の古墳（西から）

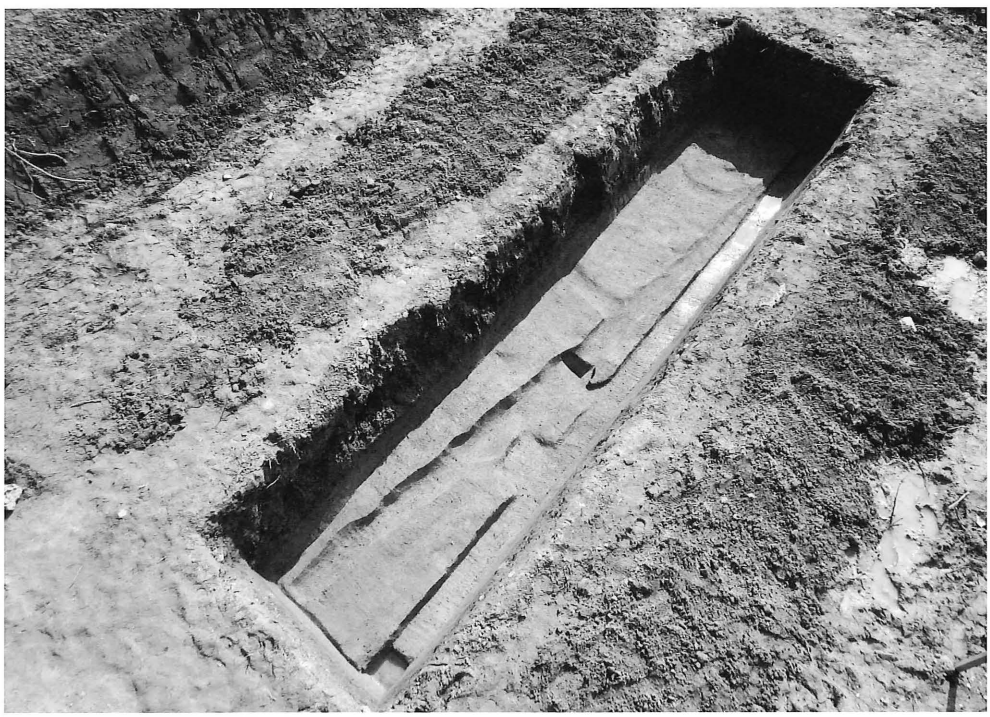


②高山２号墳（左）と高山３号墳（中央）（北から）



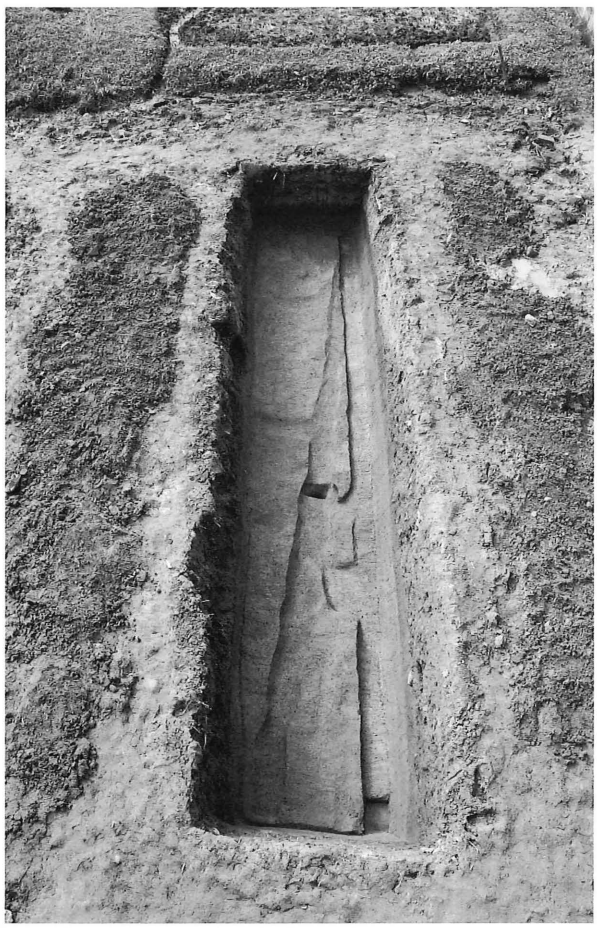
③調査前（北から）

①完掘状況（北から）



②第１トレンチ
（北西から）

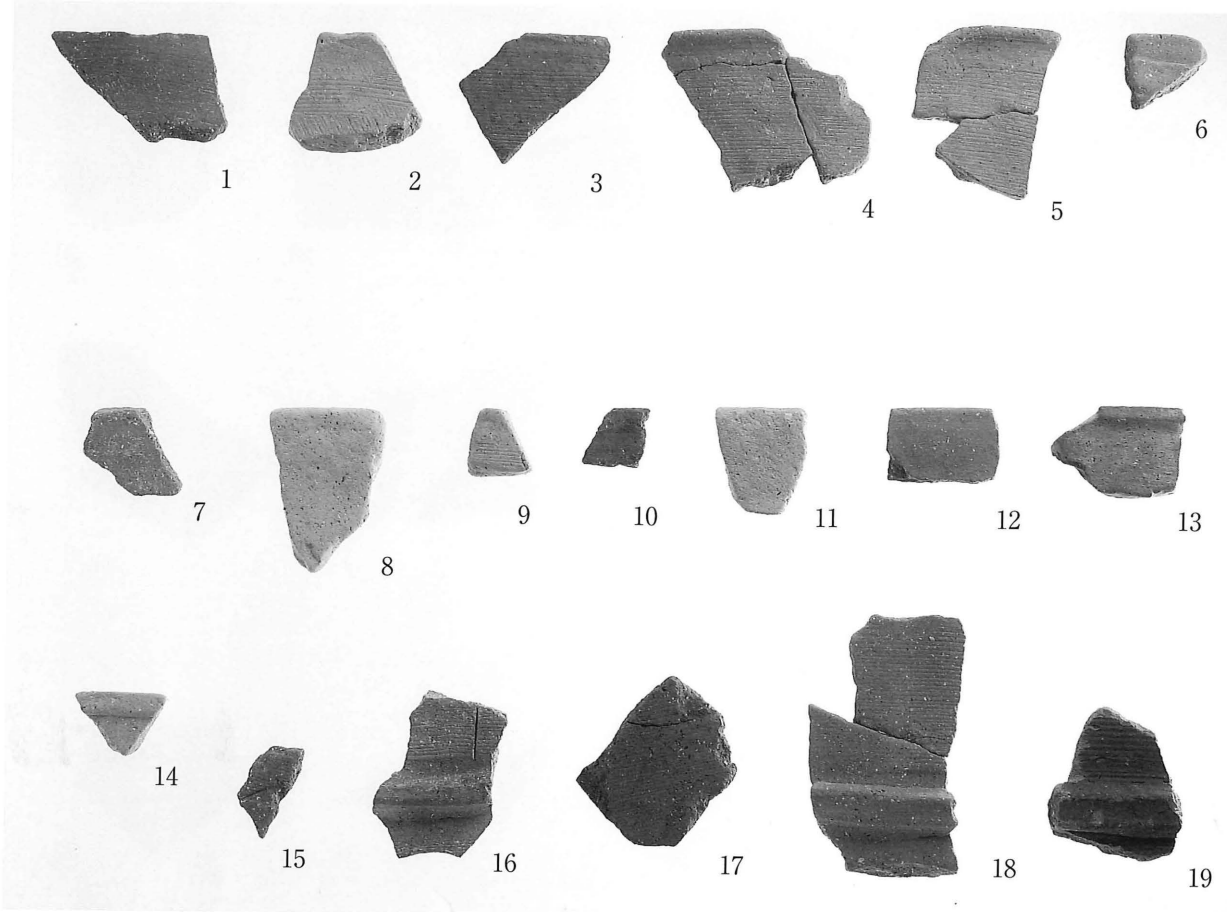
③第１トレンチ
拡張区（西から）

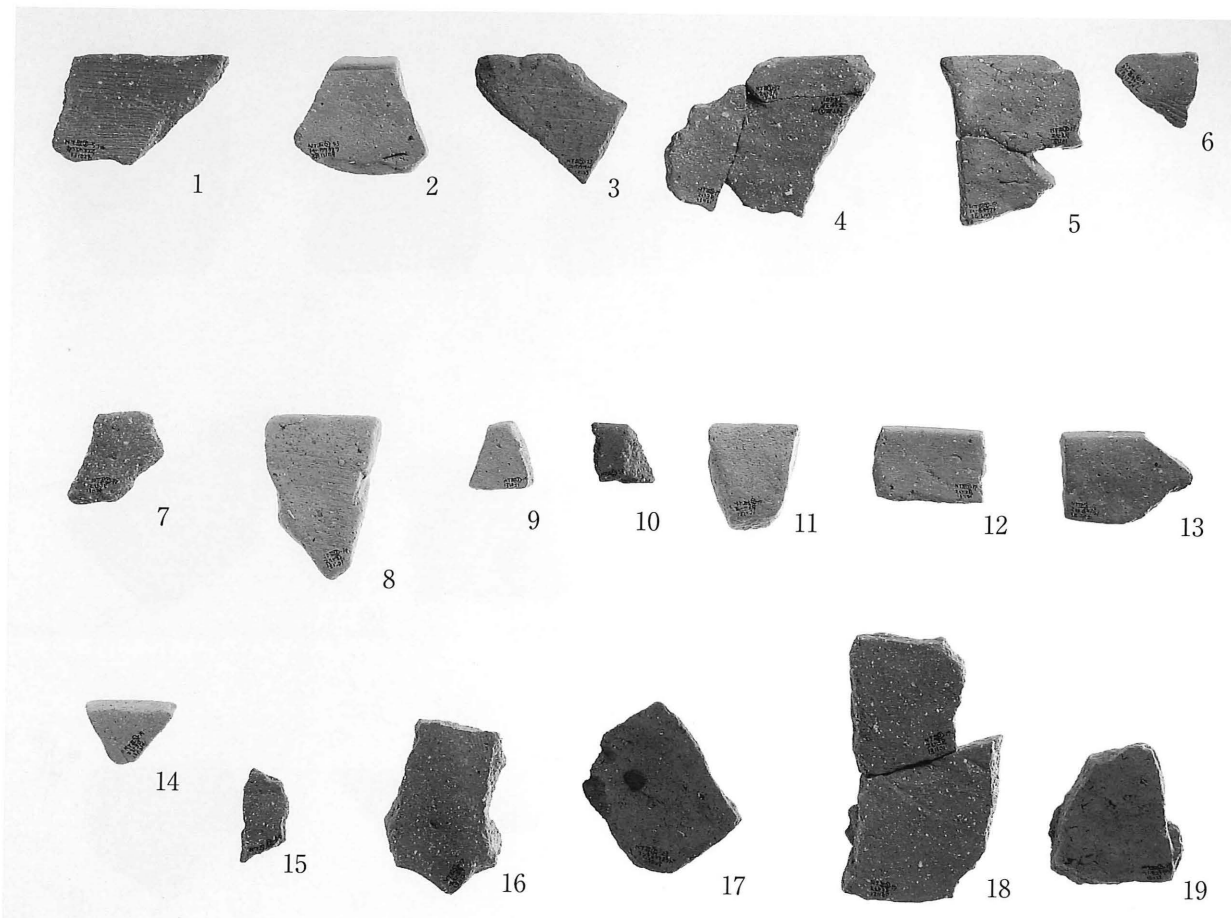


①第１トレンチ　（北から）

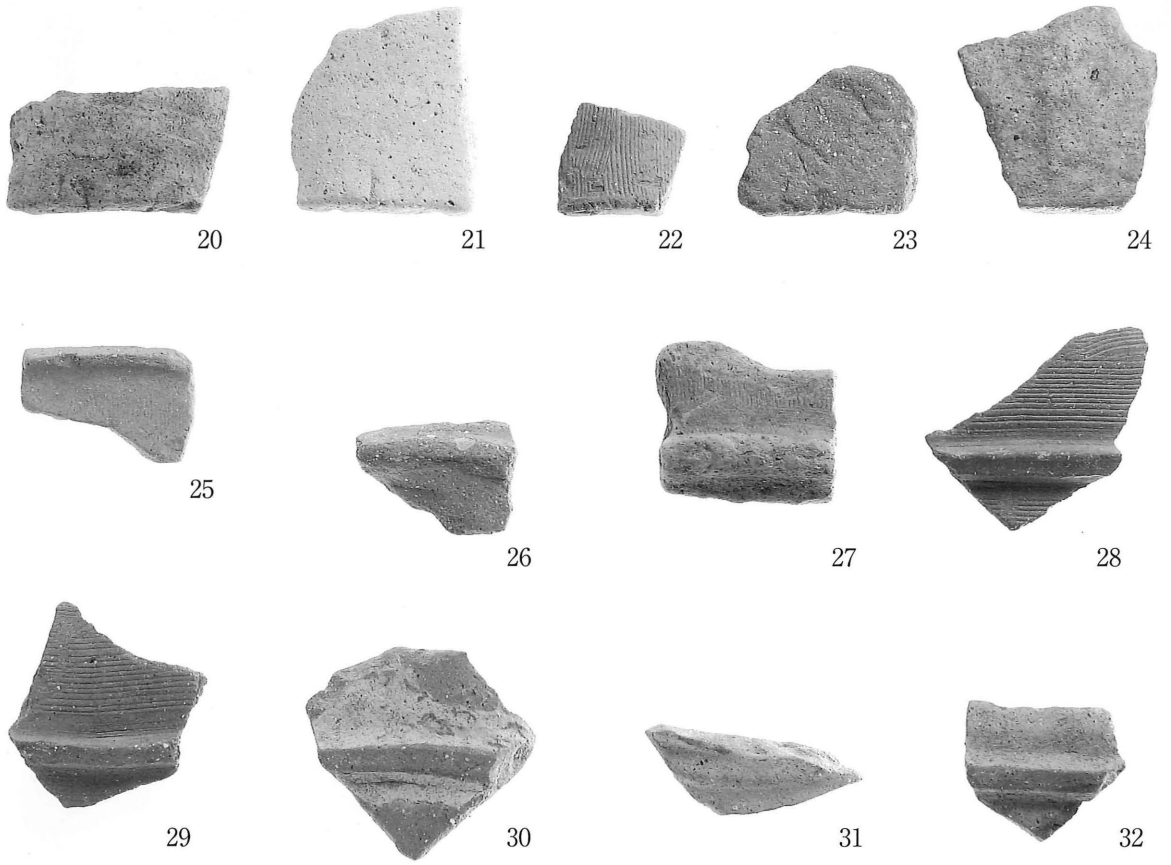
②第２トレンチ　（北から）

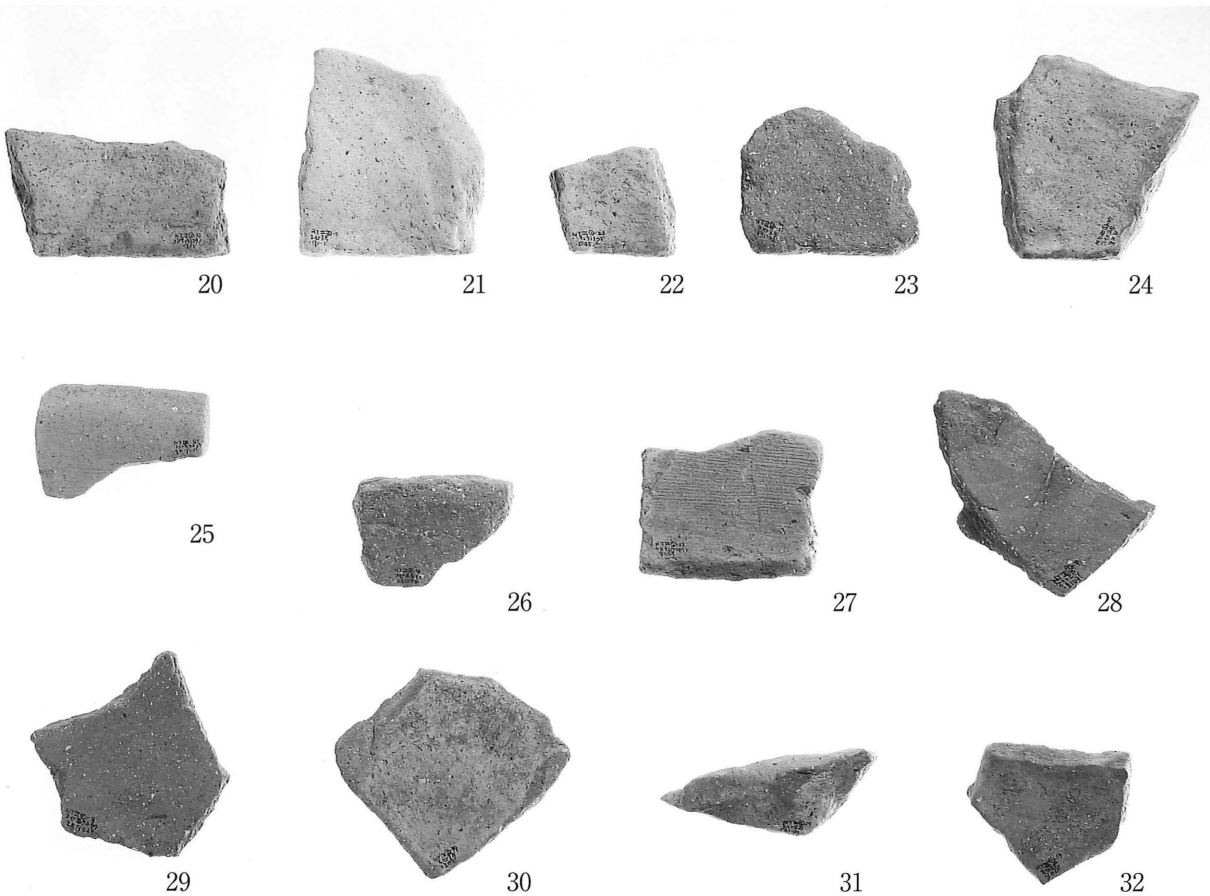
③第２トレンチ　（南・墳丘から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

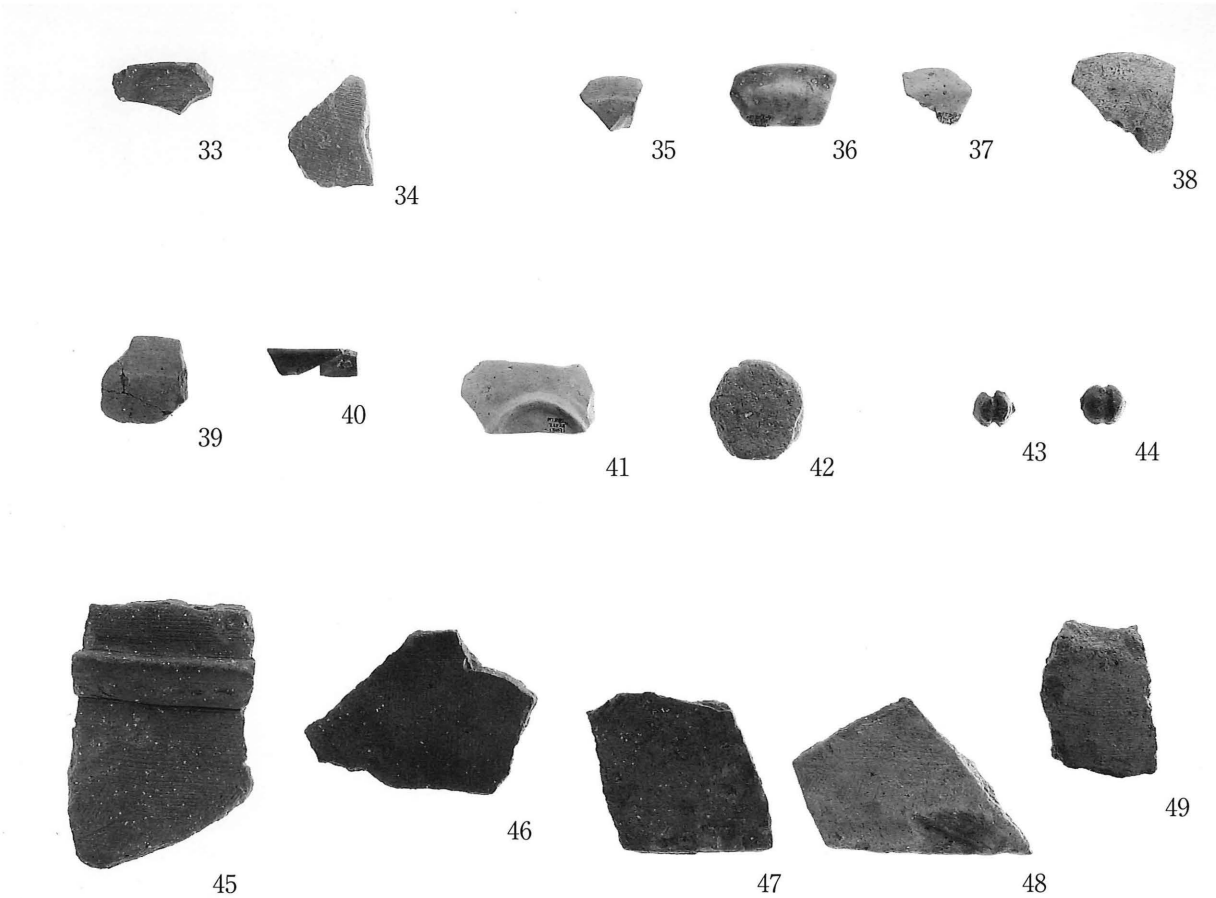

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

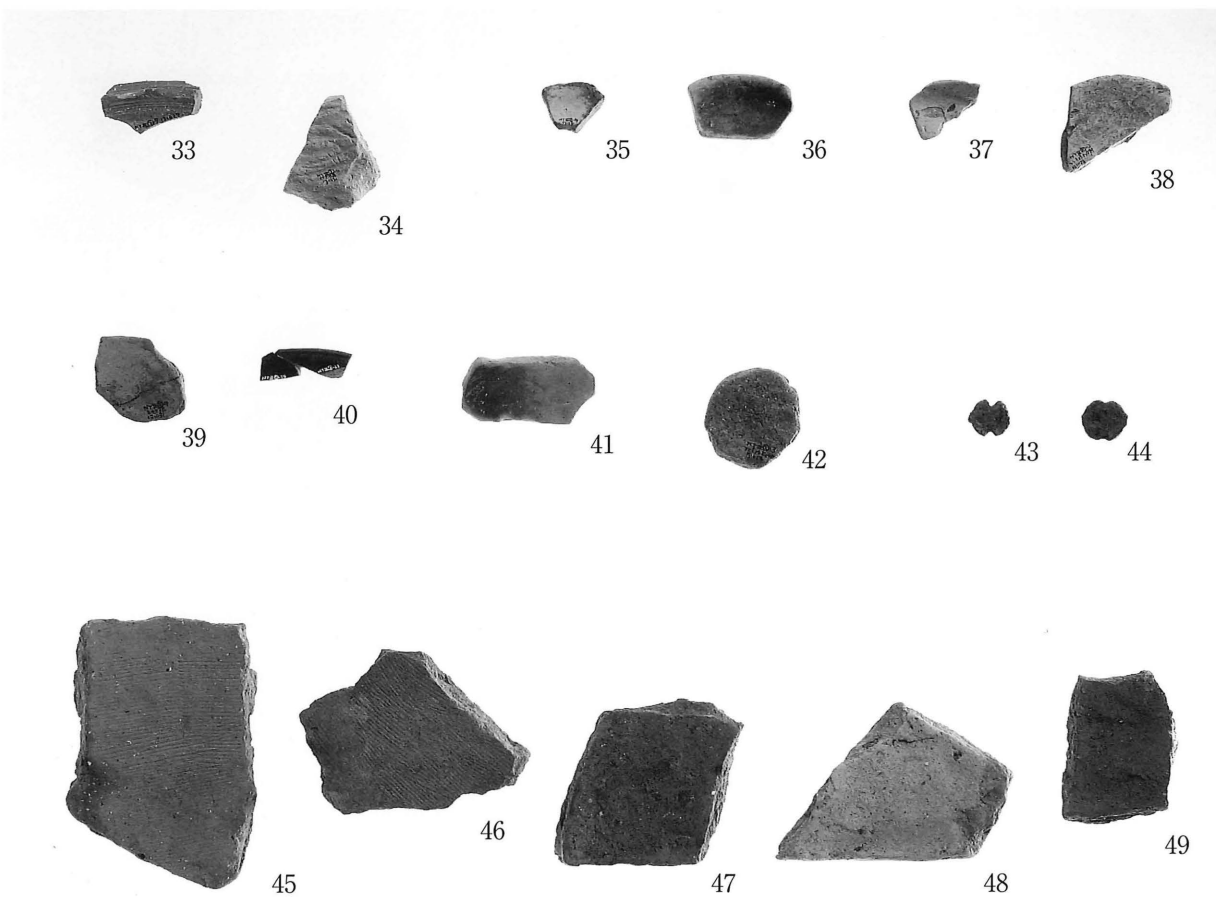
出土・採集遺物（1）


20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

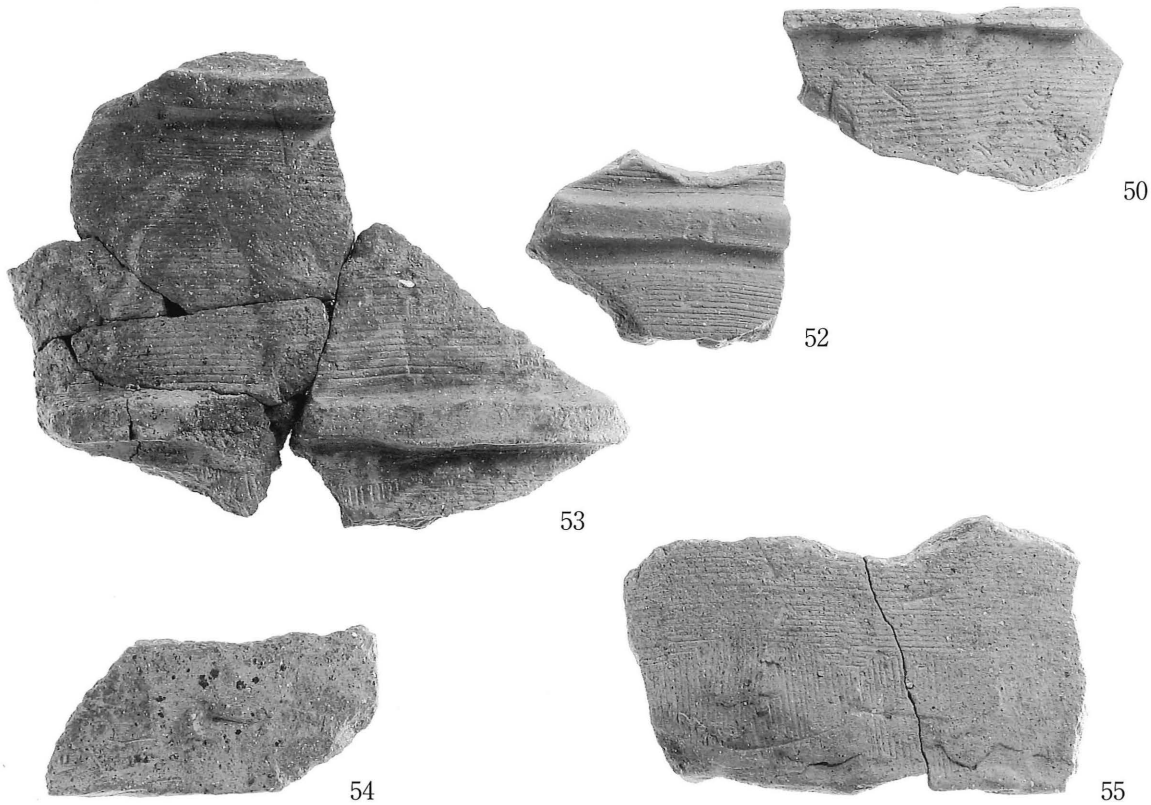

20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

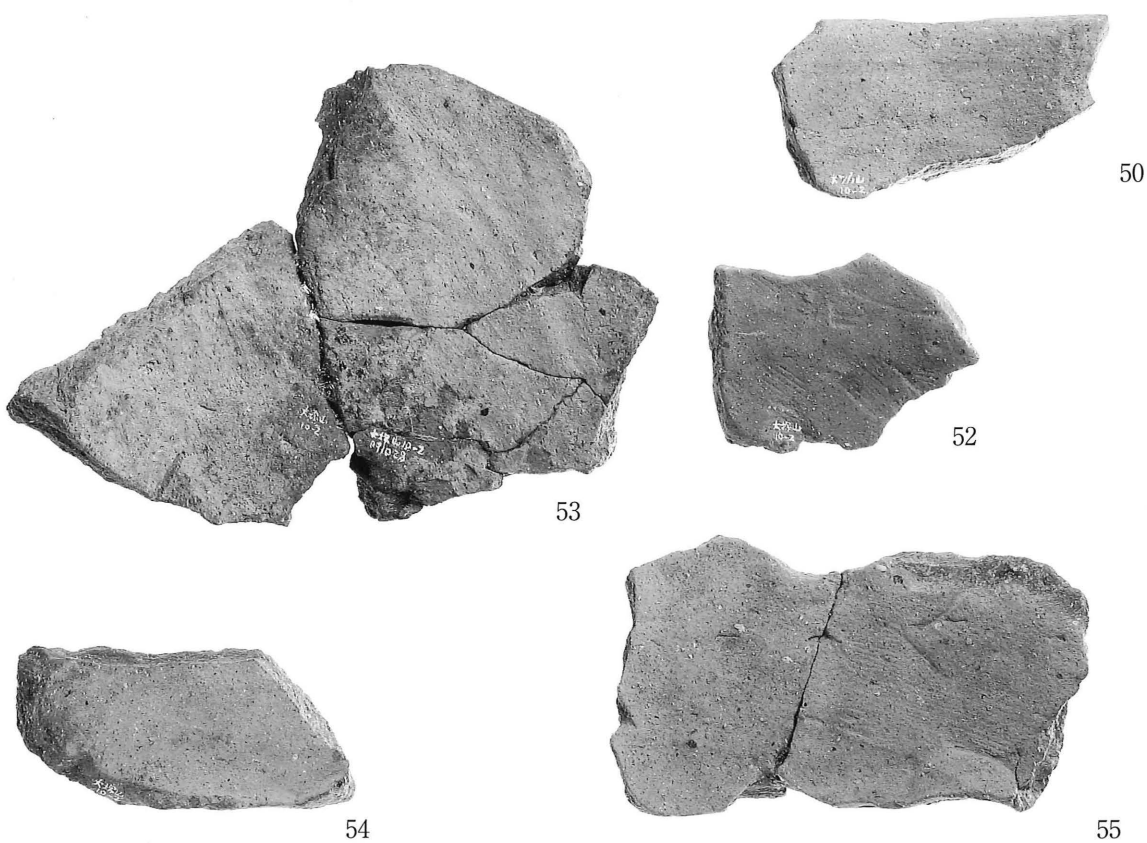
出土・採集遺物（2）


33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49


33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49

出土・採集遺物（3）



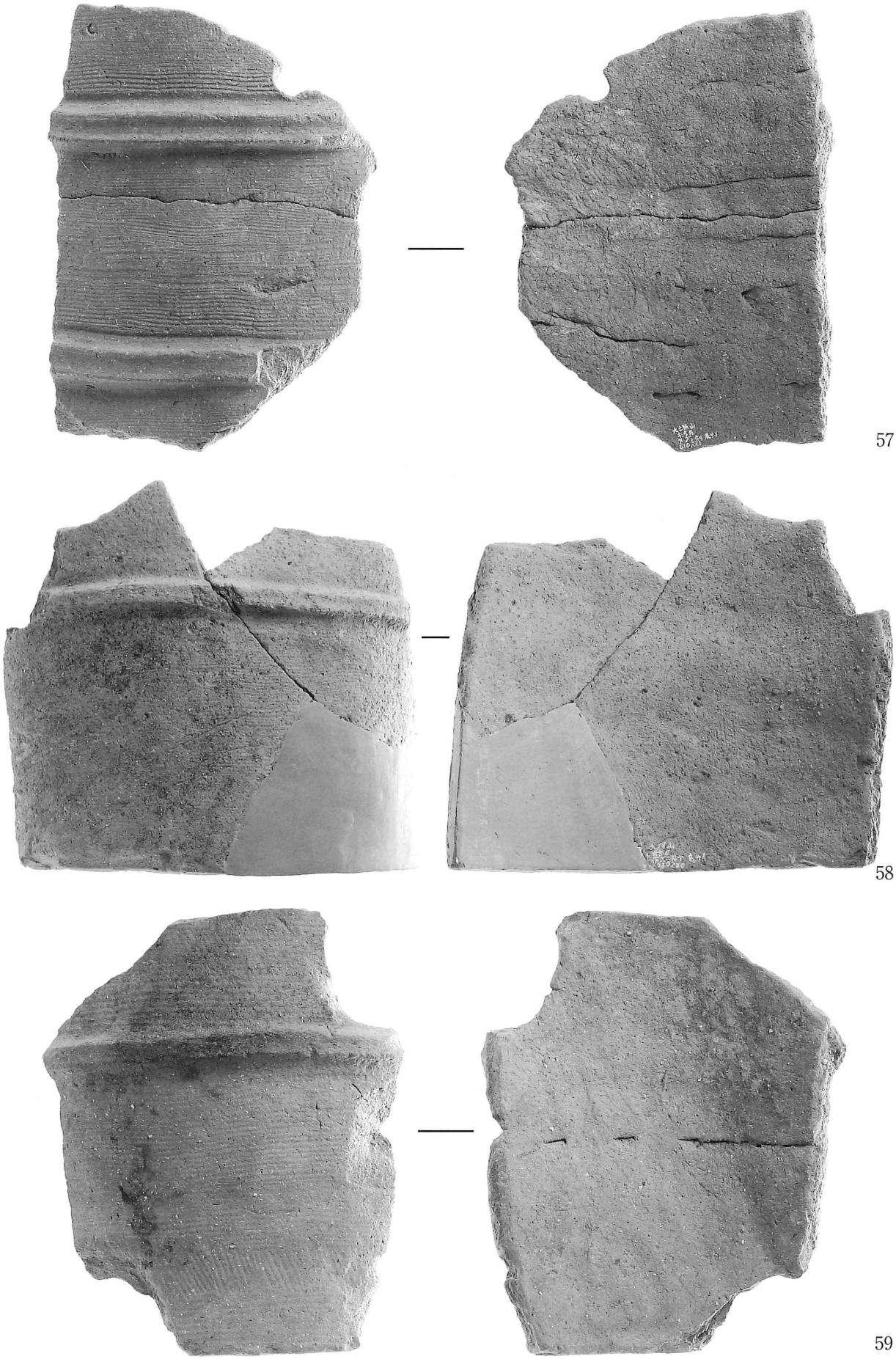


大塚山古墳群出土・採集遺物（1）

51

56

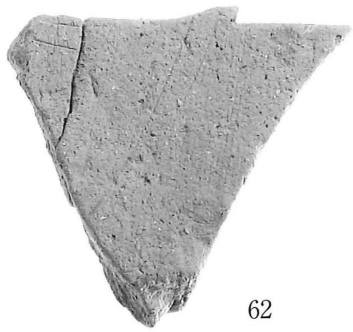
大塚山古墳群出土・採集遺物（2）



大塚山古墳群出土・採集遺物（3）

60

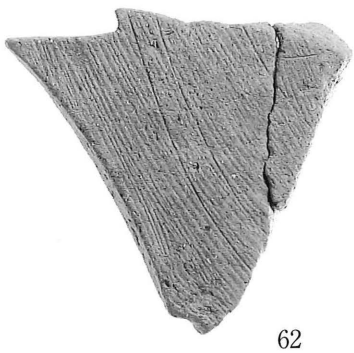
61


62

63

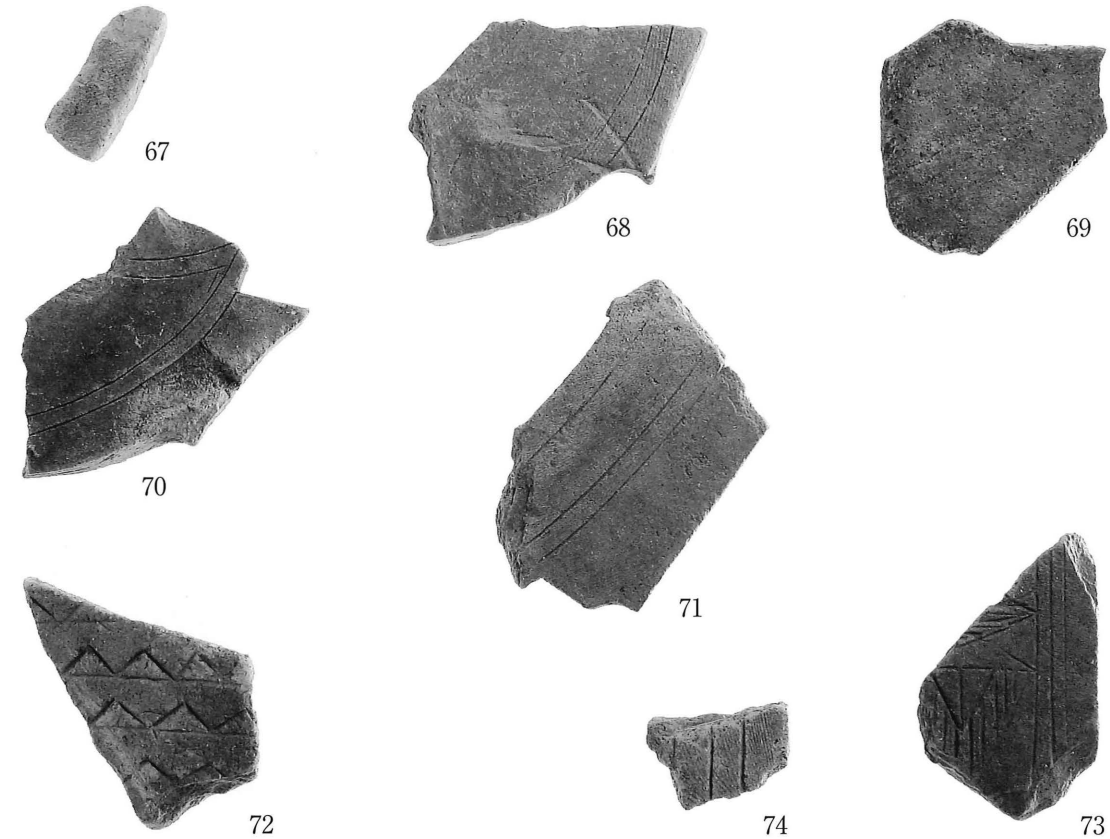
60

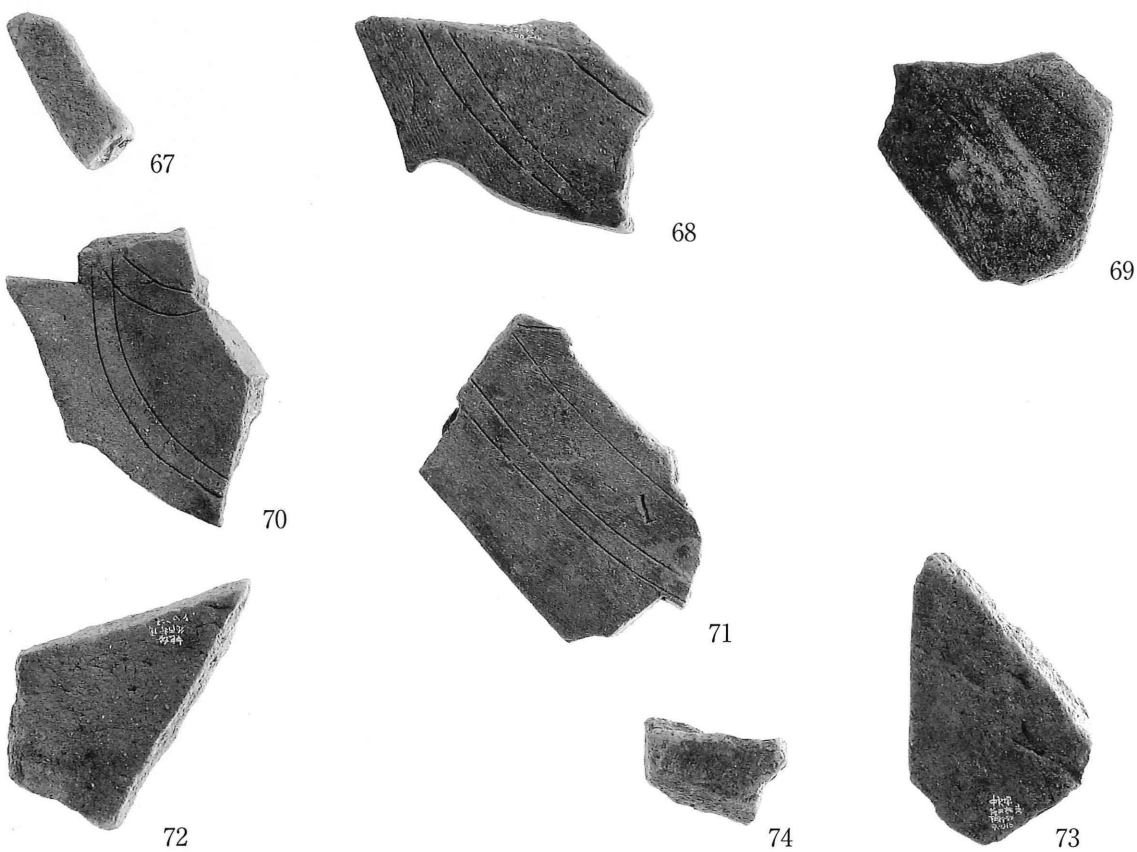
61


62

63

大塚山古墳群出土・採集遺物（4）





大塚山古墳群出土・採集遺物（5）

75

76

77

78

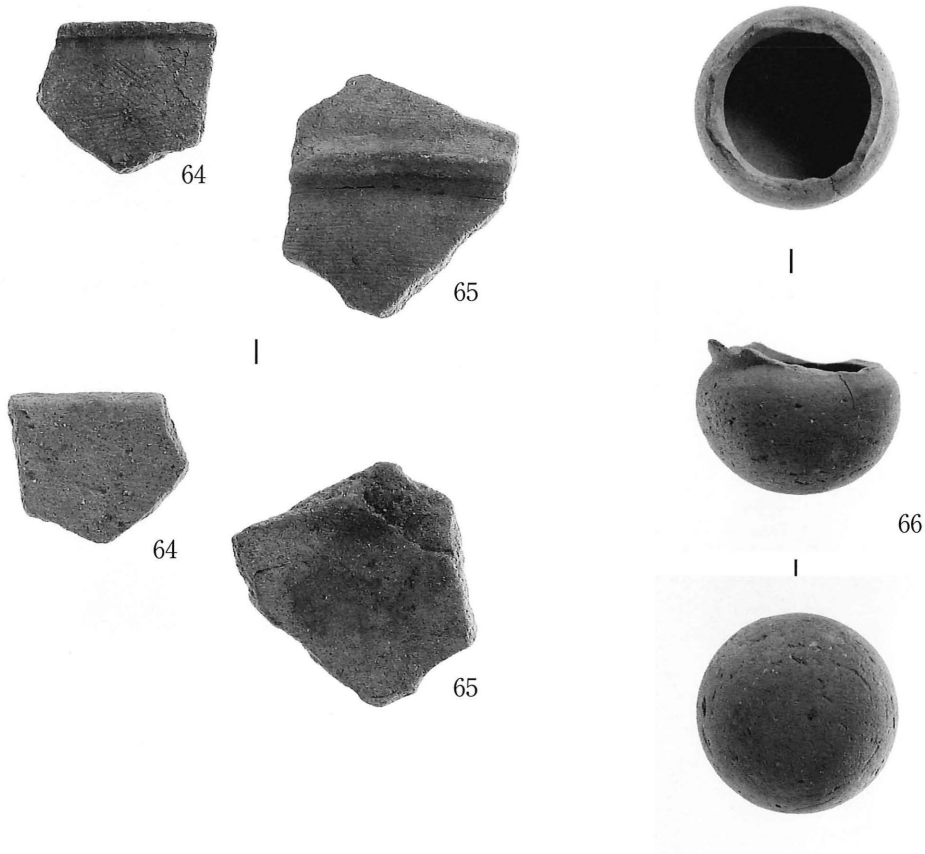
75

76

77

78

大塚山古墳群出土・採集遺物（6）



大塚山古墳群出土・採集遺物（7）

報告書抄録

ふりがな	にせんじゅういち・にせんじゅうさんねんどまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	2011・2013年度埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	川合遺跡地区　薬井試掘　大輪田・城内遺跡第２次　高山３号墳（高山塚３号古墳）第２次
巻次	
シリーズ名	河合町文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編著者名	吉村公男
編集機関	河合町教育委員会
所在地	〒636-0053　奈良県北葛城郡河合町池部２－１３－１　TEL 0745-57-2271　（生涯学習課所在地）
発行年月日	西暦　2014年3月25日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	°　′　″	°　′　″		㎡	
川合遺跡大西地区（かわいいせきおおにしちく）	奈良県北葛城郡（ならけんきたかつらぎぐん） 河合町川合（かわいちょうかわい）	29427	017	34　35　19	135　44　40	2012年2月13日 ～2月16日	4.00	緊急発掘 （個人住宅）
薬井北山地区（くすりいきたやまちく）	奈良県北葛城郡（ならけんきたかつらぎぐん） 河合町薬井（かわいちょうくすりい）	29427		34　35　19	135　42　40	2012年2月13日 ～3月14日	118.00	遺跡有無確認 （造成工事に伴う試掘）
大輪田・城内遺跡（おおわだ　じょうないせき）	奈良県北葛城郡（ならけんきたかつらぎぐん） 河合町大輪田（かわいちょうおおわだ）	29427	004	34　35　26	135　43　20	2013年8月5日 ～8月7日 10月7日 ～10月9日	51.00	緊急発掘 （寺院）
高山３号墳（たかやまさんごうふん） （高山塚３号古墳（たかやまづかさんごうこふん））	奈良県北葛城郡（ならけんきたかつらぎぐん） 河合町穴闇（かわいちょうなぐら）	29427	026	34　35　15	135　44　22	2013年10月28日 ～11月14日	38.00	緊急発掘 （個人住宅）

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川合遺跡大西地区	遺物散布地			埴輪　須恵器　土師器　瓦　瓦器 石製品	第２次調査 町内の発掘調査で初めて 石包丁出土
薬井北山地区	遺物散布地	古墳		須恵器　土師器　瓦　陶磁器	
大輪田・城内遺跡	遺物散布地 城跡	中世、近世～近代	寺院基壇	土師器　瓦器　瓦　陶磁器	第２次調査
高山３号墳 （高山塚３号古墳）	古墳	古墳時代 中期	墳丘、周溝	埴輪　須恵器　土師器　瓦器 瓦質土器　陶磁器	第２次調査

2011・2013年度埋蔵文化財発掘調査報告書

－河合町文化財調査報告書　第21集－

2014年3月31日

編集
発行　河合町教育委員会

奈良県北葛城郡河合町池部２－１３－１

Tel 0745-57-2271

Fax 0745-57-1165

URL http://www.town.kawai.nara.jp/

E-mail syohgaigakusyu@town.kawai.lg.jp

印刷　株式会社　明新社